

第4章 中世大友府内町跡第99次調査

第1節 調査に至る経緯

高架側道
顕徳町跡

中世大友府内町跡第99次調査は、高架側道顕徳町跡の建設に伴い実施した。旧JR日豊本線の線路敷内にあたり、大分市顕徳町2丁目に位置する。

中世大友府内町
跡第10次調査

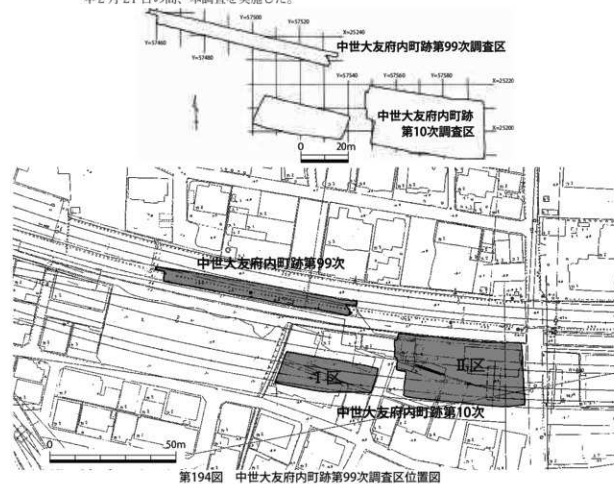
高架側道顕徳町跡は、高架化されたJR日豊本線の北側を高架に沿い東西に走る。市道顕徳古国府線東新町踏切跡以西の約300mについて、大分県土木建築部大分駅周辺総合整備事務所から平成24年度に確認調査依頼があった。側道予定地の内、東新町踏切跡から約100mは周知遺跡の中世大友府内町跡にあたる。近接地に、JR日豊本線高架線建設にあたり平成13、14年に調査が行われた中世大友府内町跡第10次調査区がある。10次調査区からは、キリシタン墓が検出され注目を集めた。これにより、10次調査区の北側一体に、「府内古図」に描かれるダイウス堂などのキリシタン施設が存在することが確認された。今回の側道予定地は、ダイウス堂推定地も含むため、調査着手前から重要遺構の検出が予想されるものであった。

確認調査

確認調査は、平成24年7月5日に実施した。梅雨期の雨天の間隙を縫った調査であったため、出水が激しく、遺構の確認に難渋した。調査の結果、造成土及び水田関連層の下部において、溝状の遺構を2箇所を確認することができた。しかし、東新町踏切跡から150m地点以西は、青白色粘土層の厚い堆積が認められるのみであった。また、東新町踏切から約70mの間は、道路予定地が金池都市下水路と重なるため、確認調査は行わなかった。

本調査

以上の結果を踏まえ、幅5.5m、長さ70mの調査区を設定し、平成24年10月16日～平成25年2月21日の間、本調査を実施した。



第194図 中世大友府内町跡第99次調査区位置図

第2節 調査区の位置と基本層序

1 調査区の位置と調査目的

99次調査区と
10次調査区

99次調査区(第194図)は、10次調査区の北～北西側に位置する。10次調査区はⅠ区とⅡ区に分かれており、Ⅱ区においてキリシタン墓と両側に側溝を有する道路跡を確認している。道路跡は概ね北西方向に伸びるが、直線的ではなく、緩やかに北方向に湾曲している。キリシタン墓は道路跡の北側にあり、ダイウス堂推定地の南限をこの道路跡にあてている。また、ダイウス堂推定地の西限は、99次調査区内の位置に当たる南北方向の地籍界が想定されている。

調査目的

99次調査にあたり、以下の点に留意し調査を開始した。(1)10次調査区で検出している道路跡延伸部の確認、(2)ダイウス堂推定地の西限確認、(3)キリシタン墓などのダイウス堂推定地内の遺構分布確認、(4)ダイウス堂西側の土地利用の確認、以上である。

2 基本層序

調査区の基本層序(第195図)について、調査区北側の土層のうち、層位的に遺構・遺物を確認することができた東端に近い部分の土層図で説明する。

Ⅰ層

Ⅰ層 日豊本線敷設に伴う盛土層である。層厚は約1mを測るが、通信用ケーブルなど線路敷内における諸施設建設に伴う掘り込みなどが多数みられ、これらの中には、Ⅱ層やⅢ層に及ぶものもあった。

Ⅱ層

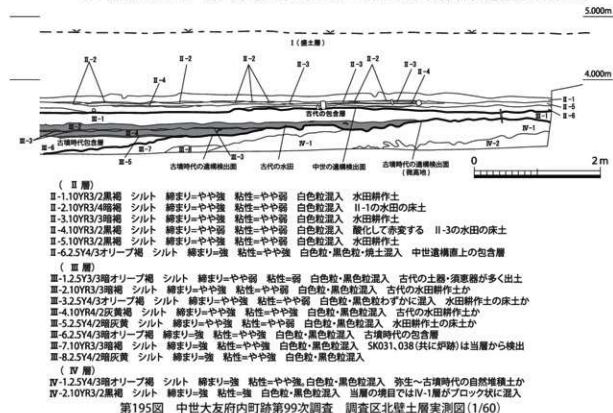
Ⅱ層 近世から日豊本線が敷設される大正3年(1914年)までの水田層である。ここでは最低3枚の水田層が確認できる。しかし、調査区西側ではさらに多くに水田層が確認でき、5～7枚を数える。

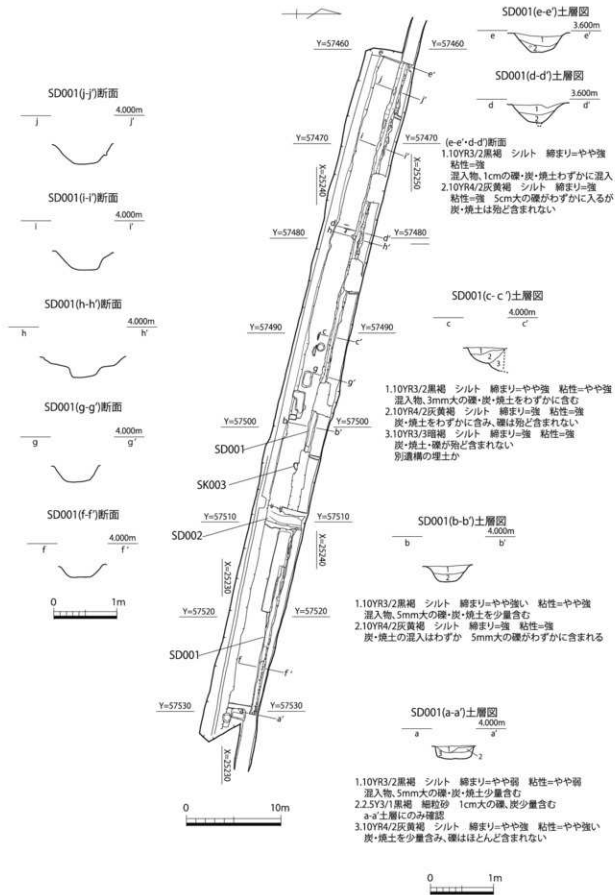
Ⅲ層

Ⅲ層 最上層のⅢ-Ⅰ層は、中世と古代の遺構検出面である。検出面の標高は、約3.5mを測る。このⅢ層はいくつかに細分でき、Ⅲ-1層には古代の土器が含まれる。また、Ⅲ-2～Ⅲ-5層は水田関連層と思われる。水田層の時期は、古墳時代後期から古代の間と考えられる。

Ⅳ層

Ⅳ層 自然堆積層と考えられる層で、西に向かい低くなる。調査区周辺の現状地形が西に向かい若干低くなることと一致する。最上層にあたるⅣ-1層上面は、古墳時代の遺構検出面となる。





第196図 中世大友府内町跡第99次調査 近代遺構配置図(1/400・1/60)

第3節 遺構と遺物

1 近代

日豊本線敷設に伴う盛土層（1層）直下において、溝などの遺構を確認した（第196図）。

(1) 溝

2本の溝

SD001

直線的な溝

SD001（第196図）は調査区に沿い東西方向にのびる。日豊本線に沿い直線的に走ることから、線路敷建設後に掘られた溝と理解される。溝の北側に線路敷があり、ある段階で線路敷が拡幅され埋没したものと考えられる。溝は幅0.6～0.8m、深さ0.2～0.3mで断面U字形を呈する。

遺物

遺物（第197図）は小破片が多く、器形が分かるものは少ない。1、2は関西系陶器土瓶蓋で、18世紀後半以降に比定できる。1は外面中位以下と底部に施釉がみられ、それ以外は露胎である。2には球状の掘みが付くもので、上面のみ施釉される。3は陶器鉢である。



第197図 中世大友府内町跡第99次調査 SD001出土遺物(1/3)

SD002

SD001に直交

SD002（第196図）はSD001に直交するもので、近世の所産であるSD004と同位置に掘られている。現在のヒューム管埋設に伴う掘削で大半が削平されている（第209図）。

2 近世

近世から近代にかけての畦畔、溝、水田層などを確認した（第199図）。

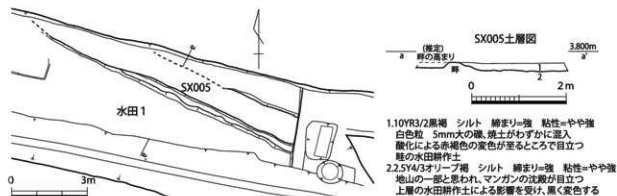
(1) 畦畔

SX005

地山削り出し

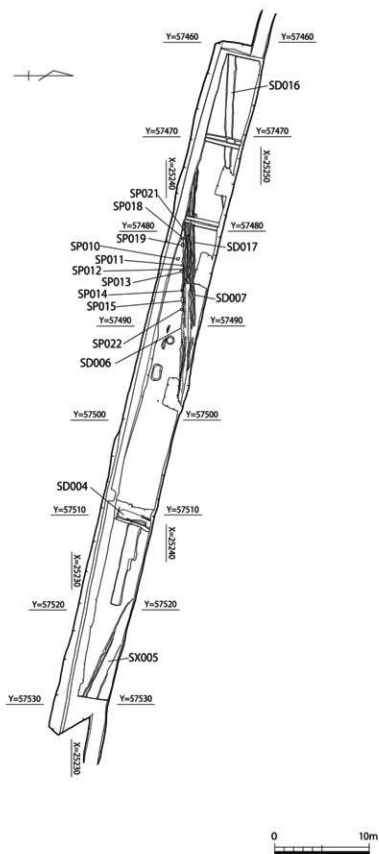
SX005（第198図）は地山削り出しによる畦畔で、上面の幅が約1mである。道を兼ねる大畦畔と思われる、ほぼ直線的にのびる。しかし、西に行くにつれ削り出しが顕著でなくなる。その方位はN60°Wである。本畦畔は、近世最古の水田に伴うもので、それ以降の水田の段階には、同位置に畦畔は作られない。

近世最古

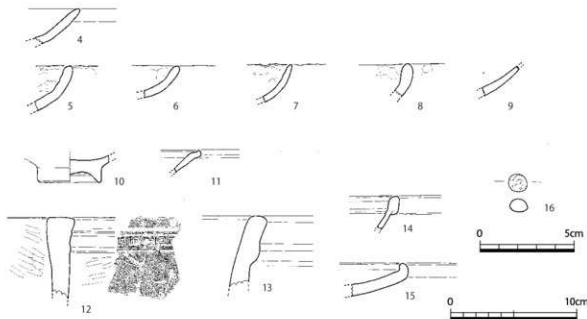


第198図 中世大友府内町跡第99次調査 SX005実測図(1/150-1/80)

1.10YR3/2黒褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強
 白色粒 5mm大の礫、礫土がわずかに混入
 酸化による赤褐色の紫色が重なるところで目立つ
 層の水田耕作土
 2.2.5Y4/3オリーブ褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強
 地山の一部と思われる、マンガンの沈殿が目立つ
 上層の水田耕作土による影響を受け、黒く変色する



出土遺物 SX005に伴う水田層から出土した遺物(第200図)を紹介する。4は京都市系土師器で16世紀後半の所産。5~9は埴塼である。表面に青緑色の滓が付着することから、青銅製品の製作に係わるものと考えられる。10は唐津系陶器碗である。畳付以外は灰白色の釉がかかる。11は唐津系の溝緑皿の口縁部である。12、13は瓦質土器である。12は16世紀代の火鉢で、スタンプ文様が施される。13は甕で、口縁部が肥厚する。14は陶器鉢、15は備前焼の皿である。16は鉄砲の弾である。



第200図 中世大友府内町跡第99次調査 SX005出土遺物(1/3,16のみ1/2)

(2) 溝

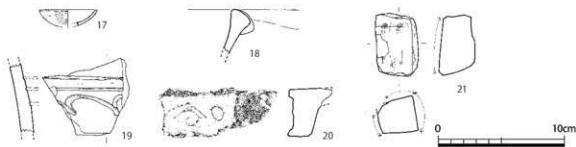
用排水路 水田に伴う用排水路の役割を担っていたと考えられる溝を確認した。これらは、同位置に重複するように作られており、近世から近代にかけての長期間にわたり、水田区画などが継承されてきたことが分かる。

SD004

南北方向 SD004(第199図)は南北方向に走る溝である。現在のヒューム管理設による掘削で削平されているため全容は不明だが、幅1m程の規模があったものと思われる。数度にわたる掘り直しが確認でき(第209図)、長い期間機能したことが分かる。この場所は中世の道路側溝であるSD025があった場所で、これを引き継ぐかたちで作られ、近代にはほぼ同位置にSD002が掘られる。

長期間同位置

出土遺物(第201図)のうち、17は白磁紅皿である。外面下半は露胎となる。18は瓦質土器こね鉢である。19は唐津系陶器甕である。外面に褐色の釉が施される。20は軒平瓦で、唐草文様がみられる。21は砥石である。



第201図 中世大友府内町跡第99次調査 SD004出土遺物(1/3)

SD016

規模 SD016 (第202図)は調査区西端に位置する。調査区内に始まり、直線的に西方向にのみ調査区外に及ぶ。幅0.6～0.8mで、後述するSD006、SD007などに比べると若干規模が小さい。また、深さは上部がやや削平されている可能性があるものの、約0.1mと比較的浅い。また、溝の断面は逆台形ないしはU字形を呈する。

方位 溝は、中世の道路遺構(SF024)の北側側溝であるSD023のさらに北側の位置にあり、位置的には中世の溝を継承していないことが分かる。しかし、方位的にはN88°Wで、ほぼ同一方位をとっており、またSD006などとも平行するなど、全体として中世の地割の影響を強く受けている。

最下層水田 層的には近世の最下層水田に伴うものである。南側約3mを平行するかたちで掘られた溝(SD017、SD007、SD006)のうち、最下層のSD017と同時存在していたものと思われる。しかし、南側の溝が同位置で継続的に継承されていったのに対し、SD016は継承されることなく、最古段階でその役割を終えてしまう。また、南側の溝は東方向に向け伸びるが、SD016は東に続くことなく、途中で終わっている。

用排水路 水田耕作に係わる用排水路としての性格を有すると考えられるが、強い関連性がうかがえる南側の溝(SD017、SD007、SD006)とは機能的に若干の差があった可能性もある。

SD006、SD007、SD017

SD006、SD007、SD017(第202、203図)は、同位置において継続的に掘られた溝である。年代的には、SD017→SD007→SD006と変遷する。

中世道路遺構 溝は中世の道路遺構であるSF024の上の位置に掘られており、南側の道路側溝であるSD025を位置的に継承していない。これについては、前述したSD016と同様である。また、SD006、SD007、SD017は概ね同位置であるが、時代が下るにつれ、重複しながらやや南に傾く傾向にある。方位はN0°Wで、前述したSD016とほぼ平行する関係にある。以下、年代の古い順に説明する。

SD017 中世道路側溝 SD017(第202図)は、中世の道路遺構であるSF024の上に位置する。SD017が掘削される段階には、SF024に伴う両側の道路側溝(SD023、SD025)は完全に埋没している。SD017は、北側側溝であるSD023の南側の肩を一部切るかたちで掘られていることが、土層(第220図②)の観察で明らかである。溝は、次の段階の溝であるSD007により切られるため、一部において南側の肩が残存しない。残存部からその規模を推定すると、幅0.4～0.5m、深さ約0.1mである。断面はU字形を呈する。溝の北側はほとんど水田になっていたと思われるが、南側は水田がはじまるまでに約0.6mの間隔があったであろうことが分かる。SD017の南側に後続するSD007、SD006が掘削されているため、SD017掘削時の状況はそのまま残存しない。ただ、南側の水田層の状況から、SD017の南側に連続して水田が形成されたとは考えにくい。SD017の掘削時期を特定することはできないが、近世の比較的早い段階であったと思われる。この時、16世紀段階で存在した道路両側の側溝は完全に埋没していたが、道路遺構はまだ機能していた可能性が高い。そのため、概ね道路遺構と同方位の溝SD017が掘られ、周辺の水田化が図られたものであろう。従って、SD017の段階には、溝のすぐ南側に大畦畔の役割も有する幅約0.6mの道路が残っていたと推定される。SD017からの出土遺物は少量かつ小破片のものばかりで図示することはできなかった。

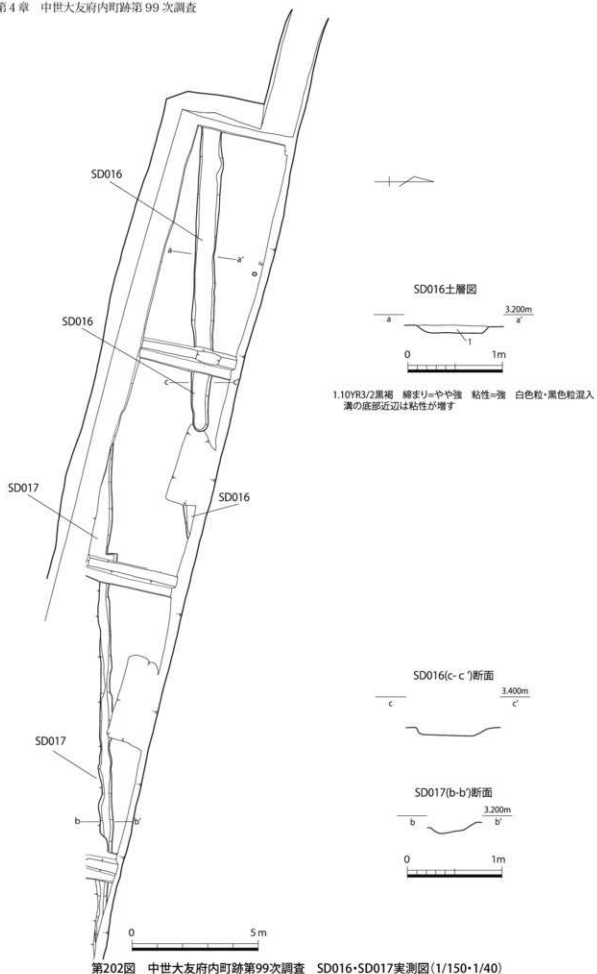
規模 SD007は、前身のSD017と半分重複する。SD017が埋没した後、その南側の肩を切るように位置を若干南に移している。平面的な位置は、次段階の掘削であるSD006とほとんど重複する。SD006に切られるため内容は不明であるが、その規模は概ね幅0.8m、深さ0.2mで、断面形はU字形ないしは逆台形を呈する。前段階のSD017の時期には、溝と南側の水田の間に大畦畔を兼ねた道路が存在したと推測された。しかし、SD007はその位置がSD017に比べやや南に移り、か

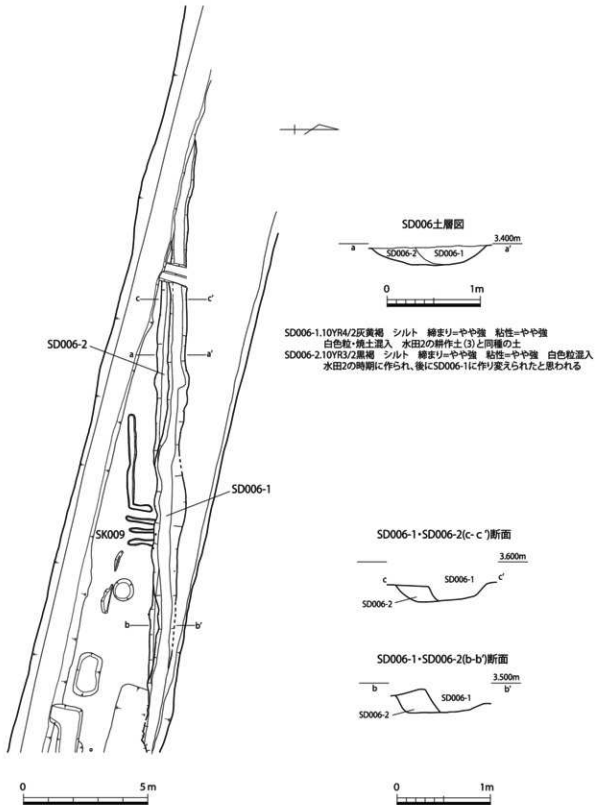
掘削時期

大畦畔、道路出土遺物

SD007

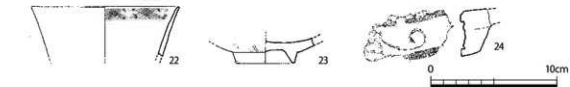
規模





第203図 中世大友府内町跡第99次調査 SD006・SK009実測図(1/150・1/40)

つ規模も大きいことから、道路は存在しないであろうことが土層の観察（第220図②）から推察される。溝の北側については、溝から連続して水田層となっている。出土遺物（第204図）は少量で、小破片が主であった。そのうち、図示可能なものについて紹介する。22は肥前染付碗である。外面は無文で、内面口縁部に四方弾文が施される。23は白磁碗の底部である。高台は断面三角形で、外面は露脂である。24は軒平瓦で、唐草文が施される。

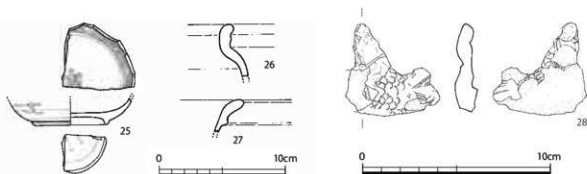


第204図 中世大友府内町跡第99次調査 SD007出土遺物(1/3)

SD006 第203図)は、前段階のSD007と重複するものの、全体をやや南に移して掘削が行われている。また、1回の掘り直しが認められ、SD006-1が古く、SD006-2が新しい。全体としては、ほぼ直線的に伸びるが、遺構ラインは大きく屈曲する箇所も多くあり、整然とした印象ではない。最終段階の溝の規模は、幅0.7~1.2m、深さ約0.3mである。断面形は、U字形ないしは緩やかな逆台形を呈する。幅については、場所により差が著しい。これは、溝の使用期間中に、幾度となく部分的な補修や改修が行われた結果であろう。溝の埋土は、シルト質で比較的粘性が強く、層には砂の堆積もみられる。土層観察（第220図②）によれば、最終のSD006-2は、前段階のSD006-1に伴うであろうと思われる水田層を切って掘られている。そして、溝の北側は溝から連続して水田層がある。南側は、SD001に切られているため、水田層とのつながりが不明であるが、おそらく溝から連続するように水田層になっていたものと思われる。前述したSD007の段階と同じように、溝に沿った道などは存在しなかったようである。出土遺物（第205、206図）は、やはり小破片が多い。ここでは、図示可能なものについて紹介する。25は肥前磁器染付皿で、口縁部に欠く。外面には唐草文の一部と思われるものがみられる。内面は、見込み部中央にコンヤク印判のよき五弁花文がある。また、圏線に続き体部には、呉須の中に白地線を残す文様が施される。墨弾きの技法を用いたものか。製作年代は18世紀と考えられる。26は備前焼壺である。撫で肩の体部から頸部が短く立ち、口縁部がわずかに外方に折れる。中世の所産と思われる、流れ込みであろう。27は唐津系陶器鉢である。口縁部資料であるが、小破片のため口径などは不明である。口縁端部は丸く肥厚し、外方に折れる。外面には断面三角形の突起が付く。28は土人形である。破損や表面の剥落が著しいため、定かでない部分もあるが、魚に乗った人物であると思われる。魚部分には鱗状の文様が表現されている。頭部を欠くが、尾の形状は残る。この魚に人物が跨っている。顔はやや斜めを向いているようであるが、全体に破損が著しく詳細は不明である。以上から、SD006の掘削は18世紀以降と考えられ、近世のSD001との関係から、おそらく近世まで存続していたものと推察できる。

出土遺物

SD006の時期



第205図 中世大友府内町跡第99次調査 SD006出土遺物(1)(1/3)

第206図 中世大友府内町跡第99次調査 SD006出土遺物(2)(1/2)

(3) 水田

中世の遺構が埋没した後、調査区内は基本的に水田化される。これらは、先に示した基本層序のⅡ層にあたる。東西に長い調査区内では、場所により水田枚数が異なる。これは、旧地形が東から西へ、また北から南へと傾斜していることも深く関係する。よって、調査区内の地点により水田の状況が異なるようである。また、前段で紹介した畦畔や用排水路と考えられる溝は、水田遺構と一体となって存在するものである。ここでは、調査区内での水田の変遷を整理する。

1 段階

畦畔：SX005、溝：SD004、SD016、SD017

中世の遺構が埋没後、最初に造成される水田である。造成の時期をこれら遺構の出土遺物で特定することはできない。ただし、16世紀末には埋没したと思われる道路遺構（SF024）や道路側溝（SD025）を切り込むSK026よりも後出することが、遺構の切り合いや層位から確認できる。中世大友府内町跡が所在する地域の全面水田化は、近世の初瀬井路整備以後と一般的には考えられており、1段階の間田時期も、これ以後と考えるのが妥当であろう。溝のうちSD016は途中で切れているため、補助的あるいは一時的な溝と思われる。これに対しSD017は、2段階以後も同位置で溝が維持されることから、用排水路の機能を有するものであった可能性が高い。また、SD004も同位置での掘り直しが認められることから、SD017に接続する用排水路であったと推察される。SD017は中世道路遺構（SF024）上をトレースするように掘削されており、溝の南側には平行して大畦畔の役割をもつ道が付く。水田地割が中世の地割を見事に引き継いでいることが分かる。ちなみに、このラインは明治時代の地籍界としても確認することができる。SD017は北側調査区外にぬけるが、中世の道路遺構は屈曲し南側調査区外にぬける。よって、中世の遺構ラインが全てそのまま近世に継承されているわけでもない。また、畦畔のSX005についても中世遺構とは全く関係なく作られている。水田個別については平面的に捉える調査を行わず、土層を確認している。SD017及びこれに平行する大畦畔ないしは道の南側に広がるのが水田2（第220図）であるが、SD017の北側に広がる水田は次段階の掘削等で残存しない。また、SX005の北側にみられるのが水田1（第198図）である。

2 段階

溝：SD004、SD007

1段階でみられた畦畔のSX005はみられなくなり、水田1が拡張され1枚の水田となる。何らかの理由で水田区割りの変更がなされたものであろう。しかし、SD004は掘り直しが行われ当初の位置に、またSD007は1段階のSD017と重複しながらやや南に移動して掘削される。しかし、方位は前段階をそのまま引き継ぐ。よって、SD004以西の水田区割りは1段階のままであったことが分かる。ただ、大きく異なるのは、1段階のSD017の南側にあった大畦畔がなくなり、SD007に隣接して水田が広がる。この段階の水田を土層（第220図）で示すと、SD007の南側が水田2、北側が水田3である。

3 段階

溝：SD004、SD006

2本の溝とも2段階を引き継ぐ。よって、水田区割りは2段階のままである。SD006が18世紀以降の掘削と考えられることから、本段階の大凡の時期が推定できる。この段階の水田を土層（第220図）で示すと、SD006の南側が水田4、北側が水田5である。また、SD004の東側は2段階の水田が引き継がれる。

旧地形

初瀬井路

SD016

SD017

SD004

地籍図界

SX005

SD004

SD007

SD006

3 中世

田層上面 中世の遺構は、II層（近世水田層）除去後のIII層上面で確認することができた。本調査区は、キリシタン墓や道路遺構が出土した中世大友府内町跡第10次調査区に近接しているため、第2節1で述べた4点に留意し調査を開始した。

道路遺構 道路跡延伸部の確認については、道路遺構（SF024）とそれに伴う両側側溝（SD023、SD025）を検出した。しかし、これらは当初の予想に反して、東西方向に直線的に伸びるのではなく、大きく屈曲していた。

ダイウス堂西限 ダイウス堂推定地の西限確認については、柵列等の西を限る施設そのものは確認できなかった。しかし、道路遺構が大きく屈曲する部分が、西限と密接な関係があるものと推測できるにいたった。

ダイウス堂内 キリシタン墓などのダイウス堂推定地内における遺構確認については、当初の予想に反して全く遺構を検出することができなかった。ダイウス堂内に畝あるいは空閑地など、遺構を伴わない利用があったことを確認することができた。

ダイウス堂西側 ダイウス堂西側の土地利用確認については、具体的な遺構は確認できなかったが、状況を推測できるデータを得た。

土坑、整地層 以上のほか、土坑（SK026）や整地層（SX008）などを検出した。これらについては、時期的には近世に位置づけられるものもあるが、中世遺構と密接に関連すると考えられることから、ここで紹介する。

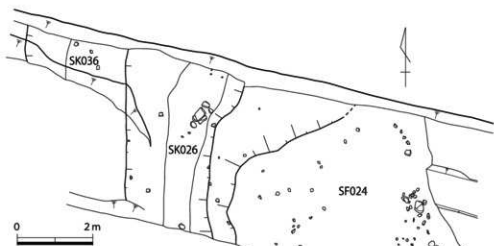
(1) 土坑

SK026

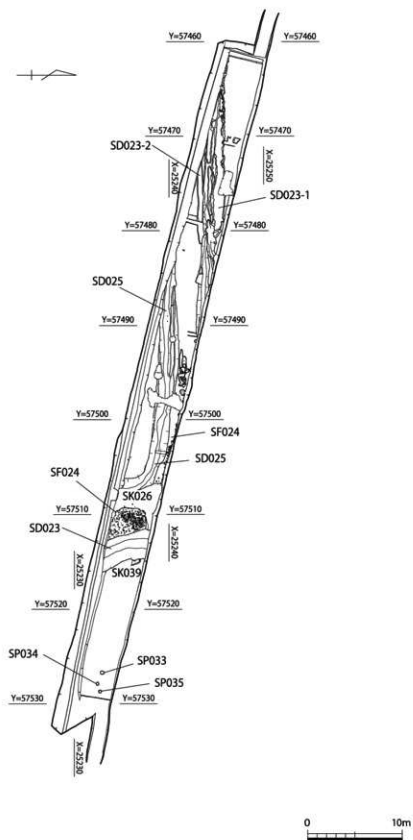
SK026（第207、209図）は、道路遺構（SF024）が屈曲し南北方向にのびる位置にある。

SF024が廃絶し、それと同時に西側の道路側溝であるSD025と東側の道路側溝であるSD023が埋没する。その後、SD023とSF024の上部が整地層であるSX008により覆われるが、これらを切り込むかたちで、SK026が掘削されている。この部分は、近代のSD002や近世のSD004などの水田に伴う溝が南北方向に掘られる。これらの溝は、概ね中世の道路側溝であるSD025の位置を踏襲している。ここは道路遺構が大きく屈曲している箇所で、ダイウス堂の西限と密接に関係すると考えられる。中世の地割が近代まで引き継がれ、地籍界になっている。SK026はこれらの溝と同様な位置にあり、中世遺構と近世以降の水田遺構の間に位置づけられる遺構である。

大型土坑 SK026は、遺構が南北とも調査区外に及んでいるため全容は不明であるが、かなり大型の遺構である。ここでは土坑としたが、南北方向に伸びる溝状の遺構になることも考えられる。西側の遺構ラインは直線的で、西側の道路側溝（SD025）や道路遺構（SF024）に掘り込まれる土坑（SK036、



第207図 中世大友府内町跡第99次調査 SF024・SK026・SK036実測図(1/100)



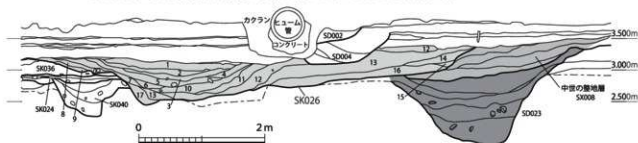
第208図 中世大友府内町跡第99次調査 中世遺構配置図(1/400)

SK040)を切る。一方、東側の遺構ラインは大きく屈曲し、道路遺構(SF024)や整地層(SX008)を切り込む。遺構の立ち上がりについて、西側は中程まで斜方向にやや急に立ち上がり、その後極めて緩やかになる。東側も比較的緩やかに立ち上がる。底面はやや凹凸がみられる部分もあるが、比較的平坦である。規模は東西幅が3~6m、南北が4.5m以上、深さ0.4~0.8mである。遺物については多くが流れ込みの状態で、散発的ではあるが出土した。

規模

土層堆積状況

土層堆積状況(第209図)を見てみると、東側が比較的早く埋没し、前段階に道路の西側側溝SKD025があった部分が最後まで残り埋まっていたことが分かる。



SK026

- | | | | | | | | | |
|-----------------|-------|---------|--------|--------------|------------------|-------|---------|---------|
| 1.10YR3/2黒褐 | シルト | 締まり=強 | 粘性=やや強 | 白色粒・黒色粒混入 | 10.10YR3/1黒褐 | シルト | 締まり=強 | 粘性=やや強 |
| 2.2.5Y3/2黒褐 | シルト | 締まり=強 | 粘性=やや強 | 白色粒・黒色粒・焼土混入 | 11.2.5Y3/3暗オリーブ褐 | シルト | 締まり=やや強 | 粘性=やや弱 |
| 3.10YR3/2黒褐 | シルト | 締まり=強 | 粘性=やや強 | 白色粒・黒色粒・焼土混入 | 12.10YR3/1黒褐 | シルト | 締まり=やや強 | 粘性=やや強 |
| 4.10YR3/1黒褐 | シルト | 締まり=強 | 粘性=やや強 | 白色粒・黒色粒・焼土混入 | 13.10YR3/2黒褐 | シルト | 締まり=やや強 | 粘性=やや強 |
| 5.10YR3/2黒褐 | シルト | 締まり=強 | 粘性=やや強 | 白色粒・黒色粒・焼土混入 | 14.10YR3/3暗褐 | シルト | 締まり=強 | 粘性=やや強 |
| 直径10cm以上の礫層 | | | | | 15.10YR3/2黒褐 | シルト | 締まり=やや強 | 粘性=やや弱 |
| 6.2.5Y3/3暗オリーブ褐 | シルト | 締まり=強 | 粘性=やや強 | 白色粒・黒色粒・灰混入 | 16.10YR2/3黒褐 | シルト | 締まり=強 | 粘性=強 |
| 7.10YR3/2黒褐 | 砂質シルト | 締まり=やや強 | 粘性=弱 | | 17.10YR3/1黒褐 | 粘質シルト | 締まり=強 | 粘質=非常に強 |
| 8.10YR3/1黒褐 | シルト | 締まり=強 | 粘性=やや強 | | | | | |
| 9.2.5Y3/3暗オリーブ褐 | シルト | 締まり=やや強 | 粘性=やや弱 | | | | | |

第209図 中世大友府内町跡第99次調査 SK026土層実測図(1/60)

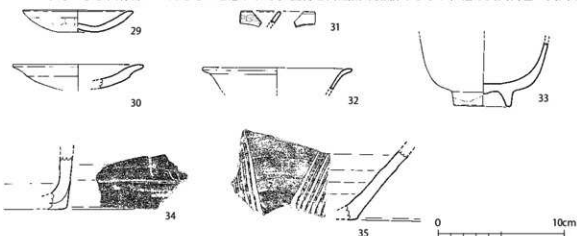
出土遺物 出土遺物(第210、211図)には、京都系土師器、陶磁器、瓦質土器、備前焼などがある。

京都系土師器

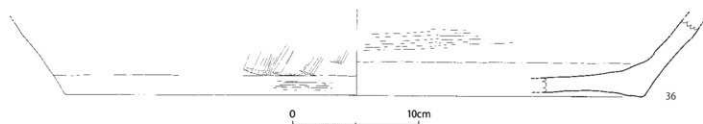
29、30は京都系土師器である。29は復元口径8.6cmを測るものである。比較的厚手で、底部はやや上げ底気味である。体部は内湾気味で、そのまま口縁部にいたる。口縁部はやや尖り気味である。30は復元口径10.4cmを測るもので、やはり厚手である。口縁部周辺に強いナデが施され、口縁部が外反する。

陶磁器

31~33は陶磁器である。31は中国産青花碗である。二次焼成を受けており色調に変色が認められる。外面口縁下に界線が、また内面口縁下に文様が施される。32は中国産青磁碗である。内外面とも緑灰色の釉がかかる。釉には貫入がみられる。口縁部は端反りである。33は陶胎の碗で、検出面近くの最上層から出土した。高台は比較的高くしっかりしている。体部は直線的に立ち上がりそのまま口縁部にいたるものと思われる。畳付と外底面は露胎であるが、他は灰黄褐色の貫入が



第210図 中世大友府内町跡第99次調査 SK026出土遺物(1)(1/3)



第211図 中世大友府内町跡第99次調査 SK026出土遺物(2) (1/4)

入る軸がかかる。

34は瓦質土器火鉢の底部である。底部からやや上部に軽い段があり、段に沿ってイスタンプ文がある。

35、36は備前焼である。35は播鉢で、内面に7本以上の摺り目がみられる。36は裏の底部である。

以上の出土遺物から、本遺構の最終埋没時期は近世に入ると考えられる。

瓦質土器
備前焼

(2) 整地層

SX008

SX008(第209, 214図)は、道路遺構(SF024)が屈曲する部分において、東側の道路側溝(SD023)がほぼ埋没した後に、東側の地山との段を解消するために、SF024とSD023の両者を覆うように整地作業が行われている。土はダイウス堂側から流入しており、SD023に沿って土塁が存在した可能性が考えられる。整地が西側側溝のSD025まで及んだかは、SK026が摺り込まれているため不明である。

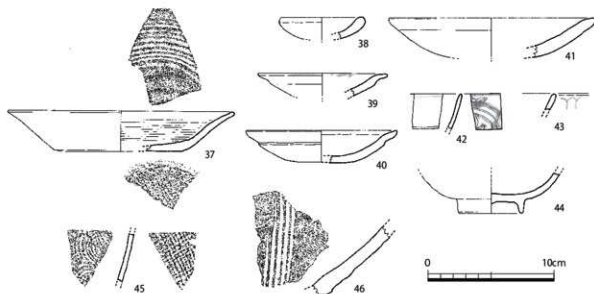
土塁

出土遺物

出土遺物(第212図)のうち、37はロクロ痕を残す土師質土器で、ロクロ痕は口縁部を除く内面体部のみにもみられる。ロクロ痕を有する土師質土器のなかでも最新段階のものである。38は増埒と思われ、内面に被熱による色調の変化が顕著に認められる。39～41は京都系土師器である。いずれも器壁が厚いもので、39、40は口縁部周辺が強くナデられ、短く外反する。42は中国産青花碗である。外面の文様は輪郭を描いた後に、濃みがいいる。器形は饅頭心タイプのもと思われる。43は中国産青磁碗である。外面に剣先連弁文がみられる。44は陶器碗である。甞付は露胎であるが、他は内外面とも灰黄色の軸がかけられる。45は須恵器裏の破片である。46は備前焼播鉢である。内面には5本の摺り目がみられる。

形成時期

以上の出土遺物には古いものも混入するが、整地層形成の時期は、近世初頭頃と考えられる。



第212図 中世大友府内町跡第99次調査 SX008出土遺物(1/3)

(3) 道路遺構

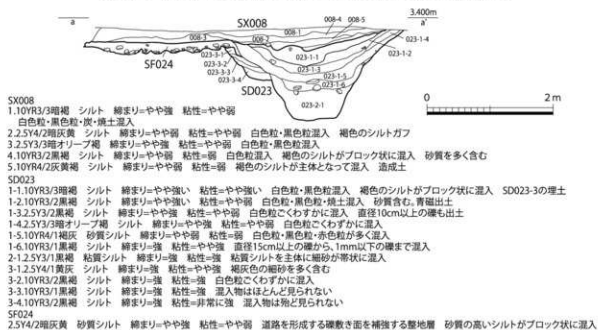
中世大友府内町跡第10次調査で検出されていた道路遺構の延伸部と考えられる遺構を確認した。

SF024

SF024 (第213、214図)は、10次調査で確認されている道路遺構の続きと思われる。10次調査区の道路が北西方向にのびていたため、本調査区でも同様な方位で検出できるものと考えていた。しかし、本調査区では南北方向で検出された後、一度北側調査区外に及び、再び北東から南西方向

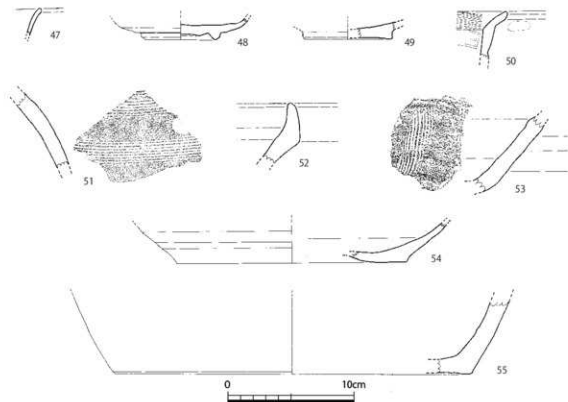


第213図 中世大友府内町跡第99次調査 SD023・SF024・SK039実測図(1/60)

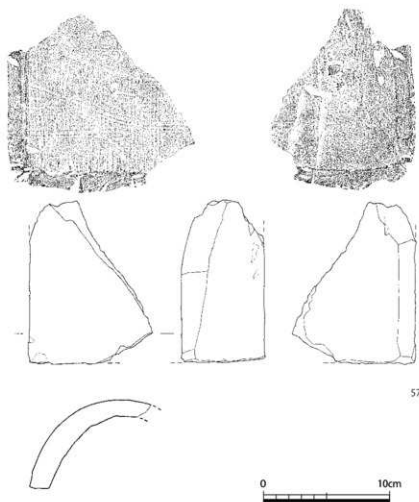
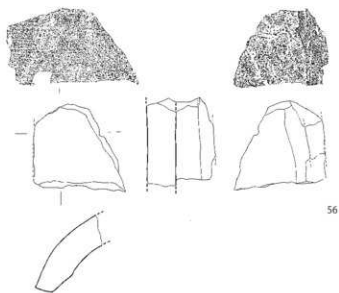


第214図 中世大友府内町跡第99次調査 SX008・SD023・SF024土層実測図(1/60)

屈曲	<p>に向けて直線的にのびる状況で確認することができた。これらの状況から、10次調査区からのびた道路は屈曲し、コーナー部を形成していることが分かる。そして、コーナー部から約5m北方向に伸びた後、今度は約90°屈曲し10次調査区の道路とは方位を全く異にし、N12°Eの方位で南西方向に伸びるという、やや複雑な構造をもつことが分かった。この構造は、南北にのびる道路の東側の施設と密接に係わると思われる。ここはダイウス堂推定地で、道路が南北方向にのびるラインは、ダイウス堂の西限と推定されている地籍界である。すなわち、ダイウス堂の南西コーナーに沿って、道路が屈曲していると理解することができる。</p>
側溝	<p>道路は両側に側溝（SD023、SD025）を有するもので、幅約2.8mを測る。道路面は、まず地山をおおよそ水平に整える。しかし、微妙な凹凸や浅い土坑状の落ちもみられる。その上に、径数～10cmの礫を砂とともに敷いており、その厚さは約0.1～0.2mである。また、場所により礫層の下部に白色粘土層が認められる箇所があり、砂礫を敷く前に白色粘土を敷いた所もあったことが分かる。白色粘土を敷いた後に礫で道路面を整える方法は、10次調査区の道路面でも確認されている。側溝については確実に何度かの掘り直しが認められる。そのうち、南北方向に道路が延びる部分の東側側溝であるSD023の土層図（第213図）をみると、道路側に残る最も古い溝埋土には、道路の整地に使用した礫の落ち込みが全く認められない。よって、砂礫で道路面を整地する以前に、砂礫を使用しない道路面があった可能性も考えられる。ただ、現状の道路断面を観察すると、道路面は基本的に1面しか確認することができない。10次調査区の道路遺構において硬化面が複数枚確認されている点とは、大きく異なる。道路面上の礫による整地は、南西方向にのびる部分でも一部認められるが、近世以降の遺構による削平でほとんど残存しない。しかし、両側の道路側溝に整地に用いた礫や砂の落ち込みがほとんど認められないことから、南西方向にのびる部分は、ダイウス堂に近い部分を除き、礫による整地が行われていなかった可能性が高い。</p>
SD023	
町外に至る道	この道路は、府内町の万寿寺北側から大夫館と御蔵場の間を通り町外にいたるものである。府内



第215図 中世大友府内町跡第99次調査 SF024出土遺物(1) (1/3)



第216図 中世大友府内町跡第99次調査 SF024出土遺物(2)(1/3)

『府内古図』町から西側の町外にのびる道については、『府内古図』A類によれば3本確認することができる。最も北に位置するのが、福田寺や来迎寺の北側の東西道路で、ニシウ町、辻之町、古川町、中之町、長池町を通り西側の町外にいたる。次に位置するのが、来迎寺と稲荷の間を走る東西道路で、坊ヶ小路町、横小路町、西小路町を通り、大雄院の北側から町外にいたる。そして最も南に位置するのが今回調査した道路で、堀之口町、林小路町を経て、ダイウス堂と祐向寺の間を通り町外に出ている。3本の道路のなかでは、今回調査した最も南の道路が、府内町内の主要施設から続く道路であることが分かる。『府内古図』では、いずれの道も町から直線的に町外に続くように描かれている。しかし、実際はやや複雑な形状をなすことが分かった。今回の道を町外から府内町に入ろうとすると、両側側溝を有する直線道路を進むとダイウス堂にぶつかる。ここを右折するが、しばらく行くと左折しなければならない。その後直進すると町内に入れる。このような2度の折れが形成されており、容易に町内に入ることができない。主要施設に直結する道のため、防御機能を念頭に置き意識的に作られたものなのか、今後検討する必要がある。

道路面からの出土遺物は極めて少量である。このうち、ある程度遺物がまとも出土したのは、南北方向に道が延びる砂礫整地層中である。以下、その遺物を紹介する。

出土遺物 (第215、216図)には、陶磁器、瓦質土器、備前焼、瓦がある。

陶磁器 47～49は陶磁器である。47は中国産青磁碗の口縁部である。小破片のため全形は不明であるが、口縁端部が丸くおさまられ、やや外反気味である。48は青磁碗の底部である。高台は低く、断面が三角形に近い形状をなす。内外面に貫入の入る軸がかけられるが、外面体部下から外底面にかけては露胎である。また、内面見込部には、輪状の軸ハギがみられる。49はベトナム産白磁碗の底部である。輪状高台ではなく、円盤状高台を呈する。内面には貫入の入る軸がかけられるが、外面は露胎である。50は瓦質土器土鍋である。体部から口縁部がくの字状に外方に折れ、口縁端部はやや尖り気味ながら丸くおさまられる。調整は、外面口縁部がヨコナデと指オサエ、内面に横方向の比較的細かなハゲ目が施される。13～14世紀代の所産である。51～55は備前焼である。51は壺である。肩部横走の櫛描文が2段にわたり施される。52は播鉢である。口縁部がほぼ垂直気味に立ちあがる。端部はやや尖り気味で、外面には凹線などはみられず無文である。53は播鉢の体部である。内面に1単位10条の摺り目がみられる。54は壺の底部と思われる。体部は器壁が比較的薄く仕上げられている。55は麩の底部と思われる。56、57はいずれも丸瓦の破片である。56は内面に布目痕が残る。また、端部に沿い内面にヘラ切りが施される。57は外面に縦あるいは斜方向の条線が残る。内面には布目痕がみられる。

(4) 溝

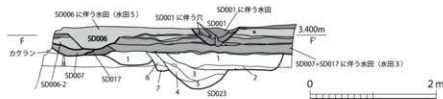
道路側溝 道路遺構であるSF024に伴う両側側溝を確認した。

SD023

SD023 (第208、213、214、217、218図)は、道路(SF024)の東側あるいは北側に位置する溝である。場所により溝の状況が大きく異なる。

SF024が南北に延びる箇所では、SD023は道路の東側に位置する。ダイウス堂の西端にあたることから、ダイウス堂の西側を画する施設の役割も担っていたと思われる。この南北ラインは、近世・近代にも農業用の溝が掘られ、現在でも地籍界として引き継がれている。この付近の溝の最終段階の規模は、幅2.6～2.8m、深さ約0.8mを測り、後段で述べた箇所とは規模的に大きく異なる。土層図(第214図)でも明らかのように、確実に2度の掘り直しが認められ、最低でも3回異なる溝の姿があったことになる。最古段階の状況は、道路側にわずかに残る層で確認されるのみで、規模等は不明である。この堆積層からは、道路面の整地に用いられた礫の落ち込みが確認でき

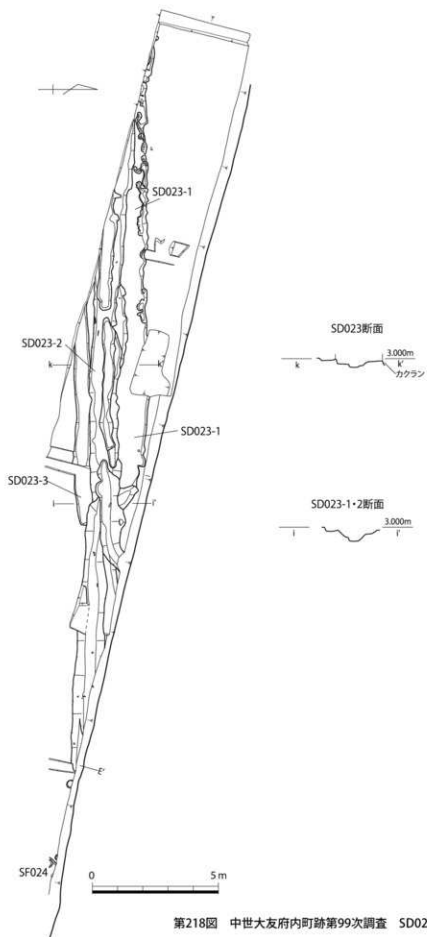
2段階	ず、砂礫による整地層が上面を覆うことから、当初の溝の段階には砂礫による道路面の整地が行われていなかった可能性がある。2段階は深さ約1.2mである。断面は逆台形を呈し、底面は自然遺物を含む青灰色粘土層に達することから、出水が著しい。2段階目の溝がある程度埋没した段階で掘り直しが行われ、3段階目の溝が掘られる。溝は2段階目よりも幅を広げたと考えられ約2.6～2.8mとなるが、深さは浅くなり約0.8mである。2段階目、3段階目とも道路面は砂礫による整地で道路面が整備されていたと考えられる。第10次調査では、道路に沿った溝の中に矢板が打ちこまれていたことが確認されているが、SD023では各段階とも矢板はみられない。
3段階	
東西方向掘り直し	東西方向に伸びる箇所では、北側の側溝にあたる。西に向かうにつれ浅くなり、ダイウス堂西側の箇所とは様相が大きく異なる。ここでは3度の掘り直しが認められ、重複しながら南から北に少しずつ移動しながら4段階にわたり掘られていることが分かる(第217図)。最古段階は、深さ約0.2mと最も浅い、幅は約1m程と思われる。2段階は残存部分が少ないが、深さは約0.3mである。3段階が最も深く約0.6mを測る、断面U字形を呈し、幅は約1.3m程であろう。最終段階は幅約1.8mと広がるが、深さは約0.25mと浅くなる。ここでも、矢板は確認することができなかった。
最古段階	
2段階	
3段階	
最終段階	
遺物出土状況	溝からの出土遺物は、南北方向にのびる部分からの出土が主であるが、量的にはそれほど多くない。また、東西方向に走る部分からは、遺物がほとんど出土しなかった。
出土遺物	出土遺物(第219図)には、土師質土器、陶磁器、瓦質土器、備前焼、土製品がある。
土師質土器	58～60は土師質土器である。58は底部系切りの在在地系土器小皿で、口径に比し器高が高い。59、60は京都系土師器で、やや厚めの器壁をもつ。60は増端として使用されており、内面に被熱と付着物が認められる。61～70は陶磁器である。61～64は中国産青花碗である。このうち61、63、64は漳州窯系である。62は口縁部端反である。65は中国産青花碗体部で、陰刻による文様がみられる。66は中国産青花皿である。口縁部端反りの小野正敏分類皿B1群に相当する。67は中国産青磁碗底部で、断面長方形の高台が付く。外底面のみ露胎で、他は明緑灰色の貫入の入る軸がかけられる。また、見込にはスタンプ文がみられる。68は中国産白磁碗で、口縁部が玉縁を呈する。69は中国産白磁皿である。体部下から外底面にかけて露胎である。高台は付かない。70は瀬戸美濃系天目茶碗である。71は東播系のこね鉢である。72は瓦質土器鉢である。口縁部が短くし字におれ、体部外面には横方向のヘラ削りが、また内面には横方向のヘラ磨きがみられる。
陶磁器	
瓦質土器	
備前焼	73～76は備前焼である。73は壺である。頸部は直立し、口縁部は玉縁状を呈する。74は搦鉢である。口縁部は直立気味であるが、口縁外面には凹線などはみられない。体部内面には8条1単位の摺り目が施される。75は甕である。口縁部の玉縁は球状にちかい形状を呈する。76は壺の底部と思われる。77は土製の錘である。
土製品	
時期	以上から、溝は16世紀末に機能を停止したであろうことが推察できる。



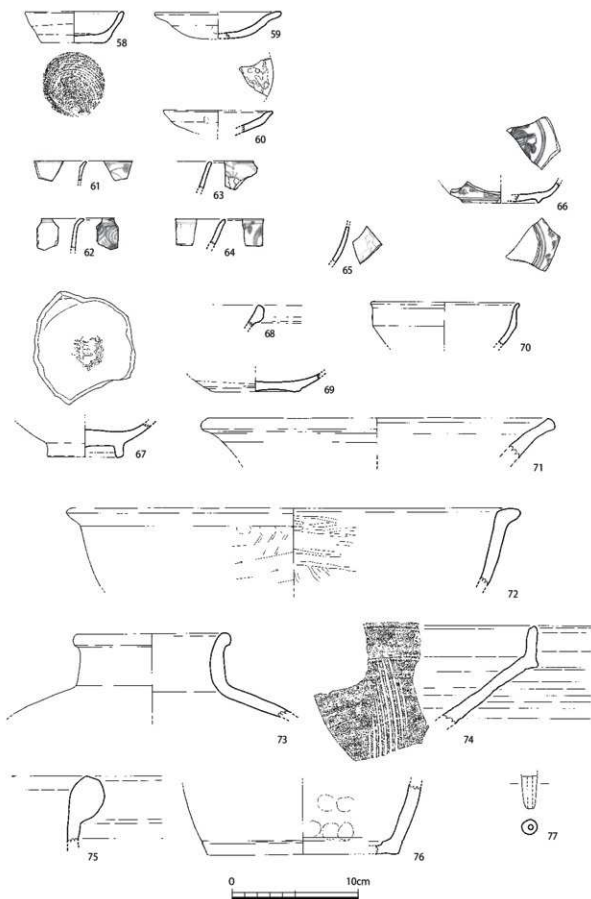
SD023

1. 10YR3/2黒褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強 白色粒・黒色粒混入
2. 10YR3/3暗褐 シルト 締まり=やや強 粘性=やや強 白色粒・炭混入
3. 10YR4/2灰黄褐 シルト 締まり=強 粘性=強 白色粒・黒色粒混入 やや砂質を含む
4. 10YR3/2黒褐 シルト 締まり=やや強 粘性=やや強 白色僅かに混入
5. 10YR2/2黒褐 シルト 締まり=やや強 粘性=強 白色粒とく量かに混入
6. 10YR3/2黒褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強 白色粒・黒色粒混入 砂質を含む
7. 10YR3/1黒褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強 白色粒・黒色粒混入

第217図 中世大友府内町跡第99次調査 SD023土層実測図(1/60)



第218図 中世大友府内町跡第99次調査 SD023実測図(1/150)



第219図 中世大友府内町跡第99次調査 SD023出土遺物(1/3)

SD025

SD025 (第208、220、221図)は、大きく屈曲する道路(SF024)の西側あるいは南側に位置する側溝である。

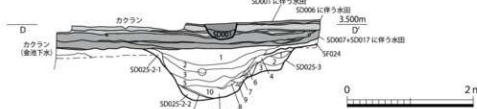
南北道路西側

道路(SF024)が南北にのびるダイウス堂西側の部分では、SD025は道路の西側に位置する。しかし、溝埋没後に、ほぼ同位置にSK026が掘り込まれており、この場所ではSD025は完全に削平されている。このSD025の東西方向のラインは現代まで引き継がれており、SD025→SK026→SD004→SD002→現在のヒューム管と、同位置において道橋が連絡と掘り込まれている。そして、明治時代以降は地籍界としてのラインにもなっている。

東西道路南側

道路(SF024)が東西にのびる部分では、SD025は道路の南側に位置する。ダイウス堂西側において、道路に沿うように南北方向から東西方向に大きく屈曲する。その屈曲部から西方へ約23mにわたりSD025を検出した。溝はほぼ直線的にのびる。反対側の側溝であるSD023が、南北方向から東西方向に屈曲した後は、溝の幅や深さが著しく減じるのに対し、SD025は調査区内においては規模を減じることなく続く。溝の断面は逆台形を呈する。溝の底は、SD023と同様に自然遺物を含む青灰色粘土層に達するため、出水が著しい。溝の規模を変えながら、数度の掘り直しが行

土層①



SD025-1

- 1.10YR3/2黒褐 シルト 締まり=やや強 粘性=やや強
白色粒・黒色粒・炭土混入
近世の水田耕作土として、攪乱を一部受けたと思われる
- 2.10YR3/3暗褐 シルト 締まり=やや強 粘性=やや強
- 3.10Y2/2黒褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強
- 4.10YR4/2灰黄褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強
白色粒・黒色粒・炭土混入
- 5.10YR3/2黒褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強 白色粒ごく僅かに混入
- 6.2.54/2暗灰黄 シルト 締まり=強 粘性=やや弱
- 7.10YR3/3暗褐 シルト 締まり=強 粘性=強
SF024の造成土の一部が入り込む
- 8.10YR4/2灰黄褐 シルト 締まり=強 粘性=やや弱
- 9.2.54/2暗灰黄 シルト 締まり=強 粘性=やや強
- 10.10YR4/1灰成 シルト 締まり=強 粘性=強い 白色粒・黒色粒混入
- 11.2.54/1黄灰 締まり=強い 粘性=強

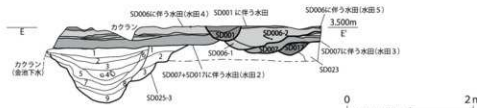
SD025-3

- 1.10YR3/2黒褐 シルト 締まり=やや強 粘性=やや強 白色粒混入
上層の水田耕作の影響で土壌が酸化によって赤変が見られる
- 2.10YR3/3暗褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強 白色粒・炭土混入
- 3.10YR2/2黒褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強
白色粒・黒色粒混入

SD025-2

- 1.10YR3/2黒褐 シルト 締まり=やや強 粘性=やや弱
白色粒僅かに混入 砂質含む
- 2.10YR3/3暗褐 シルト 締まり=やや強 粘性=やや弱
白色粒僅かに混入 1と比較して砂質の含みは弱い

土層②



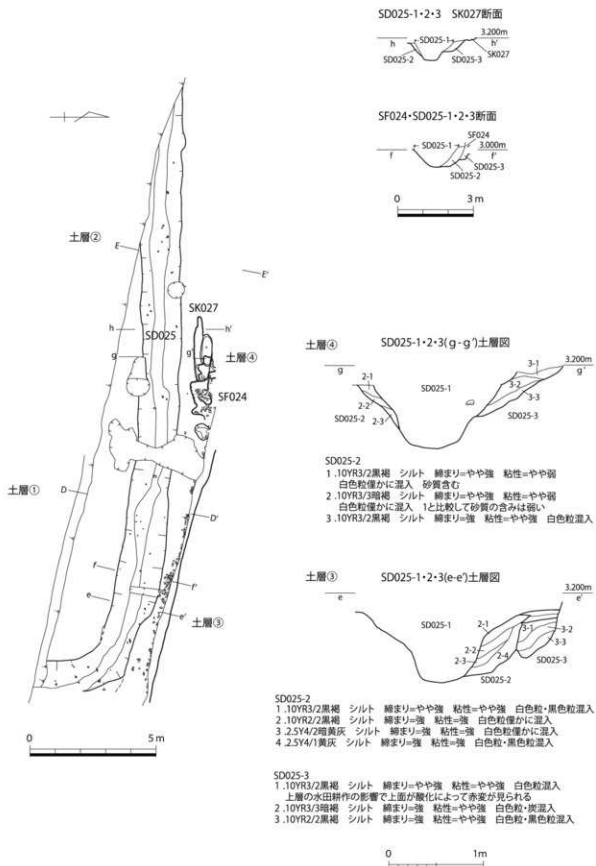
SD025-1

- 1.10YR3/3 シルト 締まり=強 粘性=やや弱 白色粒・黒色粒・炭土混入
- 2.10YR4/2灰黄褐 締まり=やや強 粘性=やや弱 白色粒・黒色粒混入
- 3.10YR3/2黒褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強 白色粒・黒色粒混入
- 4.10YR3/1黒褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強 白色粒・黒色粒・炭土混入
大型礫含む
- 5.10YR3/2黒褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強 白色粒・黒色粒・炭土混入
- 6.10YR3/3暗褐 シルト 締まり=やや強 粘性=やや弱 砂質を少量含む
- 7.10YR2/2黒褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強 白色粒ごくわずかに混入
- 8.10YR3/1黒褐 シルト 締まり=強 粘性=強 白色粒の混入がごくわずか
- 9.10YR3/2黒褐 シルト 締まり=強 粘性=強
混入物は殆ど見られず、マンガンが斑点状に沈殿

SD025-3

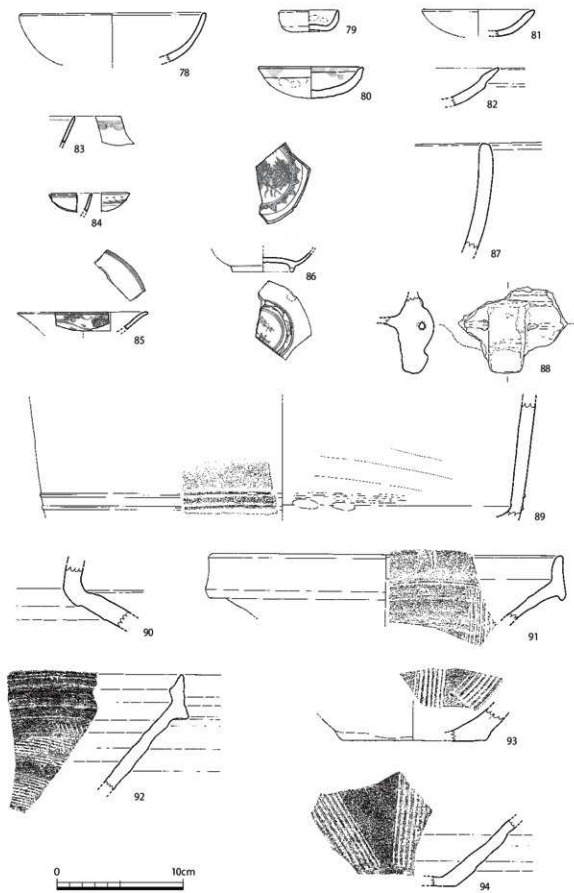
- 1.10YR3/2黒褐 シルト 締まり=やや強 粘性=やや強 白色粒混入
上層の水田耕作の影響で土壌が酸化によって赤変が見られる
- 2.10YR3/3暗褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強 白色粒・炭土混入
- 3.10YR2/2黒褐 シルト 締まり=強 粘性=やや強
白色粒・黒色粒混入

第220図 中世大友府内町跡第99次調査 SD025土層実測図(1/60)



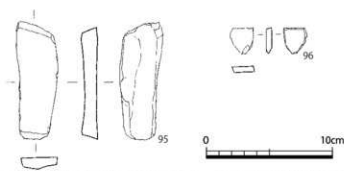
第221図 中世大友府内町跡第99次調査 SD025-1実測図(1/150=1/40)

土層① 1段階	認められる点はSD025同様である。土層図(第220図)で掘り直しの状況を確認する。土層①では、最低2度の掘り直しが行われていることが分かる。1段階は、道路に近い部分にのみ残存するもので、2段階以降の溝に大半は切られているため幅は不明である。しかし、深さは約0.4mと2段階以降に比べるとかなり浅かったことが分かる。2段階以降の道路面が、1段階の埋土上にみられることから、1段階は道路幅が少なくとも約0.5m狭かったと思われる。また、1段階の埋土には道路面の整地に用いた砂礫の落ち込みがみられないので、この段階には礫敷きの整地が行われていなかった可能性が考えられる。これについては、SD023の1段階埋土の観察でも同様な所見が得られている。2段階は幅約1.8m、深さ約0.8mの規模になる。道路面から白色粘土層の落ち込みが確認され、礫も埋土中にみられることから、道路面は白色粘土を敷いた後に砂礫により整地されていることが分かる。しかし、埋土中にみられる礫の量は、ダイウス堂西側のSD023での量に比べるとかなり少ない。このあたりの道路面の整地作業は、ダイウス堂西側よりも手を抜いた状況であった可能性がある。3段階は、2段階の溝がある程度埋没した後に掘り込まれる。規模は幅約2m、深さ約0.75mで、2段階に比較すると深さがわずかに減じている。土層②でも1度の掘り直しを確認することができる。1段階の埋土は道路に近い部分に残存する。掘り方はやや段がつくが、深さは約0.5mと思われる。幅については、2段階以降の掘削のため不明である。土層①の1段階同様に、深さが浅く、道路幅も狭かったことが分かる。土層①で確認された2段階目の溝は、3段階の溝の掘削により残存しない。3段階は幅約1.6m、深さ約0.9mである。道路幅が広がり、1段階の溝よりも深さが増す点は、土層①の部分と同じである。ただ、埋土中からは道路面の整地に用いた砂礫が全く出土せず、この付近では砂礫による道路の整地は行われなかったと考えられる。ダイウス堂部分の側埋土にみられる砂礫比べ、土層①の部分では砂礫が少なくなり、土層②の部分では全く砂礫がみられなくなる状況から、SF024の砂礫層による道路面の整地は、南北方から東西方向に屈曲したのち約10mまではかろうじて行われたが、それより西方については整地が行われていなかったものと推察される。このほか土層③、土層④でもSD025の掘り直しの状況が確認できる。土層③では、溝が規模を増しながら掘り直されている。それに伴い道路面が拡張する様子が分る。
3段階	
遺物出土状況	溝からの遺物は、ダイウス堂西側のSD023に比べると圧倒的に少なく、特に土層②の付近での出土は極めて少量である。これはSD023においても道路が東西方向に走る部分ではほとんど出土しなかったことと同様である。これは、ダイウス堂から離れると町外になり、施設が全く存在しないためと考えられる。
出土遺物	出土遺物(第222、223、224図)は、土師質土器、陶磁器、瓦質土器、備前焼、石製品、ガラス製品、銭貨がある。
土師質土器	78～82は土師質土器である。78は口径14.4cmを測るものである。底部は欠くが、体部は内湾気味に立ちあがる。79～82は京都系土師器である。83～86は中国産青花である。83は碗である。外面口縁下に文様が見られる。文様は、輪郭を描いた後に濃みがはいる。器形は饅頭心タイプのものであると思われる。84は皿で、碁笥底を呈するものであろう。85も皿である。口縁部は端反で小野正敏分類皿B1群に相当する。86は饅頭心タイプの碗である。見込みに花文が施され、外底面には「大□年造」の文字が入る。文様は、輪郭を描いた後に濃みをいれる。また、高台部は意識的に打ち欠かれている。87～89は瓦質土器である。87は鉢である。体部は内湾気味に直立し口縁部にいたる。口縁部は丸くおさまられる。内面にははいねいなへら磨きが施されている。88は火鉢の底部に付された裝飾脚部である。89は火鉢の底部ちかくである。2条の低い突帯が付され、突帯間に双頭鉄手文のスタンプ文が付される。外面には横方向のへら磨きが施される。90～94は備前焼である。90は大甕の頭部と思われる。体部から頭部が直立する。91は楯鉢である。口縁部は長く直立し、
青花	
瓦質土器	
備前焼	



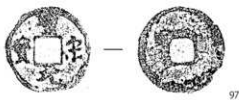
第222図 中世大友府内町跡第99次調査 SD025出土遺物(1)(1/3)

端部は丸くおさまられる。口縁部外面には凹線などはみられない。内面の摺り目は1単位6条以上である。92も播鉢口縁部である。口縁部外面にはかきい凹線が施されており、端部は内方傾斜する。内面の摺り目は1単位12条で、斜交摺り目となっている。93は播鉢底部



第223図 中世大友府内町跡第99次調査 SD025出土遺物(2)(1/3)

である。摺り目は1単位7条である。94も播鉢底部で、1単位7条以上の摺り目はいはいる。95は砥石で、表裏とも磨り面として使用されている。96はガラス片である。無色透明で、器種等は不明である。97は銭貨で、北宋の1101年鑄造の「聖宋元寶」である。



第224図 中世大友府内町跡第99次調査 SD025出土遺物(3)(1/1)

以上から、溝は16世紀後半～末に機能を停止したと思われる。

4 古代

遺構及び包含層を確認することができた。遺構は、中世遺構と同様にⅢ1層上面において検出することができた。遺構検出にあたっては、Ⅲ1層上面を精査するばかりでなく、Ⅲ1層を掘下げながら検出を試みた。しかし、遺構数は少なく、検出できたのは土坑2基のみである。遺構埋土の色調がⅢ層にちかく、中世の遺構とは明らかな違いがある。

また、調査区内の一部において遺物包含層も確認した。包含層の確認作業についても調査区全体で行ったが、一部でしか確認することができなかった。

(1) 土坑

2基の土坑(SK031、SK032)を確認した(第225図)。両者は隣接して並び、部分的に切り合い関係にある。

SK031

SK031(第226図)は、南北方向に長くのびる不定形気味の土坑である。しかし、南側は金池下水路の工事で壊され、北側は中世の道路側溝であるSD025により切られているため、その全容は不明である。現状での規模は、長さ2.3m、幅0.5～0.75mで、SK032に比べ幅が狭い。不定形の土坑が切り合っている可能性も考えられるが、確認することはできなかった。

土坑内からの出土遺物は少なく、古代に位置づけられると思われる小土師器片がわずかに出土したのみである。

SK032

SK032(第226図)はSK031の東側に位置する。SK031と同様に、南北方向に長くのびる不定形気味の土坑であるが、やはり南側は金池下水路の工事で壊され、北側は中世の道路側溝であるSD025により切られているため、その全容は不明である。その規模は、現状で長さ2.5m、幅0.7～1.4mである。

砥石

ガラス片

銭貨

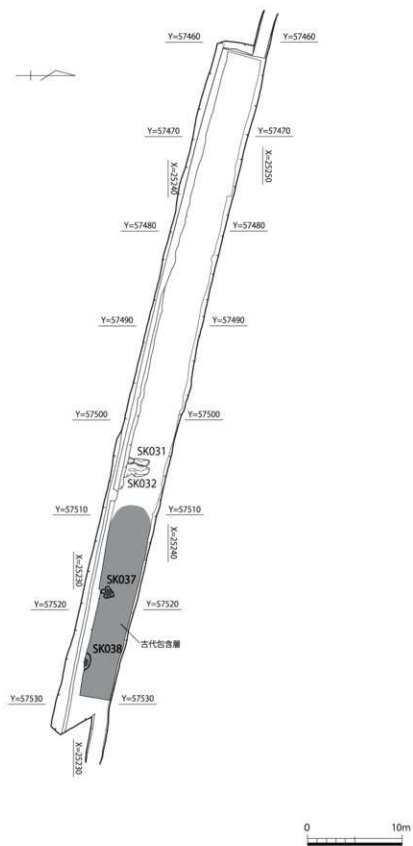
時期

遺構

包含層

規模

規模



第225図 中世大友府内町跡第99次調査 古代・古墳時代遺構配置図(1/400)



第226図 中世大友府内町跡第99次調査 SK031-SK032実測図(1/30)

一部でSK031と切り合い関係があり、それを切る。土坑は、いくつかの小土坑が重複しているものであることを土層図で確認することができる。

土坑内からの出土遺物はSK031 同様に少なく、古代に位置づけられると思われる小土師器片がわずかに出土したのみである。

(2) 包含層

古代の遺物がⅢ1層に包含される状況は、調査区東端から約20mにわたって確認することができた(第195図, 第225図)。この部分より西側についても、包含層の確認を試みたが、極めて少量の遺物が出土したのみである。以下、Ⅲ1層出土遺物(第227図)を紹介する。

古墳時代遺物

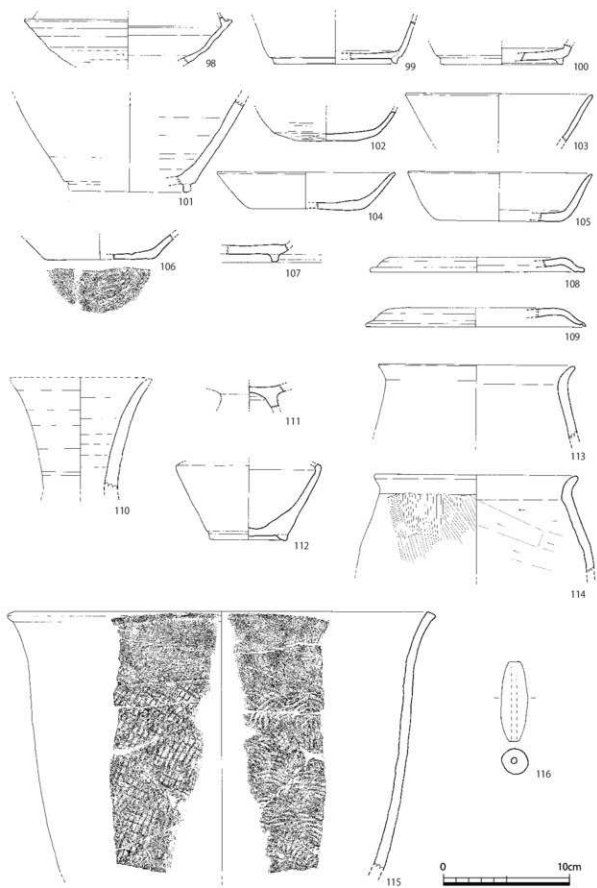
98 は古墳時代の須恵器坏身である。

古代遺物

99、100 は須恵器の高台が付される坏である。両者とも底部の端に、断面方形の低い高台が付く。**101** は須恵器長頸壺等の底部である。底面の端に低い高台が付され、体部が斜方向に立ち上がる。**102～106** は無高台の土師器坏である。**102** は丸底気味の器形を呈するもので、外面には横方向のヘラ磨きが見られる。他については、顕著なヘラ磨きは確認できない。**103** は器高が高い。**107** は高台の付される土師器の坏で、底面の端に低い高台が付く。**108、109** は土師器坏蓋である。**108** は端部が平坦に、また**109** は下方に向く。**110** は須恵器長頸壺、**111** は須恵器高坏である。**112** は土師器壺底部で、低い高台が付く。**113～115** は土師器甕である。**113、114** は口縁部がくの字状に折れ、**114** は内面にヘラ削りが施される。**115** は甕で口縁部が緩やかに外反する。外面に格子目タタキ、内面に同心円タタキが見られる。**116** は土鍾である。

時期

以上の遺物は、若干の混じりがみられるが、8世紀末～9世紀初めに主体があると思われる。



第227図 中世大友府内町跡第99次調査 III1層出土遺物(1/3)

5 古墳時代

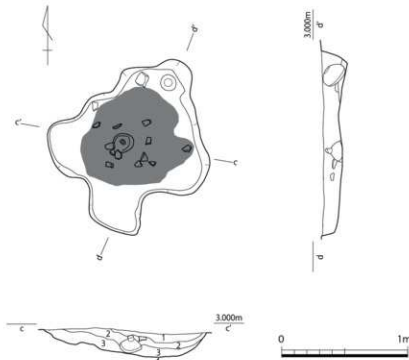
IV 1層上面において2基（SK037、SK038）の土坑を確認した（第225図）。IV 1層は東から西に向かい下がっている。2基の土坑が所在する調査区東端部は、古墳時代の微高地の西端にあたると思われる、微高地の肩から低地に向う部分では水田層を確認した。

(1) 土坑

SK037

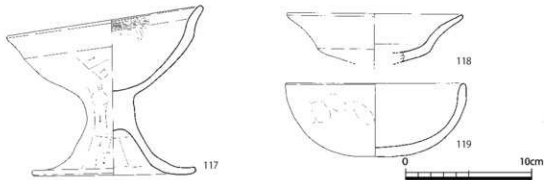
堀根
焼土

SK037（第228図）は不定形を呈する土坑である。その規模は、長径約1.4m、短径約0.9m、深さ約0.2mである。土坑中央には焼土が主体となる層がレンズ状に堆積しているが、床面からは浮いている。



- | | | | | | |
|--------------|-----|---------|--------|-----------------------------|------|
| 1.10YR3/3黒褐 | シルト | 締まり=強 | 粘性=強 | 黒色粒・焼土混入 | |
| 2.10YR3/2黒褐 | シルト | 締まり=強 | 粘性=やや強 | 炭土塊を伴う | 遺物出土 |
| 3.10YR3/2黒褐 | シルト | 締まり=強 | 粘性=やや強 | 炭土塊を伴う | |
| 4.7.5YR3/2黒褐 | シルト | 締まり=やや弱 | 粘性=弱 | 燃土塊と共に被熱を受けて赤変したシルトが面として広がる | |

第228図 中世大友府内町跡第99次調査 SK037実測図(1/30)

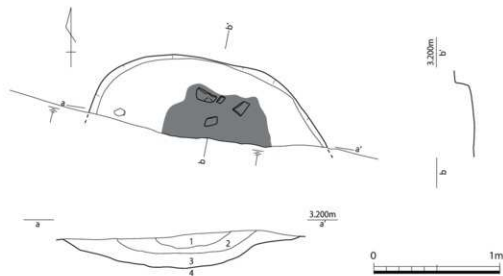


第229図 中世大友府内町跡第99次調査 SK037出土遺物(1/3)

遺物出土状況	土坑内からは、中央付近で土師器高坏が、北側の壁際で土師器甕が各々床面近くから出土した。
出土遺物	出土遺物（第229図）のうち、 117 と 118 は土師器高坏である。 117 は全形が分かるもので、器高は11.1～13.2cmである。坏部の口縁部付近はヨコナデが施され、やや外反する。脚は裾部に向かい大きく開く。外面には粗いへう削りがみられる。また、内面口縁付近にはへう磨きが残る。 118 は坏部の資料である。口縁部は坏部下方から大きく外反しており、 117 とは器形を異にする。 119 は、丸底を呈する土師器甕である。
時期	出土遺物から、本土坑の時期は6世紀に比定することができる。

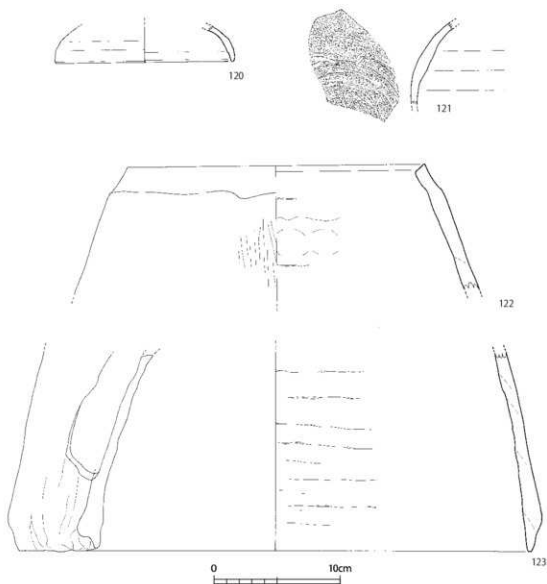
SK038

規模	SK038(第230図)はSK037の東方約6mに位置する。南半を金池下水路の工事で壊されているが、平面形は楕円形ないしは円形を呈するものと思われる。その規模は、径約1.9m、深さ約0.25mである。床面は平坦ではなく、断面浅いU字状を呈する。土坑中央には、SK037と同じように焼土を含む層がレンズ状に堆積している。床面からは浮いており、土坑が一定程度埋没した後に、焼土層が堆積したことが分かる。土坑内からは須恵器片などが出土したが、床面直上土のものではなく、全て流れ込みの状況である。
出土遺物	出土遺物（第231図）のうち、 120 は須恵器杯蓋である。復元口径14.0cmを測るもので、内外面とも回転ヨコナデが施されている。 121 は破片資料であるが、提瓶の体部と考えた。外面には同心円状に回転へう削りがみられる。また、内面はヨコナデによる調整が行われている。 122 と 123 は土師器甕で、同一個体と思われる。 122 は上半部の資料で、体部は内傾しながら掛け口部分にいたる。掛け口周辺は強いナデがはいり、体部からやや内傾し端部にいたる。端部は断面方形で、端面は内傾する。掛け口の復元口径は23.4cmである。 123 は底部資料である。体部は底部近くになり細くなり、端部は尖り気味となる。外面には縦方向のナデ調整がみられる。焚口は大きく開けられ、焚口に治い罫が付される。底径は40.6cmを測る。
時期	出土遺物から、本土坑の時期は6世紀に比定することができる。



1. 10YR3/3暗褐シルト 締まり=やや強 粘性=やや弱 白色粘混入
2. 10YR3/2黒褐シルト 締まり=やや強 粘性=やや弱 焼土がブロック状に混入
3. 10YR3/2黒褐シルト 締まり=やや弱 粘性=やや弱 焼土の一部と砂質を多く含む
4. 2.5Y4/2暗灰黄シルト 締まり=強 粘性=やや強 白色粘わずかに混入

第230図 中世大友府内町跡第99次調査 SK038実測図(1/30)



第231図 中世大友府内町跡第99次調査 SK038出土遺物(1/3)

(2) 水田

古墳時代の遺構を検出した面(Ⅳ1層)は、西に向かい落ちる。西方に低地部が広がると思われるが、Ⅳ1層にのるように水田層(Ⅲ2～Ⅲ5層)を確認した(第195図)。

水田層は微高地の肩に始まり、低地に向い2枚確認できるが、面的な広がり等は不明である。なお、この水田層は、8世紀末から9世紀初の土器が包含されるⅢ1層に覆われる。よって、水田層の時期は、古墳時代から古代の間に形成されたものと思われる。

時期

6 その他の遺物

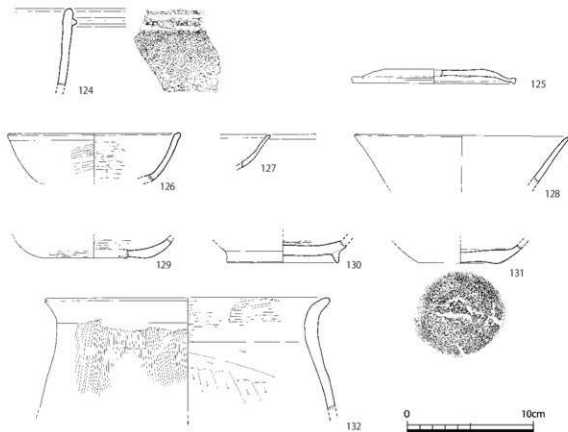
弥生時代
古代

ここでは、他時代の遺構などから混入のかたちで出土した遺物(第232～234図)を紹介する。

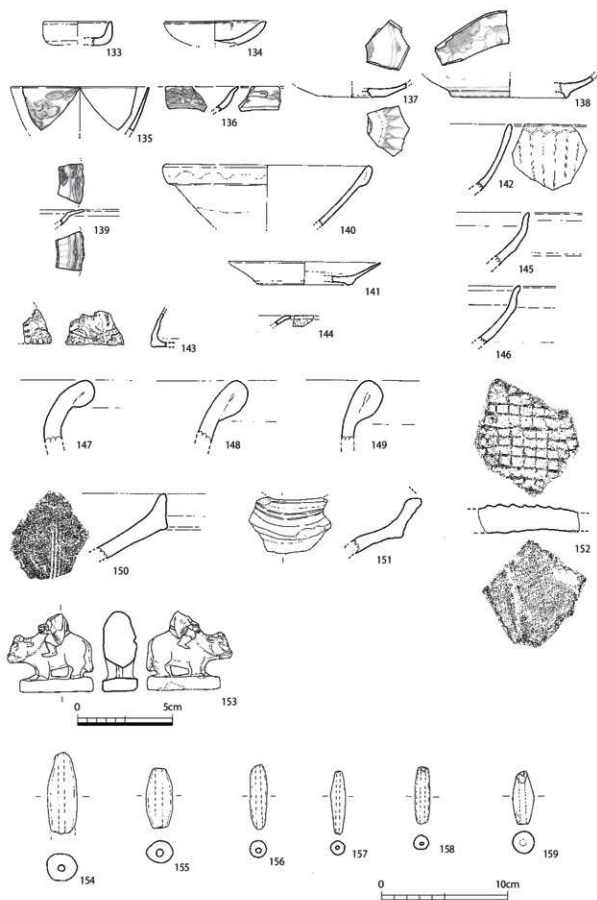
124は弥生時代中期の下城式甕である。磨滅が著しいが、口縁下に1条の刻目突帯が付されている。

125～132は古代の土器である。**125**は須恵器環蓋である。**126～128**は土師器環の口縁部資料である。**126**は内外面にヘラ磨きが施される。**128**は**126, 127**に比べ体部が直線的で、器高が高いか。**129～131**は土師器環の底部資料である。このうち**129, 131**は高台が付かないもので、**129**の内

- 外面にはヘラ磨きがみられる。また、131の外底面にはヘラ切り痕が残る。130は断面三角形の高台が付くもので、内面にはヘラ磨きが施される。132は土師器甕である。口縁部は、緩やかに短く外反する。体部外面には縦方向のハケ目がみられる。また、内面は口縁付近に横方向のハケ目が、体部に縦方向のヘラ削りが施される。
- 京都系土師器
肥前磁器
中国産青花
中国産白磁
中国産青磁
華南三彩
翡翠軸
瀬戸美濃系
備前焼
瓦
上人形・彈
- 133、134は京都系土師器である。134の口縁部にはスズ状の付着物がみられる。
135、136、138は肥前磁器染付である。135は碗で、136、138は皿である。
137、139は中国産青花である。137は鉢筒底を呈する皿である。139は、つぼ皿と呼ばれるもので、口縁部が体部から斜方向に折れる。
140、141は中国産白磁である。140は口縁部が玉縁状を呈する碗で、外面下半は露胎である。141は皿である。低い高台が削り出され、体部が斜方向にのびる。見込みと外面底部周辺が露胎である。
142は中国産青磁碗である。外面にヘラ描きの細連弁文がみられる。
143は中国産華南三彩である。破片資料のため全容は不明であるが、表面には黄色と緑色の彩色が明瞭に残る。144は中国産翡翠軸の皿である。
145、146は瀬戸美濃系の天目茶碗である。
147～151は備前焼である。147～149は甕で、いずれも口縁部が玉縁状を呈するが、あまり垂下せず球状をなす。150、151は播鉢である。150は口縁部が上方に引き上げられ、断面三角形状を呈する。内面の摺り目は1単位4条である。151は口縁部が発達したもので、外面に凹線がみられる。
152は古代の瓦で、外面に格子目タタキがみられる。
153は、牛に人物が乗る土人形である。154～159は土鍾である。160～162が鉄砲の弾である。



第232図 中世大友府内町跡第99次調査 その他の遺物(1) (1/3)



第233図 中世大友府内町跡第99次調査 その他の遺物(2) (1/3,153のみ1/2)



第234図 中世大友府内町跡第99次調査 その他の遺物(3)(1/2)

第4節 小結

1 道路遺構について

今回検出した道路遺構(SF024)は両側に側溝(SD023, SD025)を有するもので、最終段階は砂礫により道路面の整地が行われている。側溝出土遺物から、少なくとも16世紀末頃までは側溝を有する道路として機能しており、中世大友府内町跡第10次調査(註1)で検出した道路遺構(SF151)の延伸部にあたると思われる。この道路は府内町内の大友氏館と御蔵場の間を通る東西道路の延長で、第1～第4南北街路にほぼ直交していると考えられる。町内における方位は、概ね東西南方である。しかし、第4南北街路を過ぎ西に向かうと大きく北に振れ、方位は $N50^{\circ}W$ となる。99次調査区内においては、一旦南北方向に走った後、大きく屈曲し再び東西方向に伸びる。すなわち、道路はダイウス堂推定地(註2)の南西コーナーに沿うように屈曲した後に、再び折れ曲がり西方に方向を転じている(第235図②)。

ダイウス堂推定地

『府内古図』

屈曲

防御機能

『府内古図』A類には、町から西方に出る道路が3本描かれている。古図では、いずれの道も屈曲は表現されていない。しかし実際は、町外から入る場合、一度ダイウス堂に突き当たり南に折れた後に再び東に折れるという2度屈曲する経路を通ることになる。直線的に町内に入ることについて、地形的な面等において特段の制約があるとは思われないことから、防御機能を念頭にいた意識的な設計であった可能性も考えられる。しかし、10次・99次調査区内において道路上に木戸等の施設はみられないことから、道路の屈曲と一体となった防禦施設が構築されていたわけではないようである。

地籍界線

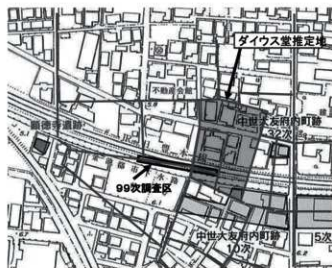
10次調査区の道路は近代の地籍界線とはほぼ一致する。99次調査区の道路についても、近世になり水田用排水路の機能をはたしたと考えられるSD006, SD007, SD017などの溝が継続的に掘られ、近代にはこれが地籍界線となっている。10次調査区、99次調査区の中世の道路ラインは、近世の溝などを経て正確に近代まで引き継がれていることが分かる。99次調査区の道路ラインを引き継ぐ地籍界線は、さらに西方に向かい直線的に伸びる。この直線ラインは、99次調査区から約60m続いており、町外に出ても直線の道路が続いていたことが推測される。また、99次調査区の西約80mの顕徳寺遺跡(註3)では、16世紀後半の東西方向の溝がある。道路跡と一致するであろう地籍界線は顕徳寺遺跡まで続いていないが、概ねその延長線上に位置する(第235図①③)。溝は幅2.4m、深さ1m以上の断面逆台形を呈するもので、16世紀後半に位置づけられている。調査区の北端で確認されているため道路遺構の存在は不明であるが、形状や規模に近いことから99次調査区で確認した道路の南側側溝の延長である可能性が高い。その場合、側溝を有する直線道路が町外まで整備されていたことになり、町内部のみならず、町外においても道路整備が行われていたことが推測される。

顕徳寺遺跡

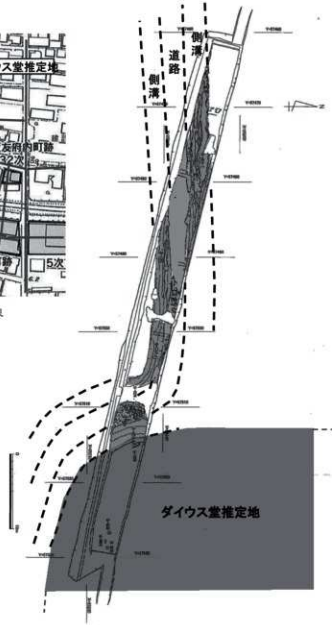
側溝の延長

2 ダイウス堂推定地について

ダイウス堂は『府内古図』にも描かれており、その位置は第4南北街路の西側で、府内町の西端にあたる。文書資料によれば(註4)、天文22年(1553)にガゴ司祭が大友義鏡(のちの宗麟)



①中世大友府内町跡第99次調査区周辺の地籍界



②ダイウス堂推定地と屈曲する道路遺構

③町外へ続く道路遺構



第235図 中世大友府内町跡第99次調査区周辺の地籍界と道路遺構

から布教の許可とともに、教会等を建設する地所を与えられている。その後、義親の許可を得て隣接の地所を購入し施設の拡大が図られ、弘治2年(1566)に落成式が行われる。ダイウス堂の位置は、地籍図や地形をもとに推定が行われている(大分市1987)が、推定地東南側の10次調査区でキリシタン墓地の存在が明らかになったことから、ダイウス堂の範囲は当初の想定よりも東に拡大するものと考えられる。今回の99次調査は、ダイウス堂の西限と内部の状況の確認を行う目的もあった。

前述したように、現在推定されているダイウス堂の南西コーナー部に沿うように道路が屈曲し、しばらく南北方向に走ることから、ダイウス堂の西限ラインは現在復元されている通りであろう。10次調査区の成果と併せると、ダイウス堂の南辺から西辺の一部は、ダイウス堂と道路の間にある道路側溝が、敷地を明確に画する施設の役割を担っていたようである。溝はダイウス堂の西側で、幅2.6～2.8m、深さ0.8～1.2mあり、道路規模に比し溝の規模が大きい。道路がダイウス堂の西から再び屈曲し町外へ向け東西方向に走る部分は、ダイウス堂を画していた側溝の延長部にあたるが、その幅、深さとも大きく規模を減じ、ダイウス堂西辺の溝との格差は明瞭である。このことから、ダイウス堂南辺と西辺の道路側溝がダイウス堂の区画を意識していたことは明らかであろう。この時に問題となるのが、99次調査区の北側に続くダイウス堂西限の状況である。道路は西に転じているが、区画の溝がそのまま、北に続くのか今後の課題となる。ダイウス堂内部側の区画施設については、柵列などと考えられる遺構は全く確認されていない。近世の水田造成などのため痕跡は全く残っていないが、溝の掘削土を利用し、溝に沿うように土塁が築かれていたことも考えられる。

ダイウス堂内部の土地利用状況について、99次調査の着手前は、10次調査区で検出したようなキリシタン墓が整然と並ぶ可能性も想定されていた。しかし、キリシタン墓のみならず遺構は全く確認することができなかった。99次調査区は狭小のため、ダイウス堂南西隅部を全て調査したわけではない。そのため、ダイウス堂内部の墓地空間が10次調査区周辺に限られていたのか、墓地空間として確保されていたが偶然埋葬が及んでいなかっただけなのか、その判断は難しい。今後の調査に閉じたい。

3 府内町外の状況について

『府内古図』によれば、ダイウス堂は府内町の西端に位置する。よって、99次調査で確認した道路屈曲部がダイウス堂西限であれば、それより西側は町外ということになる。調査区内では道路遺構とそれに伴う側溝が大半を占めることから、厳密に言えば町外の様子是不明である。しかし、遺物の出土状況をみると、まず99次調査区全体の遺物出土量が他の府内町域の調査区に比べ圧倒的に少ない。そのなかで、遺物の多くはダイウス堂周辺の道路側溝などから出土しており、町外を西進する道路側溝からの遺物出土は極めて少ない。このことから、西進する道路周辺は日常的な居住や生活が行われる場所ではなかったと想定される。また、水田の存在について調査区内で確認できた部分は少ないが、道路と道路側溝が機能していた段階には全く認められない。以上から、ダイウス堂西側の町外は、基本的に町屋等の日常居住施設はなかったようである。加えて、水田も道路近くにはみられない。草地の中を、側溝を有する道路が延びるだけの状況であったと思われる。

註

1 田中節介ほか編『豊後府内』6大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第15集

大分県教育庁埋蔵文化財センター 2007

2 『大分市史』大分市 1987

3 後藤晃一『顕徳寺遺跡・顕徳寺道跡』大分県文化財調査報告第164輯 大分県教育委員会 2004

4 当時の道教館などの書面による。

第5章 中世大友府内町跡から出土した動物遺存体

丸山真史（奈良文化財研究所・客員研究員）

1. 概要

大友府内町跡では、これまでも多数の動物遺存体が出土している。万寿寺や称名寺跡地の堀から出土した資料では、食生活や南蛮貿易によってもたらされた可能性があるブタについてなど、大友府内町における動物利用の一端が明らかになっている（丸山ほか 2008、丸山ほか 2013 など）。

今回、報告する動物遺存体は、第96次調査、第99次調査の遺構および遺物包含層から出土しており、すべて発掘調査中に目視で取り上げたものである。資料は破片数にして228点にのぼり、そのうち種類や部位などを同定したものが135点を数える（表1）。その内訳は、貝類257点以上、魚類60点、鳥類2点、哺乳類73点である⁽¹⁾。これらの中には、被熱して変色を呈するものや、解体や調理の痕跡が見られるものが含まれている。なお、動物遺存体が出土した遺構とその時期の一覧を表2に示す。

資料228点
(併定135点)
貝類257点以上
魚類60点
鳥類2点
哺乳類73点

表1 動物遺存体の種名表

軟体動物門 <i>Mollusca</i>	脊椎動物門 <i>Vertebrata</i>
腹足綱 <i>Gastropoda</i>	硬骨魚綱 <i>Osteichthyes</i>
古腹足目 <i>Vetigastropoda</i>	ボラ目 <i>Mugiliformes</i>
ミミガイ科 <i>Haliotidae</i>	ボラ科 <i>Mugilidae</i>
アワビ属の一種 <i>Halotis</i> sp.	ボラ科の一種 <i>Mugilidae</i> gen. et sp. indet.
ニシキウズガイ科 <i>Trochidae</i>	スズキ目 <i>Percidae</i>
イシダタミ <i>Monodonta labio</i>	スズキ科 <i>Percichthyidae</i>
キサゴ類 <i>Umbonium</i> sp.	スズキ属の一種 <i>Lateolabrax</i> sp.
サザエ科 <i>Turbinidae</i>	アジ科 <i>Carangiae</i>
サザエ <i>Turbo cornutus</i>	ブリ属の一種 <i>Seriola</i> sp.
盤足目 <i>Discopoda</i>	タイ科 <i>Sparidae</i>
ウミナナ科 <i>Batillariidae</i>	クロダイ属の一種 <i>Acanthopagrus</i> sp.
ウミナナ科の一種	マダイ <i>Pagrus major</i>
<i>Potamididae</i> gen. et sp. indet.	タイ科の一種 <i>Sparidae</i> gen. et sp. indet.
スズメガイ科 <i>Hipponicidae</i>	サハ科 <i>Scombridae</i>
キクスズメ <i>Sabia conica</i>	サハ属 <i>Scamber</i> sp.
新腹足目 <i>Neogastropoda</i>	カツオ <i>Katsuwonus pelamis</i>
アッキガイ科 <i>Muricidae</i>	マグロ属の一種 <i>Thunnus</i> sp.
イボニシ <i>Thais clavigera</i>	鳥綱 <i>Aves</i>
アカニシ <i>Rapana thomasi</i>	カモ目 <i>Anseriformes</i>
ムシロガイ科 <i>Nassaridae</i>	カモ科 <i>Anatidae</i>
ムシロガイ科の一種	カモ亜科 <i>Anatinae</i>
<i>Nassaridae</i> gen. et sp. indet.	カモ亜科の一種 <i>Anatinae</i> gen. et sp. indet.
二枚貝綱 <i>Bivalvia</i>	哺乳綱 <i>Mammalia</i>
カキ目 <i>Ostreoida</i>	奇蹄目 <i>Perissodactyla</i>
マルスタレガイ目 <i>Veneroida</i>	ウマ科 <i>Equidae</i>
マルスタレガイ科 <i>Veneridae</i>	ウマ <i>Equus caballus</i>
ハマグリ <i>Meretrix lusoria</i>	偶蹄目 <i>Artiodactyla</i>
アサリ <i>Tapes japonica</i>	ウシ科 <i>Bovidae</i>
バカガイ科 <i>Maclidae</i>	ウシ <i>Bos Taurus</i>
シオフキ <i>Maclra veneriformis</i>	イノシシ科 <i>Suidae</i>
	イノシシノブタ <i>Sus scrofa</i>
	シカ科 <i>Cervidae</i>
	シカ <i>Cervus nippon</i>

表2 動物遺存体が出土した遺構の時期

調査	時期	遺構名	掲載頁
96次	14世紀後葉	SD119	127
		SD220	132
	15世紀	SD590	122
		SK297	27
		SK300	27
	15世紀末葉～16世紀前葉	SK049	108
		SK218	117
		SF070	84
	15世紀末葉～16世紀	SK202	114
		SK241	—
		SX310	49
		SD360	47
	16世紀前葉～中葉	SK145	108
		SK183	109
	16世紀後葉～末葉	SK214	117
		SK369	31
		SK529	26
		SE359	44
		SX081	86
		SK005	90
16世紀末葉～17世紀初頭	SK005	90	
不明	S280	—	
江戸時代（18世紀）	SD235	45	

調査	時期	遺構名	掲載頁
99次	16世紀後半	SD023	177
		SD023-1	177
		SD023-2	177
		SD023-3	177
		SD023-4	177
		SD023-9	177
		SF024	174
		SD025	181
		SD025-1	181
		SD025-2	181
	SD025-2-3	181	
	SD025-2-8	181	
	SD025-3	181	
	SK040	—	
	16世紀末葉～近世	SX008	173
		SK003	—
	近世	SK026	170
SK037		189	
古墳			

2. 種類別の特徴

a) 貝類 (表3)

- アワビ類 96次SK145から小片が多数出土しているが、個体数の算定は困難である。
 イシダタミ 96次SK145から1点出土している。
 キサゴ類 キサゴあるいはイボキサゴである。96次SK145から、28,360.5gが出土している。
 サザエ 96次SK145から71点（うち蓋12点）が出土している。いずれも殻高7～10cmの一般的な大きさであり、棘は発達していない。
 ウミナナ科 本科はウミナナ、ホソウミナナ、ヘナタリなどを含む。96次SK145から83点が出土している。
 キクスズメ 96次SK145から1点出土している。
 イボニシ 96次SK145から1点が出土している。
 アカニシ 96次SX081、SK183、SK529から1点ずつ、計3点が出土している。いずれも殻幅10cm以上の大きな個体である。
 ムシロガイ科 96次SK145から28点が出土している。
 ハマグリ 96次SK145から147点（左79右68）が出土している。いずれも殻高3～5cmで、それ以上の大きな個体は見られない。
 アサリ 96次SK145から2点（左1右1）が出土している。
 シオフキ 96次SK145から2点（右）が出土している。

表3 貝類集計表

調査	時期	遺構名	小分類	左	右	-	計	
96次	16世紀後葉～末葉	SK145	アカニシ			1	1	
			アワビ類			○		
			イシダタミ			1	1	
			キサゴ類			○		
			サザエ			59(12)	71	
			ウミナナ科			83	1	
			キクスズメ			1	1	
			イボニシ			1	1	
			ムシロガイ科			28	28	
			ハマグリ	79	68		147	
			アサリ	1	1		2	
			シオフキ				2	
			SK183	アカニシ			1	1
			SK529	キサゴ類			○	
				アカニシ			1	1

()は蓋の数

表4 魚類集計表

調査	時期	遺構名	小分類	部位	左	右	-	計	
96次	15世紀末葉～16世紀前葉	SK297 SK300	マダイ	上後頭骨			1	1	
			タイ科	椎骨			2	2	
			ブリ属	椎骨			1	1	
	16世紀前葉～中葉	SX310	マダイ	角骨			1	1	
				方骨		1	1		
				口蓋骨		1	1		
			タイ科	椎骨			3	3	
				椎骨			2	2	
				不明	鱗			1	1
	16世紀後葉～末葉	SK145	ボラ科	椎骨				4	4
				椎骨				5	5
			ブリ属	主鰓蓋骨	1				1
				主上顎骨		1			1
			クロダイ属	歯骨	1				1
				角骨	1				1
				上後頭骨				2	2
				主上顎骨	2	1			3
			マダイ	前上顎骨	1	2			3
				歯骨		1			1
				口蓋骨		1			1
			タイ科	椎骨				7	7
				歯骨	1				1
				口蓋骨	1				1
				舌頭骨	1				1
		下鰓蓋骨	1				1		
		サハ属	椎骨				3	3	
	カツオ	椎骨				9	9		
		舌頭骨	1				1		
	不明	椎骨			1		6		
		後側頭骨				1	1		
		鱗				1	1		
99次	16世紀後半	SK214	カツオ	椎骨			1	1	
	近世?	SD023	マグロ属	椎骨			1	1	
		遺物倉倉庫	マグロ属	椎骨			1	1	

魚類

b) 魚類 (表4)

ボラ科 96次 SK145 から椎骨4点が出土しており、体長20～30cmと推定される。

ブリ属 96次 SX310 から椎骨1点が出土しており、被熱して白色を呈する。大きさは体長70～80cmと推定される。96次 SK145 から椎骨5点、主鰓蓋骨(左)1点、計6点が出土している。大きさは、椎骨のうち2点は体長70～80cm、それ以外の椎骨は30～40cm、主鰓蓋骨は50～60cmと推定される。

クロダイ属 96次 SK145 から主上顎骨(右)、歯骨(左)、角骨(左)が1点ずつ、計3点が出土している。これらのうち歯骨と角骨は同一個体である。大きさは、体長20cm程度と推定される。

マダイ 99次 SK297 から上後頭骨1点が出土しており、被熱して白色を呈する。96次 SX310 から角骨(左右不明)、方骨(右)、口蓋骨(右)が1点ずつ、計3点が出土しており、いずれも被熱して白色を呈する。96次 SK145 から主上顎骨(左2右1)と前上顎骨(左1右2)が3点ずつ、上後頭骨2点、歯骨、口蓋骨が1点ずつ、計10点が出土している。上後頭骨のうち1点は、右側部が切断されている。体長30～40cmが大部分を占め、50～60cmと推定される大きな個体も含まれる。

タイ科 96次 SK300 から椎骨2点が出土しており、いずれも被熱して白色を呈する。96次 SK310 から椎骨3点が出土しており、いずれも被熱して白色を呈する。96次 SK145 から椎骨7点、歯骨(左)、舌頭骨(左)、口蓋骨(左)、下鰓蓋骨(左)が1点ずつ、計11点が出土している。いずれも体長20cm以上であり、30～40cmと推定されるものが多い。

サハ属 96次 SK145 から椎骨3点が出土しており、大きさは体長20～30cmと推定される。

カツオ 96次SK145から椎骨9点、舌顎骨(左)1点、計10点が出土している。大きさは体長40～50cmと推定される。96次SK214から椎骨1点が出土しており、被熱して白色を呈する。体長20cm程度の小型個体である。

マグロ属 99次SD023から椎骨1点が出土している。99次近世と思われる遺物包含層から椎骨が1点出土している。いずれも体長100cmを超える大きな個体である。

鳥類

c) 鳥類

カモ科 96次SK145からカモ科の胸骨と鳥口骨(左)が1点ずつ、計2点が出土している。いずれも、マガモに相当する大きさである。

哺乳類

d) 哺乳類(表6)

ウマ 96次SF070から遊離歯(上顎白歯・左)1点が出土している。99次SD023から遊離歯(切歯、下顎白歯)2点が出土している。99次SD023-1から遊離歯15点が出土しており、これらは同一個体の下顎切歯(I1～I3・右)3点、下顎白歯(P2～M3・左右)12点である。白歯の咬耗状況から生後4～6年、白歯列長はトカマ、宮古馬などの小型馬に相当する(表5)。99次SD023-2から遊離歯(下顎白歯・左)1点が出土している。99次SD023-3から遊離歯(白歯)1点が出土している。99次SD023-4から遊離歯(切歯;左1右1、下顎P2;右1)3点が出土している。99次SD023-9から遊離歯(下顎白歯)1点が出土している。99次SF024から遊離歯10点が出土しており、これらのうち3点は同一個体の上顎白歯(M1～M3・左)であり、咬耗状況から生後11～12年と推定される。上顎白歯以外は切歯1点、下顎白歯1点、上顎白歯5点である。99次SD025から遊離歯(切歯、上顎白歯)2点が出土している。99次SD025-3-8から遊離歯(下顎白歯)1点が出土している。99次SD025から遊離歯(下顎白歯)4点が出土している。99次SD025-1から遊離歯(切歯、白歯、上顎白歯)9点が出土している。99次SD026から遊離歯(上顎白歯・右)1点が出土している。99次16世紀の遺物包含層から遊離歯(上顎白歯・左2、下顎白歯1)3点が出土している。99次近世の水田耕作士から遊離歯(切歯1、白歯2、上顎白歯1、下顎白歯3)7点が出土している。99次SX008から遊離歯(白歯)2点が出土している。

ウシ 99次SD040から遊離歯(上顎白歯)1点が出土している。96次SD529から髀骨(右)と大腿骨(右)が1点ずつ、計2点が出土している。99次SD025-2から遊離歯(下顎M3・左)が1点出土しており、咬耗状況から若齢と推定される。99次SD020から遊離歯(上顎白歯・左)1点が出土している。

イノシシ/ブタ 96次SD590から中手骨あるいは中足骨が1点出土しており、被熱して白色を呈する。96次SX310から指骨(中節骨)が1点出土しており、被熱して青灰色を呈する。96次SK145から大腿骨(左)と中足骨(左)が1点ずつ、計2点が出土している。大腿骨の両骨端は癒合しておらず、遠位部には、多数の切傷が見られる。また、中足骨の遠位端は癒合していない。

多数の切傷

シカ 96次SD220から上腕骨(右)1点が出土している。96次SK049から枝角が1点出土しており、自然に頭蓋骨から脱落した落角である。

表5 99次ウマ白歯計測表(単位はmm)

SD023-1	左					右						
	M3	M2	M1	P4	P3	P2	P3	P4	M1	M2	M3	
歯冠長	25.6	24.2	23.4	25.6	25.4	28	28.9	25.4	26.1	24.5	23.7	25.1+
歯冠幅	9.3	12.1	12.6	13.7	25	14.3	13.9	15.2	13.7	11.6	12.8	9.9
歯冠高					57.9	45.6	43.9	56.7				
白歯列長	71.5				78.4		79.4		148.8		69.9	

+は見込み値。

表6 哺乳類集計表

調査	時期	遺構名	小分類	部位	左	右	-	計	
96次	14世紀後葉	SD119	不明	四肢骨?			1	1	
		SD220	シカ	上脛骨		1		1	
	15世紀	SD590	イノシシ/ブタ	中手骨/中足骨				1	1
		SF070	ウマ	遊離歯	1				1
	15世紀末葉～16世紀		不明	四肢骨				1	1
				四肢骨?				1	1
	15世紀末葉～16世紀前葉	SK049	シカ	枝角				1	1
		KS218	不明	不明				1	1
		SK241	シカ?	枝角?				1	1
	16世紀前葉～中葉	SK310	イノシシ/ブタ	指骨				1	1
			不明	不明				2	2
				肋骨?				1	1
	16世紀後葉～末葉	SK145	イノシシ/ブタ	大腿骨	1				1
				中足骨	1				1
		SK529	ウシ	楕骨		1			1
				大腿骨		1			1
			ウシ/ウマ	四肢骨				1	1
		SK202	ウシ	遊離歯	1				1
		SE359	不明	肋骨				1	1
		SK369	ウシ/ウマ?	不明				1	1
		SK005	不明	不明				1	1
			不明	肋骨				1	1
	16世紀末葉～17世紀初頭		不明	不明				1	1
			ウシ/ウマ	椎骨				3	3
SK280		不明	不明				1	1	
SD023		ウマ	遊離歯				2	2	
99次	16世紀後半	SD023-1	ウマ	遊離歯	6	9		15	
		SD023-2	ウマ	遊離歯	1			1	
		SD023-3	ウマ	遊離歯				1	1
			不明	遊離歯				1	1
		SD023-4	ウマ	遊離歯	1	2		3	
		SD023-9	ウマ	遊離歯				1	1
		SF024	ウシ/ウマ	遊離歯				2	2
			ウマ	遊離歯	5	4	1	10	
		SD025	ウマ	遊離歯		2	2	4	
		SD025	ウシ/ウマ	遊離歯				1	1
			ウマ	遊離歯				2	2
		SD025-1	ウマ	遊離歯	2			7	9
		不明	不明				1	1	
	SD025-1	ウシ/ウマ	遊離歯				1	1	
	SD025-2	ウシ	遊離歯	1				1	
	SD025-2-3	不明	不明				1	1	
	SD025-2-8	ウマ	遊離歯				1	1	
	SD025-3	ウシ/ウマ	遊離歯				1	1	
	SK040	ウシ	遊離歯				1	1	
		ウシ/ウマ	遊離歯				1	1	
		遺物包含層	ウマ	遊離歯	2			1	3
			不明	不明				4	4
	16世紀末葉～近世	SK008	ウマ	遊離歯		1	1		2
		SK026	ウマ	遊離歯		1			1
近世		遺物包含層	ウシ/ウマ	遊離歯				1	1
			ウマ	遊離歯	1	3		3	7
			不明	不明				3	3
近世?		遺物包含層		遊離歯				1	1
			ウシ	遊離歯		1			1
				脛骨				1	1
			ウシ/ウマ	脛骨				1	1
		ウマ	遊離歯	1	4			5	
		不明	不明				2	2	
			肋骨				1	1	

3. 府内町の町屋における食生活

96次土坑
SK145

第96次、第99次調査において動物遺存体が出土した主要な遺構は、町屋の裏手のゴミ穴（96次土坑SK145）、道路およびその側溝（99次SDO23・SFO24・SDO25）である。そのうち、一定の出土量がある土坑SK145が注目される。16世紀末葉の土器類とともに大量の貝類、魚類、鳥類、哺乳類が出土している。このゴミ穴から出土した動物遺存体は、食用となる種類が大部分を占め、大友府内町の町民層の食生活を示す一括資料である。海産の魚貝類が大部分を占め、鳥獣類は少量に留まり、魚貝食が盛んであったと考えられる。

キサゴ類
23,360.5g
約63,623個体

貝類はいずれも鹹水性であり、内湾の砂底・泥底・岩性群集で大部分が構成されている⁽²⁾。これら大部分の貝種が、近隣の大分川下流域から別府湾にかけての範囲で採取されたと考えられる。貝類の最大の特徴は、キサゴ類が総量28,360.5gという膨大な出土量を示していることである。任意に抽出した100点の重量が44.9gを量り、1点あたり0.45gと仮定すると、約63,623個体と推定される。これまで大友府内町跡で報告されているキサゴ類では、第80次調査のSD101から出土した2150個体が最多であったが、これを大幅に上回る大量の出土である。1個体の肉量が少なく、献立の一品というよりも、つまみもの、汁物の出汁、佃煮などのような料理に利用されたのであろう。短期間で大量に廃棄されたことを想定でき、加工品にした可能性が高い。キサゴ類に続いて出土量が多いものは、商品価値の高いハマグリやサザエである。最小個体数にして、それぞれ79個体、59個体と算定され、一度の消費量としては多いため、数度の食事による消費、宴会による消費、加工品の製造などが考えられる。前述のキサゴ類の他にウミナナ科、イボニシ、インダタミなどの磯ものが出土しているが、食用として一般的に市場流通していたかどうか定かではない。キクスズメ・ムシロガイ科は食用にならず、食用種に混じって捕獲されたものと考えられる。大友城下町跡の貝類を分析した池田研は、大部分の貝種が近隣の大分川下流域と別府湾内で採取可能であり、商品価値の低い貝種や混獲された非食用種が一定量含まれることを考慮すれば、遺跡近郊の漁場と水揚げ地から複雑な流通経路を経ずに、消費＝廃棄された可能性が高いと評価している（池田2012）。

マダイ
切断痕
「兎割」

3分割

魚類は、マダイとクロダイ属を含むタイ科が最も多く出土している。マダイの後頭部の側面には切断痕がみられ、「兎割」されたと考えられる。「兎割」は、現代ではあら炊きや汁物で、骨に含まれるうま味、すなわち出汁を利用した調理に用いられる。遺跡から出土するマダイの「兎割」には、2分割と3分割の2つの方法が見られ、3分割は現代の料理には用いられない方法で、「潮煮」に利用された可能性が指摘されている（岡嶋2004）。当資料も中央より右側で切断されており、3分割したものと考えられる。クロダイ属は、マダイと比べて出土量が少なく、赤いマダイの方が好まれた可能性がある。中世以降、西日本の遺跡ではマダイなどの赤いタイがクロダイ属などの黒いタイよりも優占的であるという（久保1997）。タイ科のほかに、ボラ科、ブリ属、サバ属、カツオが出土している。これらは、同時期の大阪城下町跡では一般的に出土する魚種であるが、当遺跡でカツオの比率がやや高いことが特徴的である。カツオは、マグロ属やシイラなどと同様に外洋性回遊魚であり、黒潮に沿って季節移動する。これまで当遺跡第43次、第51次調査の万寿寺の堀、第11次、第72次、第88次調査の称名寺跡の堀からマグロ属やシイラが出土している。出土した魚骨の全量が少ないため即断はできないが、今回のカツオの出土を考え合わせ、大友府内町では外洋性回遊魚の消費が一般的であったと思われる。

カツオ
外洋性
回遊魚イノシシある
いはブタ

哺乳類はイノシシあるいはブタが2点出土しているに留まるが、町屋でも獣肉食が行われたのであろう。第34次、第43次、第51次調査の万寿寺の堀には、近郊で生じた生ゴミが投棄されており、魚貝類が少なく、イノシシやシカなどの獣類が多いという内容であった（丸山ほか2008、丸山真史ほか2013）。町屋の敷地内のゴミ穴には魚貝類などの嵩張らない生ゴミを、大きな獣骨は敷地外の堀に投棄していることがわかる。

4. まとめ

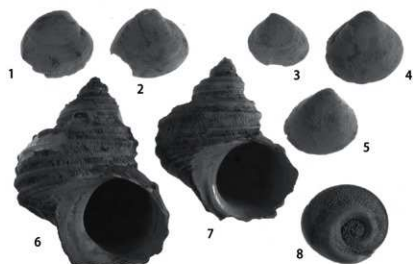
第96次、第99次調査では貝類、魚類、鳥類、哺乳類が出土しており、貝類のなかでもキサゴ類が大量に出土している。町屋の裏手に位置するゴミ穴の土坑SK145から出土した動物遺存体は、大友城下町における町人層の食生活を示す資料として貴重である。貝類は、一度の食事の消費量としては多いため、それらを消費した場（どのような場面で消費されたのか）やゴミ穴の使用期間について今後の検討が必要である。貝類と比べると魚類は少なく、それらの骨の腐朽が早いことや、イヌなどの食害により、実際の廃棄量を反映していない可能性がある。しかし、マダイなどのタイ科が多く、貝類のサザエやハマグリなど商品価値の高い魚貝類を消費できる富裕な食生活が想定される。共存する遺物の内容を考え合わせれば、これらの食料残滓の位置づけも具体化するであろう。大友城下町跡では、多数の動物遺存体が出土しており、遺構や地点によってそれぞれの特徴が見られ、都市における動物利用の多様性が窺える。今後も発掘調査では、廃棄土坑の埋土のフルイを用いた水洗選別などを実施することで、さらに詳細な魚食文化の復元も可能になるであろう。

都市における
動物利用の
多様性

註(1) 貝類は破片数、個体数の計数、算定が困難なものがあり、最小の破片数を記載し、動物遺存体の総数には含めていない。
(2) 生息域の分類は、松島義章(1984)に倣う。

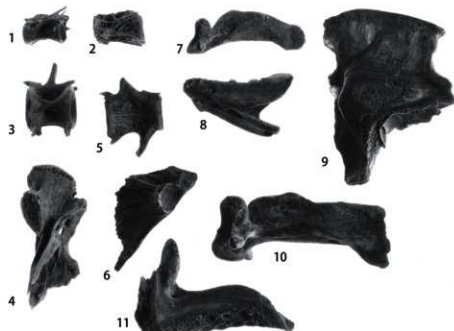
〔参考文献〕

- 池田研 2012「中世大友府内町跡から出土した貝類について」(『豊後府内17』大分県教育庁埋蔵文化財センター) pp.392-394
 岡崎隆史 2004「真鯛頭部の解体法について」(『動物考古学』21号) 動物考古学研究会 pp.91-101
 久保和士 1997「近世大坂における水産物の流通と消費に関する考古学的研究」(『助成研究の報告』7 味の素食文化センター) pp.51-58
 松島義章 1984「日本列島における後氷期の浅海性貝類群集 - とくに環境変遷にともなうその時間・空間変遷 - 」(『神奈川県立博物館研究報告(自然科学)』15) pp.37-109
 丸山真史・松井章 2008「大友城下町跡から出土した動物遺存体」(『豊後府内8』大分県教育庁埋蔵文化財センター) pp.259-271
 丸山真史・池田研・江田真毅・松井章 2013「中世大友府内町跡における動物利用」(『豊後府内17』大分県教育庁埋蔵文化財センター) pp.415-425



貝類(SK145)

1.アサリ 2.シオフキ 3~5.ハマグリ 6~8.サザエ(8は蓋)



魚類(SK145)

1.サバ属(椎骨) 2.ボラ科(椎骨) 3,4.カツオ(椎骨、舌顎骨) 5,6.ブリ属(椎骨、主鰓蓋骨)
7,8.クロダイ属(主上顎骨、歯骨) 9~11.マダイ(上後頭骨、主上顎骨、前上顎骨)



馬歯(SD023)
左下顎臼歯列

遺物一覽表

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覧（土器・陶磁器①）

図版番号	遺物名	種類	器形	生産地	法量 (cm) ()は片径			備考	
					口徑	底径	高さ		
16	2 区ⅠB SD400	華南 磁	水注	中国	(4.0)		1.5		
	3 区ⅠB SD400	青花	碗	中国(漳州)	(12.6)	4.7	5.8		
	5 区ⅠB SD400	青花	皿	中国(漳州)					
	5 区ⅠB SD400	青花	皿	中国(漳州)		(11.0)	3.4		
	6 区ⅠB SD400	青花	皿	中国(漳州)					
17	7 区ⅠB SD400	青花	小杯	中国(景德鎮)			1.4		
	15 区ⅠB SD387	青花	醬鉢	中国(景德鎮)	(20.7)	(11.1)	3.4		
	16 区ⅠB SC387	陶器	漆鉢	中国	(28.4)	13.8	13.6		
	17 区ⅠB SC387	瓦質土器	鉢	在産	(24.5)				
	20 区ⅠB SC388	京都系土師器	皿	在産	10.1		2.0		
	21 区ⅠB SC388	京都系土師器	皿	在産	10.3		2.1		
	22 区ⅠB SC508	京都系土師器	皿	在産	8.7		2.0		
	23 区ⅠB SC508	京都系土師器	皿	在産	11.6		2.5		
	24 区ⅠB SC508	京都系土師器	皿	在産	11.6		2.3		
	25 区ⅠB SC508	瓦質土器	鉢	在産	31.5	21.8	11.0		
19	26 区ⅠB SC509	青花	鉢	在産	30.8	21.6	10.6		
	29 区ⅠB SC509	青花	鉢	中国(景德鎮)	(12.0)	6.5	2.8		
	30 区ⅠB SC509	京都系土師器	皿	在産	8.3		2.2		
	31 区ⅠB SC509	京都系土師器	片	在産	10.2		3.2		
	32 区ⅠB SC509	京都系土師器	片	在産	(10.4)		3.7		
	33 区ⅠB SC509	瓦質土器	引蓋	在産					
	34 区ⅠB SC509	瓦質土器	鉢	在産	(15.0)	(16.6)	9.4		
	35 区ⅠB SC509	瓦質土器	火鉢	在産	(35.0)		8.5		
	37 区ⅠB SC529	京都系土師器	皿	在産	(10.5)		2.2		
	58 区ⅠB SC290	瓦質土器	鉢	在産	(12.0)		2.8		
24	59 区ⅠA SC297	ロクロ目土師器	皿	在産	8.8	5.9	2.1		
	60 区ⅠA SC300	ロクロ目土師器	小皿	在産	(4.4)	2.8	1.4		
	61 区ⅠA SC300	ロクロ目土師器	皿	在産	7.7	4.7	1.8		
	62 区ⅠA SC300	ロクロ目土師器	皿	在産	9.5	5.1	2.1		
	63 区ⅠA SC300	ロクロ目土師器	皿	在産	10.4	5.4	2.5		
	64 区ⅠA SC300	ロクロ目土師器	皿	在産	12.0	6.3	2.3		
	65 区ⅠA SC300	ロクロ目土師器	皿	在産	7.7	4.6	1.8		
	66 区ⅠA SC300	ロクロ目土師器	皿	在産	9.6	5.4	2.0		
	67 区ⅠA SC300	ロクロ目土師器	皿	在産	9.6	5.8	2.1		
	68 区ⅠA SC300	ロクロ目土師器	皿	在産	(10.0)	5.5	2.5		
25	69 区ⅠA SC300	ロクロ目土師器	皿	在産	10.0	5.8	2.1		
	70 区ⅠA SC300	ロクロ目土師器	皿	在産	14.4	7.6	2.5		
	71 区ⅠA SC300	ロクロ目土師器	皿	在産	17.0	5.7	3.1		
	72 区ⅠA SC305	陶器	漆鉢	中国					
	73 区ⅠA SC347	ロクロ目土師器	皿	在産	7.9	5.6	1.85		
	74 区ⅠA SC347	ロクロ目土師器	皿	在産	9.1	4.9	2.0		
	75 区ⅠA SC347	ロクロ目土師器	皿	在産	(11.3)	6.3	2.4		
	76 区ⅠA SC369A	青花	碗	中国(景德鎮)		6.3	2.1		
	77 区ⅠA SC369A	白磁	玉取鑿子形遺物	中国					
	78 区ⅠA SC369A	瓦質土器	香炉	在産		2.2	2.1		
31	79 区ⅠA SC369A	京都系土師器	碗	在産	10.7		3.3		
	80 区ⅠA SC369A	京都系土師器	皿	在産	11.1		2.5		
	81 区ⅠA SC369A	京都系土師器	皿	在産	(16.2)		1.7		
	84 区ⅠA SC369B	京都系土師器	皿	在産	9.0		2.2		
	85 区ⅠA SC369B	京都系土師器	片	在産	(10.7)		3.1		
	86 区ⅠA SC369B	陶器	漆鉢	中国		(11.0)	4.8		
	89 区ⅠB SC524	瓦質土器	火鉢	在産	35.0		15.8		
	90 区ⅠB SC525	土師器	漆鉢	在産	(10.6)		2.4		
34	94 区ⅠA SC241	青磁	小皿	中国(？)					
	95 区ⅠA SC241	京都系土師器	皿	在産	9.0		2.0		
46	98 区ⅠB SC253	ロクロ目土師器	皿	在産	9.0		1.7		
	101 区ⅠA SC371	ロクロ目土師器	皿	在産	(10.3)	(5.55)	2.25		
48	103 区ⅠB SC399	青花	碗	中国(景德鎮)					
	104 区ⅠB SC399	陶器	漆鉢	中国	(30.6)	(12.6)	9.5		
	105 区ⅠB SC405	京都系土師器	皿	在産	(12.6)		2.3		
	106 区ⅠB SC406	青花	碗	中国(福建)		6.2	4.1		
	107 区ⅠB SC406	ロクロ目土師器	皿	在産	(11.4)	(7.4)	2.3		
	108 区ⅠB SC406	ロクロ目土師器	皿	在産	(11.6)	6.8	2.4		
	109 区ⅠA SC240	青花	皿	中国(漳州)		7.0	4.0		
	110 区ⅠA SC240	青磁陶器	小皿	中国					
	111 区ⅠA SC240	瓦質土器	鉢	在産	(17.0)		7.1		
	112 区ⅠA SC240	瓦質土器	引蓋	在産	(16.8)		15.3		
54	113 区ⅠA SC240	瓦質土器	香炉	在産			2.4		
	114 区ⅠA SC240	ロクロ目土師器	皿	在産	4.7		3.5	1.5	
	122 区ⅠB SC353	陶器	漆鉢	中国					
	123 区ⅠB SC359	ロクロ目土師器	皿	在産	9.5		5.0	1.9	鹿児島(鹿嶋) 交野文土器
	124 区ⅠB SC359	ロクロ目土師器	皿	在産	(11.0)	5.8	3.2		
	125 区ⅠB SC359	京都系土師器	皿	在産	13.8		2.2		
	126 区ⅠA SC359	瓦質土器	火鉢	在産					
	58 130 区ⅠB SC507	陶器	碗	中国	(3.6)		3.5		
	58 131 区ⅠB SC235	白磁	碗	中国	(14.6)	(9.2)	2.9		
	60	132 区ⅠB SC236	青磁	碗	中国(漳州)		(11.2)		
133 区ⅠA SC236		青花	碗	中国(景德鎮)	(11.8)				
134 区ⅠA SC236		青花	皿	中国(漳州)	(12.4)				
135 区ⅠA SC236		白磁	皿	中国(景德鎮)	(13.5)	(7.8)	3.4		
136 区ⅠA SC236		陶器	香	中国	(10.4)				
137 区ⅠA SC236	陶器	香	中国						

遺物一覧表 2

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覧 (土器・陶磁器②)

図版番号	遺物名	種類	器形	生産地	法量 (cm) ()は推定		備考
					口径	高さ	
60	138 区域 1 A SD236	瓦質土器	鉢	在埴	(21.6)		
	139 区域 1 A SD236	瓦質土器	鉢	在埴	(30.6)		
	140 区域 1 A SD236	瓦質土器	鉢	在埴	(23.6)		
141 区域 1 B SD661	京那系土師器	甕	在埴	11.8	2.1		
142 区域 1 B SD661	京那系土師器	甕	在埴	12.5	2.1		
143 区域 1 B SD661	京那系土師器	甕	在埴	12.5	2.05		
144 区域 1 B SD661	高脚	漆鉢					
145 区域 1 B SD661	瓦質土器	鉢	在埴	(28.8)	(18.2)	9.5	
146 区域 1 A SD060	京那系土師器	甕	在埴	13.0	2.0		
147 区域 1 A SD060	口夕口夕土師器	甕	在埴	9.4	5.9	1.7	
148 区域 1 A SD060	口夕口夕土師器	甕	在埴	(15.2)	9.0	2.1	
149 区域 1 A SD061	口夕口夕土師器	甕	在埴	(11.2)	5.8	2.7	
150 区域 1 A SK237	口夕口夕土師器	甕	在埴	11.0	5.1	2.9	
151 区域 1 A SK237	口夕口夕土師器	甕	在埴	11.2	5.6	2.4	
152 区域 1 A SK237	口夕口夕土師器	甕	在埴	11.6	6.0	3.0	
153 区域 1 A SK237	口夕口夕土師器	甕	在埴	11.6	6.3	2.2	
154 区域 1 A SK310A	土師器土器	小甕	在埴	5.0	1.5		
155 区域 1 A SK310A	京那系土師器	甕	在埴	9.7	2.25		
156 区域 1 A SK310A	京那系土師器	甕	在埴	10.3	2.15		
157 区域 1 A SK310A	京那系土師器	甕	在埴	10.4	2.25		
158 区域 1 A SK310A	京那系土師器	甕	在埴	10.4	1.9		
159 区域 1 A SK310A	京那系土師器	甕	在埴	10.6	1.9		
160 区域 1 A SK310A	京那系土師器	甕	在埴	12.1	2.5		
161 区域 1 A SK310A	京那系土師器	甕	在埴	12.5	2.4		
162 区域 1 A SK310A	京那系土師器	甕	在埴	13.3	2.3		
163 区域 1 A SK310A	京那系土師器	甕	在埴	(15.0)	2.0		
164 区域 1 A SK310A	白磁	甕	中国	13.8	2.7		
165 区域 1 A SK310B	土師器土器	小甕	在埴	4.1	1.9		
166 区域 1 A SK310B	土師器土器	小甕	在埴	4.7	1.95		
167 区域 1 A SK310B	土師器土器	小甕	在埴	4.7	1.6		
168 区域 1 A SK310B	土師器土器	小甕	在埴	4.9	2.1		
169 区域 1 A SK310B	土師器土器	小甕	在埴	5.0	2.0		
170 区域 1 A SK310B	土師器土器	小甕	在埴	5.0	2.0		
171 区域 1 A SK310B	土師器土器	小甕	在埴	(5.0)	1.8		
172 区域 1 A SK310B	土師器土器	小甕	在埴	(5.1)	2.0		
173 区域 1 A SK310B	土師器土器	小甕	在埴	5.2	1.8		
174 区域 1 A SK310B	土師器土器	小甕	在埴	(5.2)	1.1		
175 区域 1 A SK310B	土師器土器	小甕	在埴	5.5	1.7		
176 区域 1 A SK310B	土師器土器	耳瓶	在埴	6.3	2.3		
177 区域 1 A SK310B	土師器土器	耳瓶	在埴	6.0	2.1		
178 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	8.0	1.9		
179 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	8.5	2.0		
180 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	9.6	2.0		
181 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	9.7	2.3		
182 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	9.7	2.2		
183 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	9.7	2.2		
184 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	9.8	2.3		
185 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	9.9	2.2		
186 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	9.9	2.2		
187 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	9.95	2.2		
188 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.0	2.0		
189 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.0	2.1		
190 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.0	2.2		
191 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.0	2.1		
192 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.0	2.3		
193 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.0	2.0		
194 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.0	2.2		
195 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.0	2.0		
196 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.0	2.3		
197 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.0	2.2		
198 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.0	2.1		
199 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.1	1.9		
200 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.1	2.3		
201 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.1	2.1		
202 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.1	2.4		
203 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.2	2.1		
204 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.2	2.1		
205 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.2	2.0		
206 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.2	2.2		
207 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.2	2.4		
208 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.2	2.2		
209 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.2	2.2		
210 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.2	2.2		
211 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.2	2.2		
212 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.2	2.1		
213 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.2	1.9		
214 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.3	2.3		
215 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.3	2.0		
216 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.3	2.1		
217 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.3	2.1		
218 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.3	2.0		
219 区域 1 A SK310B	京那系土師器	甕	在埴	10.3	2.3		

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覧（土器・陶磁器③）

図録番号	遺物名	種類	器形	生産地	法量 (cm)			備考
					口径	底径	高さ	
220	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.5	2.3	
221	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.4	2.2	
222	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.4	2.0	
223	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.4	2.3	
224	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.4	2.1	
225	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.4	2.2	
226	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.4	2.5	
227	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.4	2.2	
228	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.5	2.1	
229	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.5	2.2	
230	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.5	2.0	
231	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.5	2.0	
232	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.5	2.6	
233	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.5	2.1	
234	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.5	2.3	
235	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.6	2.0	
236	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.6	2.1	
237	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.6	2.3	
238	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.9	2.3	
239	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	10.9	2.0	
240	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	12.0	2.7	
241	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	12.1	2.3	
242	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	12.3	2.4	
243	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	12.4	2.3	
244	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	12.4	2.1	
245	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	12.4	2.1	
246	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	12.4	2.2	
247	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	12.5	2.3	
248	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	12.5	2.5	
249	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	12.5	2.5	
250	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	12.5	2.5	
251	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	12.5	2.2	
252	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	12.6	2.4	
253	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	12.8	2.5	
254	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	12.8	2.6	
255	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	13.0	2.1	
256	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	13.0	2.2	
257	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	13.4	2.4	
258	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	13.5	2.5	
259	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	13.6	2.0	
260	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	13.7	2.5	
261	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	13.9	2.3	
262	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	14.0	2.3	
263	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	14.2	2.1	
264	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	14.3	2.4	
265	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	14.3	2.0	
266	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	14.5	2.4	
267	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	15.6	2.4	
268	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	15.8	2.2	
269	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	15.9	3.3	
270	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	16.1	2.2	
271	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	16.2	2.6	
272	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	16.2	2.3	
273	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	京都系土師器	皿	在産	16.2	2.5	
274	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	5.4	3.5	1.5
275	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	9.5	5.6	2.0
276	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	(0.8)	(5.8)	1.7
277	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	10.0	5.4	2.3
278	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	10.0	5.8	1.9
279	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	10.1	5.4	1.9
280	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	10.2	5.7	2.0
281	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	10.2	6.3	1.8
282	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	10.3	6.1	2.1
283	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	(10.4)	(6.0)	2.1
284	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	10.6	6.5	2.1
285	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	11.6	6.6	2.4
286	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	11.7	7.9	2.0
287	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	11.8	6.2	2.6
288	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	11.8	6.2	2.6
289	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	(12.0)	(6.5)	2.6
290	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	(12.1)	(6.8)	2.6
291	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	12.2	7.2	2.4
292	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	12.9	7.8	2.1
293	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	16.0	10.7	3.0
294	ⅠⅠⅠA	ⅢC10B	夕ク口日土師器	皿	在産	16.3	8.3	3.3
295	ⅠⅠⅠA	ⅢC10	土師器土器	小皿	在産	4.5	1.4	
296	ⅠⅠⅠA	ⅢC10	土師器土器	小皿	在産	4.5	1.5	
297	ⅠⅠⅠA	ⅢC10	土師器土器	小皿	在産	4.6	1.6	
298	ⅠⅠⅠA	ⅢC10	土師器土器	小皿	在産	4.7	1.5	
299	ⅠⅠⅠA	ⅢC10	土師器土器	小皿	在産	4.8	1.9	
300	ⅠⅠⅠA	ⅢC10	土師器土器	小皿	在産	(4.8)	1.4	
301	ⅠⅠⅠA	ⅢC10	土師器土器	小皿	在産	4.9	1.6	

龍田川穿孔

遺物一覧表 4

中世大友府内町跡第96次調査出土遺物一覧(土器・陶磁器④)

図版番号	遺物名	種類	器形	生産地	質量(g)		備考
					口徑	高さ	
70	302 区域1 A SX310	土師貫土器	小皿	在埴	5.0	1.9	
	303 区域1 A SX310	土師貫土器	小皿	在埴	5.0	1.7	
	304 区域1 A SX310	土師貫土器	小皿	在埴	5.0	1.4	
	305 区域1 A SX310	土師貫土器	小皿	在埴	(5.1)	1.6	
	306 区域1 A SX310	土師貫土器	小皿	在埴	5.3	1.8	
	307 区域1 A SX310	土師貫土器	小皿	在埴	(5.3)	2.0	
	308 区域1 A SX310	土師貫土器	小皿	在埴	5.4	1.6	
	309 区域1 A SX310	土師貫土器	小皿	在埴	5.5	1.3	
	310 区域1 A SX310	土師貫土器	小皿	在埴	5.6	1.7	
	311 区域1 A SX310	土師貫土器	小皿	在埴	5.1	1.9	底部に穿孔
	312 区域1 A SX310	土師貫土器	耳皿	在埴	7.0	2.0	
	313 区域1 A SX310	土師貫土器	耳皿	在埴	6.4	2.0	
	314 区域1 A SX310	土師貫土器	耳皿	在埴	6.2	2.1	
	315 区域1 A SX310	土師貫土器	耳皿	在埴	6.0	2.1	
	316 区域1 A SX310	土師貫土器	耳皿	在埴	6.7	2.0	
	317 区域1 A SX310	土師貫土器	耳皿	在埴			
	318 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.0	2.3	
	319 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.0	2.0	
	320 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.2	1.8	
	321 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.2	2.2	
	322 区域1 B SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.2	2.1	
	323 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.4	1.9	
	324 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.4	2.1	
	325 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.4	1.9	
	326 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.5	2.0	又文付前
	327 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.5	2.2	
	328 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.5	1.9	
	329 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.5	2.1	
	330 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.5	2.1	
	331 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.5	2.1	
	332 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.6	2.0	
	333 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.6	2.2	
	334 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.7	1.9	
	335 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.8	2.1	
	336 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.8	2.0	
	337 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.9	1.9	
338 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	8.9	1.9		
339 区域1 B SX310	京師系土師器	皿	在埴	9.1	2.3		
340 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	9.2	2.1		
341 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	9.3	2.2		
342 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	9.7	2.0		
343 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	9.9	2.2		
344 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	9.9	2.2		
345 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.0	2.1		
346 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.0	2.35		
347 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.0	2.2		
348 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.1	2.1		
349 区域1 B SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.1	2.1		
350 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.1	2.3		
351 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.1	2.2		
352 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.2	2.2		
353 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.2	2.3		
354 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.2	2.0		
355 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.2	2.1		
356 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.2	2.2		
357 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.2	2.3		
358 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.3	2.4		
359 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.3	2.0		
360 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.3	2.4		
361 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.3	2.3		
362 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.3	2.1		
363 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.3	1.9		
364 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.3	1.9		
365 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.3	2.2		
366 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.4	2.3		
367 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.4	2.1		
368 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.4	2.2		
369 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.4	2.3		
370 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.4	2.3		
371 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.4	2.1		
372 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.4	2.3		
373 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.5	2.15		
374 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.5	2.2		
375 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.5	2.4		
376 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.5	1.9		
377 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.5	2.1		
378 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.5	2.3		
379 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.6	2.1		
380 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.6	2.2		
381 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.6	2.1		
382 区域1 A SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.6	2.3		
383 区域1 B SX310	京師系土師器	皿	在埴	10.7	2.0		

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覧（土器・陶磁器⑤）

図録番号	遺構名	種類	器形	生産地	法量 (cm)			備考		
					口徑	底径	高さ			
72	384	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	13.0	2.1		
	385	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	10.7	2.1		
	386	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	10.7	2.0		
	387	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	10.7	2.1		
	388	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	10.7	2.1		
	389	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	10.8	4.6	2.0	
	390	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	10.8	2.1		
	391	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	10.8	2.2		
	392	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	10.8	2.0		
	393	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	10.8	2.4		
	394	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	10.8	2.1		
	395	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	10.8	2.5		
	396	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	10.9	2.2		
	397	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	11.0	2.3		
	398	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	11.0	2.4		
	399	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	11.1	2.2		
	400	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	11.2	2.7		
	401	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	11.6	2.1		
	402	ⅠⅢ B	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	11.7	2.2		
	403	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	11.8	2.65		
	404	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	11.8	(4.0)	2.7	
	405	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.0	2.6		
	406	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.0	2.3		
	407	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.1	2.5		
	408	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.2	2.5		
	409	ⅠⅢ B	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.2	2.1		
	410	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.2	2.6		
	411	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.3	2.55		
	412	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.3	2.3		
	73	413	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	10.2	2.3	
		414	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.3	2.3	
		415	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.4	2.4	
		416	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.4	2.4	
		417	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.4	2.2	
		418	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.5	2.5	
		419	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.5	2.3	
		420	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.5	2.3	
		421	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.5	2.6	
		422	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.5	2.3	
		423	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.6	2.1	
424		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	(12.6)	2.5		
425		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	(12.6)	2.4		
426		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.7	2.2		
427		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.7	2.2		
428		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.7	2.4		
429		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.8	2.4		
430		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.8	2.4		
431		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.8	2.0		
432		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.8	2.5		
433		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.8	2.4		
434		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.8	2.1		
435		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.9	2.6		
436		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	12.9	2.2		
437		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	13.0	2.1		
438		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	13.0	2.0		
439		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	13.2	2.2		
440		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	13.2	2.5		
441		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	13.3	2.0		
442		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	13.3	2.5		
443		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	13.9	2.5		
444		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	14.0	2.4		
445		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	(14.0)	2.3		
446		ⅠⅢ B	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	14.2	2.3		
447		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	14.2	2.6		
448		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	14.3	2.4		
449		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	14.4	2.8		
450		ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	15.3	3.0		
74		451	ⅠⅢ B	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	16.0	2.3	
		452	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	16.7	2.8	
	453	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	(16.7)	2.8		
	454	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	16.8	2.5		
	455	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	(17.0)	2.0		
	456	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	(17.8)	3.2		
	457	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼	(18.6)	2.9		
	458	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	皿	在焼				
	459	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	杯	在焼	(10.8)	3.0		
	460	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	杯	在焼	10.4	3.1		
	461	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	杯	在焼	10.4	3.4		
	462	ⅠⅢ A	SC10	京都系十勝器	杯	在焼	11.0	3.5		
	463	ⅠⅢ A	SC10	土師器土器	小皿	在焼	(4.5)	3.0	1.3	
	464	ⅠⅢ A	SC10	土師器土器	皿	在焼	(8.3)	(5.4)	1.8	
	465	ⅠⅢ A	SC10	土師器土器	皿	在焼	(8.6)	5.4	1.8	

遺物一覽表 6

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覽 (土器・陶磁器⑥)

図版番号	遺物名	種類	器形	生産地	質量 (g)			備考
					口徑	底径	高さ	
74	466 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	(0.0)	(6.0)	1.8	
	467 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	(9.3)	5.8	1.9	
	468 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	9.4	5.7	1.8	
	469 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	9.4	6.4	1.8	
	470 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	9.5	6.2	1.8	
	471 区域 1 A SK300	土師貫土器	甕	在埒	9.8	5.5	2.4	
	472 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	(9.6)	5.4	1.7	
	473 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	(9.8)	5.5	1.8	
	474 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	10.0	6.0	2.0	
	475 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	10.0	6.5	1.8	
	476 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	10.1	5.6	2.2	
	477 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	10.3	6.2	1.8	
	478 区域 1 B SK310	土師貫土器	甕	在埒	11.2	6.6	2.7	
	479 区域 1 B SK310	土師貫土器	甕	在埒	11.6	6.8	2.5	
	480 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	(11.6)	6.7	2.1	
	481 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	(12.0)	6.0	2.5	
	482 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	(12.0)	6.5	2.0	
483 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	12.1	6.8	2.6		
484 区域 1 B SK310	土師貫土器	甕	在埒	12.4	6.6	2.2		
485 区域 1 B SK310	土師貫土器	甕	在埒	12.5	6.6	2.7		
486 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	12.6	7.4	1.9		
487 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	12.6	7.5	1.9		
488 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	(12.6)	(7.0)	2.4		
489 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	13.2	7.5	2.4		
490 区域 1 A SK310	土師貫土器	甕	在埒	(14.4)	(7.7)	2.9		
491 区域 1 A SK310	青花	甕	景徳橋	5.0				
492 区域 1 A SK310	青花	甕	景徳橋	5.0				
493 区域 1 A SK310	青花	甕	景徳橋	(4.2)				
494 区域 1 A SK310	青花	甕	景徳橋	(4.0)				
495 区域 1 A SK310	青花	甕	湯川宮	(14.0)		5.2		
496 区域 1 A SK310	青花	甕	景徳橋	(10.0)	2.8	2.6		
497 区域 1 A SK310	細線	甕	景徳橋	(13.8)	7.6	3.3		
498 区域 1 A SK310	細線	甕	景徳橋			2.6		
499 区域 1 A SK310	青花	鉢	景徳橋	(9.0)				
500 区域 1 A SK310	青花	甕	湯川宮	11.2	4.2	3.0		
501 区域 1 A SK310	土師	甕	中岡	(12.0)				
502 区域 1 A SK310	土師	甕	中岡	(13.0)	(7.2)	2.5		
503 区域 1 A SK310	細線	小鉢	中岡	(5.3)	2.5	3.8		
504 区域 1 A SK310	青磁	甕	中岡(龍泉窯)	(13.4)			人形手	
505 区域 1 A SK310	青磁	甕	中岡	(12.7)	(5.4)	5.3		
506 区域 1 B SK310	青磁	香炉	中岡(龍泉窯)	2.6				
507 区域 1 A SK310	青磁	香炉	中岡(龍泉窯)	(8.4)	(6.4)	5.6		
508 区域 1 A SK310	青磁	甕	中岡	(10.2)				
509 区域 1 A SK310	土師	甕	中岡		(5.0)			
510 区域 1 A SK310	陶胎	甕	藤ノ木遺	(10.6)	2.4	6.1		
511 区域 1 A SK310	陶胎	鉢	中岡		(12.4)		縦割向面	
512 区域 1 A SK310	陶胎	甕	中岡					
513 区域 1 A SK310	陶胎	鉢	中岡	(27.8)	(14.0)	10.4		
514 区域 1 A SK310	瓦質土器	火鉢	在埒					
515 区域 1 A SK310	瓦質土器	火鉢	在埒					
516 区域 1 A SK310	瓦質土器	火鉢	在埒					
517 区域 1 A SK310	土師貫土器	*	青磁	(10.3)	(4.0)	4.0		
518 区域 1 A SK310	瓦質土器	網子付鉢	在埒					
519 区域 1 A SK310	瓦質土器	香炉	在埒		(9.8)			
520 区域 1 A SK310	瓦質土器	香炉	在埒		(7.8)			
521 区域 1 A SK310	土師貫土器	惣塩釜	在埒	(4.0)				
522 区域 1 A SK310	土師貫土器	唾台	在埒	(9.0)	(8.2)	8.1		
523 区域 1 A SK310	瓦質土器	鉢	在埒	31.2	20.0	11.4		
524 区域 1 A SK310	瓦質土器	鉢	在埒	(36.8)	26.6	10.5		
525 区域 1 A SK310	瓦質土器	鉢	在埒	(36.0)		9.4		
526 区域 1 A SK310	瓦質土器	火鉢	在埒	(35.3)				
527 区域 1 A SK310	瓦質土器	甕	在埒	(42.2)				
584 区域 1 A SK370	土師貫土器	小皿	在埒	4.5		1.9	穿孔あり	
585 区域 1 A SK370	土師貫土器	小皿	在埒	4.9		1.8		
586 区域 1 A SK370	土師貫土器	小皿	在埒	5.1		1.9		
587 区域 1 A SK370	土師貫土器	耳皿	在埒	6.3		2.0		
588 区域 1 A SK370	土師貫土器	耳皿	在埒					
589 区域 1 A SK370	京那系土師器	甕	在埒	8.1		1.95		
590 区域 1 A SK370	京那系土師器	甕	在埒	8.1		1.7		
591 区域 1 A SK370	京那系土師器	甕	在埒	8.6		2.3		
592 区域 1 A SK370	京那系土師器	甕	在埒	8.7		2.3		
593 区域 1 A SK370	京那系土師器	甕	在埒	9.9		2.25		
594 区域 1 A SK370	京那系土師器	甕	在埒	10.0		2.2		
595 区域 1 A SK370	京那系土師器	甕	在埒	10.2		2.3		
596 区域 1 A SK370	京那系土師器	甕	在埒	10.3		2.1		
597 区域 1 A SK370	京那系土師器	甕	在埒	10.3		2.0		
598 区域 1 A SK370	京那系土師器	甕	在埒	12.2		2.7		
599 区域 1 A SK370	京那系土師器	甕	在埒	12.4		2.4		
600 区域 1 A SK370	京那系土師器	甕	在埒	12.5		2.4		
601 区域 1 A SK370	京那系土師器	甕	在埒	12.6		2.2		
602 区域 1 A SK370	京那系土師器	甕	在埒	13.0		2.5		
603 区域 1 A SK370	京那系土師器	甕	在埒	13.5		2.4		

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覧 (土器・陶磁器?)

図録番号	遺構名	種類	器形	生産地	流量 (cm) ()は口径			備考
					口径	底径	高さ	
82	604 区画 1A	SC370	京都系土師器	皿	在地	14.0		2.75
	605 区画 1A	SC370	京都系土師器	皿	在地	14.2		2.5
	606 区画 1A	SC370	京都系土師器	皿	在地	16.0		2.6
	607 区画 1A	SC370	京都系土師器	皿	在地	16.0		2.3
	608 区画 1A	SC370	土師貫土師	皿	在地	(21.2)	(15.8)	3.0
	610 区画 1A	SC370	瓦葺土師	香炉	在地			
	612 区画 1B	SM402	土師貫土師	小皿	在地	5.0		1.5
	613 区画 1B	SM402	京都系土師器	皿	在地	8.6		2.0
	614 区画 1B	SM402	土師貫土師	皿	在地	8.0	5.2	1.5
	615 区画 1B	SM402	瓦葺土師	不明	在地			
84	616 区画 1B	SP303	土師貫土師	小皿	在地	5.0		1.8
	617 区画 1A	SP422	京都系土師器	皿	在地	9.9		2.2
	618 区画 1B	SP408	土師貫土師	皿	在地	(9.1)	(7.1)	2.5
	619 区画 2B	SP466	口夕口日土師器	皿	在地	(11.2)	(5.2)	2.6
	620 区画 1B	SP407	口夕口日土師器	皿	在地	(11.8)	(6.4)	2.8
	621 区画 1A	SP383	土師貫土師	皿	在地	(13.5)	9.7	3.8
	622 区画 1A	SP340	土師貫	小皿	在地			5.9 4.1
	626 区画 1A	SP364	陶器	人形鏡	瀬戸美濃	(11.6)		3.0
	630 区画 1B	SC390	青磁	皿	中国	(10.4)		2.0
	631 区画 1B	SC390	口夕口日土師器	皿	在地	11.8	6.6	2.6
86	632 区画 1A	京古野・惣地層	青磁	皿	中国(西安窯)	(10.45)	(5.55)	2.0
	633 区画 1B	京古野・惣地層	青白磁	合子蓋	中国(景德鎮)	(5.25)	(5.9)	1.3
	634 区画 1A	京古野・惣地層	磁器	合子蓋	中国(景德鎮)	(6.5)		1.6
	635 区画 1A	京古野・惣地層	土師	小皿	中国			
	636 区画 1B	京古野・惣地層	五彩	小洋	中国		(3.0)	
	637 区画 1A	京古野・惣地層	陶器	小皿	中国			青物(香炉物)
	638 区画 1B	京古野・惣地層	陶器	小皿	中国	(4.7)	(2.5)	1.0
	639 区画 1A	京古野・惣地層	陶器	小皿	中国			青物(香炉物)
	640 区画 1B	京古野・惣地層	陶器	小皿	中国			青物(香炉物)
	641 区画 1A	京古野・惣地層	陶器	蓋	中国	(16.0)		
87	642 区画 1B	京古野・惣地層	五彩	不明	中国			
	643 区画 1A	京古野・惣地層	陶器	陶瓶	瀬戸美濃			
	644 区画 1A	京古野・惣地層	陶器	蓋	中国			
	645 区画 1B	京古野・惣地層	陶器	部鉢	瀬戸			
	646 区画 1A	京古野・惣地層	土師貫土師	小皿	在地	5.2		1.7
	647 区画 1B	京古野・惣地層	京都系土師器	皿	在地	8.3		2.0
	648 区画 1B	京古野・惣地層	京都系土師器	皿	在地	8.6		2.0
	649 区画 1A	京古野・惣地層	京都系土師器	皿	在地	10.5		1.5
	650 区画 1A	京古野・惣地層	京都系土師器	皿	在地	10.4		2.2
	651 区画 1A	京古野・惣地層	土師貫土師	耳皿	在地		2.1	
88	652 区画 1A	京古野・惣地層	土師貫土師	小皿	在地	(4.4)	2.6	1.4
	653 区画 1A	京古野・惣地層	口夕口日土師器	皿	在地	(11.6)	6.6	2.7
	654 区画 1A	京古野・惣地層	口夕口日土師器	皿	在地	11.6	6.8	2.4
	655 区画 1B	京古野・惣地層	口夕口日土師器	皿	在地	(7.5)	4.5	2.2
	656 区画 1A	京古野・惣地層	口夕口日土師器	皿	在地	11.7	6.5	2.8
	657 区画 1B	京古野・惣地層	口夕口日土師器	皿	在地	11.9	6.3	3.1
	658 区画 1A	京古野・惣地層	瓦葺土師	火鉢	在地			
	659 区画 1A	京古野・惣地層	瓦葺土師	火鉢	在地			
	660 区画 1A	京古野・惣地層	瓦葺土師	鉢	在地			8.65
	661 区画 1B	京古野・惣地層	瓦葺土師	鉢	在地			
98	662 区画 1B	京古野・惣地層	瓦葺土師	鉢	在地	(26.0)	(17.0)	11.4
	663 区画 1B	京古野・惣地層	須右衛門土師	不明	不明			
	680 区画 1A	京古野・惣地層	油中鉢	坏鉢	瀬戸(陶器?)			
	717 区画 1B	SD3728	瓦葺土師	火鉢	在地			
	718 区画 2	SF070	青花	碗	中国(景德鎮)		5.1	3.5-a
	719 区画 2	SF070	口夕口日土師器	皿	在地	(7.8)	(5.0)	1.6
	720 区画 2	SF070	京都系土師器	皿	在地	12.3		2.3
	721 区画 2	SF070	瓦葺土師	羽釜	在地	(13.2)		
	722 区画 2	SF070	瓦葺土師	土鍋	在地			
	723 区画 2	SF070	瓦葺土師	土鍋	在地	(43.6)		
100	730 区画 2	SF070	五彩	皿	瀬戸美濃			
	731 区画 2	SF070	土師貫土師	小皿	在地	4.1	3.2	1.85
	732 区画 2	SF070	京都系土師器	皿	在地	8.75		1.95
	733 区画 2	SF070	土師貫土師	皿	在地	9.65	5.55	1.85
	734 区画 2	SF070	瓦葺土師	皿	在地		4.3	
	735 区画 2	SF070	陶器	部鉢	瀬戸			
	736 区画 2	SF070	陶器	部鉢	瀬戸			
	744 区画 2	SK001	陶器	大甕	瀬戸			
	746 区画 2	SK001	土師貫土師	陶行	在地		5.6	4.0
	747 区画 2	SK009	陶器	鉢	在地			
101	748 区画 2	SK009	瓦葺土師	鉢	在地			へ今記号あり
	749 区画 2	SK009	瓦葺土師	火鉢	在地		18.0	21.7
	750 区画 2	SK009	瓦葺土師	風炉	在地			
	751 区画 2	SK005	青花	小鉢	中国(景德鎮)		3.0	1.5
	752 区画 2	SK005	青花	碗	中国(景德鎮)	(11.8)		4.8
	753 区画 2	SK005	磁器	長頸瓶	中国(景德鎮)	(10.4)	(2.6)	2.7
	754 区画 2	SK005	五彩	皿	中国(景德鎮)			
	755 区画 2	SK005	青花	皿	中国(景德鎮)	(14.5)	(8.2)	3.1
	756 区画 2	SK005	青花	皿	中国(景德鎮)		5.8	1.6
	757 区画 2	SK005	磁器	水注	中国			
102	758 区画 2	SK005	土師	皿	中国	(13.6)	(8.5)	3.1
	759 区画 2	SK005	青磁	皿	中国	(8.7)	(3.8)	2.4

遺物一覽表 8

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覽 (土器・陶磁器⑥)

図版番号	遺物名	種類	器形	生産地	質量 (g)			備考
					口徑	底径	高さ	
760	区域2 SK005	青磁	皿	中国	(0.8)	(4.7)	2.7	
761	区域2 SK005	陶磁	皿	瀬ノ美濃	11.1	6.2	2.3	
762	区域2 SK005	磁器	鉢	中国(福建等)				片輪跡粘着
763	区域2 SK005	陶磁	碗	中国(清江陵)	(11.6)			
764	区域2 SK005	陶磁	鉢	瀬ノ美濃	(15.8)			
765	区域2 SK005	陶磁	皿	瀬ノ美濃	(9.8)	4.5	2.2	
766	区域2 SK005	陶磁	皿	瀬前	4.9			
767	区域2 SK005	陶磁	碗	瀬前	(10.4)		8.0	
768	区域2 SK005	陶磁	鉢	瀬前				
769	区域2 SK005	陶磁	鉢	瀬前				
770	区域2 SK005	陶磁	鉢	瀬前	(24.0)		2.7	
771	区域2 SK005	陶磁	鉢	瀬前	(27.8)		5.2+8	
772	区域2 SK005	陶磁	水屋裏	瀬前	(24.0)		12.2+6	
773	区域2 SK005	陶磁	鉢	瀬前		(23.6)		
774	区域2 SK005	陶磁	深鉢	瀬前	(28.4)	(11.5)	11.6	
775	区域2 SK005	陶磁	深鉢	瀬前	(23.0)	(17.3)	13.7	
776	区域2 SK005	陶磁	深鉢	瀬前	(28.6)	(13.3)	13.6	
777	区域2 SK005	京都系土師器	皿	在埴	8.2		1.7	
778	区域2 SK005	京都系土師器	皿	在埴	(8.5)		2.15	
779	区域2 SK005	京都系土師器	皿	在埴	8.4		2.4	
780	区域2 SK005	京都系土師器	皿	在埴	(8.5)		2.25	
781	区域2 SK005	京都系土師器	皿	在埴	9.9		2.1	
782	区域2 SK005	土師系土師器	皿	在埴	(7.5)	4.0	1.9	
783	区域2 SK005	土師系土師器	皿	在埴	(11.3)	6.9	2.4	二次的片倉札あり
784	区域2 SK005	五貫土師	細子鉢鉢	在埴	(19.1)	(13.4)	4.1	
785	区域2 SK005	五貫土師	土師	在埴				
786	区域2 SK005	五貫土師	鉢	在埴	(30.0)		9.9	
787	区域2 SK005	五貫土師	鉢	在埴				
788	区域2 SK005	五貫土師	鉢	在埴				
789	区域2 SK005	五貫土師	火鉢	在埴				
790	区域2 SK005	五貫土師	火鉢	在埴			4.0	
791	区域2 SK005	五貫土師	火鉢	在埴	(31.4)	(22.6)	32.2	
792	区域2 SK005	五貫土師	深鉢	在埴	(23.0)		10.05	
793	区域2 SK005	五貫土師	深鉢	在埴	(28.3)		13.5	
794	区域2 SK005	五貫土師	深鉢	在埴	(29.8)		12.3	
795	区域2 SK005	五貫土師	深鉢	在埴	(12.4)		13.1	
809	区域2 SK013	磁器	碗	中国(清江陵)	(15.0)	4.5	4.5	
810	区域2 SK013	陶磁	鉢	瀬前				
811	区域2 SK013	京都系土師器	皿	在埴	8.3		2.1	
812	区域2 SK013	五貫土師	火鉢	在埴				
813	区域2 SK013	五貫土師	火鉢	在埴				
815	区域2 SK225	陶磁	皿	肥前(清江陵)		4.4	1.7	
816	区域2 SK007	五貫土師	火鉢	在埴				
816	区域2 SK008	京都系土師器	皿	在埴	12.0		2.6	
817	区域2 SK008	京都系土師器	皿	在埴	12.0		2.3	
839	区域1 SK027	口ノ口土師器	耳皿	在埴				
940	区域2 SK027	口ノ口土師器	皿	在埴	(9.0)	(5.6)	1.7	
941	区域2 SD110-SD118	土師系土師	坪	在埴	(12.4)	7.0	3.3	
944	区域2 SD232	口ノ口土師器	皿	在埴	(9.8)	5.6	2.5	
945	区域2 SD232	口ノ口土師器	皿	在埴	(12.2)	6.2	2.5	
946	区域2 SD232	口ノ口土師器	皿	在埴	12.0	7.0	2.9	
948	区域2 SK019	陶磁	碗	中国(龍泉窯)	(14.5)			
950	区域2 SK020	口ノ口土師器	皿	在埴		(8.2)		
952	区域2 SK045	陶磁	鉢	中国	(26.9)	(5.2)	1.9	
954	区域2 SK045	五貫土師	皿	在埴				
955	区域2 SK045	五貫土師	鉢	在埴	(12.5)		4.0	
956	区域2 SK046	五貫土師	存箱	在埴		8.8		
957	区域2 SK046	陶磁	深鉢	瀬前	(31.6)	(13.7)	12.9	
958	区域2 SK047	口ノ口土師器	皿	在埴	8.1	5.4	1.5	
959	区域2 SK047	五貫土師	土師	在埴				
960	区域2 SK047	陶磁	鉢	瀬前	23.2	13.4	6.3	
963	区域2 SK049	口ノ口土師器	皿	在埴	9.5	5.7	2.0	
964	区域2 SK049	口ノ口土師器	皿	在埴	13.6	7.1	3.1	2箇所片倉札あり
966	区域2 SK145	五貫土師	鉢	在埴				
967	区域2 SK183	青瓷	鉢	中国(景德鎮)	14.6	5.3	7.1	
968	区域2 SK183	青瓷	鉢	中国(景德鎮)	(15.2)	(8.4)	2.4	
969	区域2 SK183	青瓷	皿	中国(景德鎮)	(14.8)	(8.3)	3.1	
970	区域2 SK183	青瓷	皿	中国(景德鎮)	(10.3)	(3.4)	2.45	
971	区域2 SK183	青瓷	鉢	中国(景德鎮)				
972	区域2 SK183	青瓷	鉢	中国(景德鎮)		(6.7)		
973	区域2 SK183	青瓷	碗	中国(景德鎮)	(11.5)			取柄
974	区域2 SK183	青瓷	碗	中国(清江陵)				
975	区域2 SK183	陶磁	小皿	中国	(6.4)	(4.2)	0.8	青磁(青紫駁)
976	区域2 SK183	陶磁	小皿	中国				磁粉
977	区域2 SK183	白磁	小皿	中国	(13.5)		2.1	
978	区域2 SK183	白磁	小鉢	中国(景德鎮)	(6.2)	(3.0)	3.8	
979	区域2 SK183	青磁	碗	中国(龍泉窯)	(12.0)		4.0	
980	区域2 SK183	青磁	碗	中国(龍泉窯)	(11.6)			
981	区域2 SK183	青磁	型	中国(龍泉窯)	(38.3)			
982	区域2 SK183	陶磁	片唐刺	瀬前		8.2		
983	区域2 SK183	陶磁	灰石唐	瀬前		(6.0)	6.3	
984	区域2 SK183	陶磁	深鉢	瀬前	(38.8)	14.4	18.2	

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覧 (土器・陶磁器⑨)

図録番号	遺物名	種類	器形	生産地	流量 (cm) ()は埋没深			備考
					口徑	底径	高さ	
136	985 Ⅰ域 2	SK183	陶器	大甕	備前			
	986 Ⅰ域 2	SK183	陶器	大甕	備前			
	987 Ⅰ域 2	SK184	陶器	大甕	備前			
	988 Ⅰ域 2	SK183	陶器	大甕	備前	(55.4)		
	989 Ⅰ域 2	SK183	陶器	大甕	備前		(37.5)	
	990 Ⅰ域 2	SK183	陶器	大甕	備前		(41.0)	
	991 Ⅰ域 2	SK183	土師質土器	小皿	在産	(38)	(28)	1.05
	992 Ⅰ域 2	SK183	京鹿系土師器	フシ	在産	10.0		3.6
	993 Ⅰ域 2	SK183	土師質土器	不明	不明			
	994 Ⅰ域 2	SK183	瓦葺土器	羽釜	在産			
995 Ⅰ域 2	SK183	瓦葺土器	鉢	在産	(31.7)		7.35	
996 Ⅰ域 2	SK183	瓦葺土器	鉢	在産	(32.2)	(23.6)	10.1	
997 Ⅰ域 2	SK183	瓦葺土器	火鉢	在産	(20.0)			
1006 Ⅰ域 2	SK202	口夕口日土師器	皿	在産	(41.2)	6.5	2.3	
1007 Ⅰ域 2	SK202	京鹿系土師器	皿	在産	(46.2)		2.5	
1008 Ⅰ域 2	SK202	陶器	甕	中野(鹿城楽)	7.5		19.6	
1009 Ⅰ域 2	SK202	陶器	甕	備前	(32.2)			
1010 Ⅰ域 2	SK202	陶器	甕	備前		(25.4)		
1011 Ⅰ域 2	SK205	京鹿系土師器	皿	在産	(12.2)		2.4	
1012 Ⅰ域 2	SK205	陶器	甕	備前	(11.0)			
1013 Ⅰ域 2	SK206	京鹿系土師器	皿	在産		8.6	1.3	
1014 Ⅰ域 2	SK206	陶器	身帯刺	朝鮮				
1015 Ⅰ域 2	SK206	陶器	身帯刺	朝鮮		(13.0)		
1017 Ⅰ域 2	SK210	口夕口日土師器	皿	在産	12.0	5.8	2.5	
1018 Ⅰ域 2	SK210	口夕口日土師器	皿	在産	(11.8)	7.0	2.9	
1019 Ⅰ域 2	SK210	口夕口日土師器	皿	在産	10.2	5.2	2.0	
1020 Ⅰ域 2	SK210	口夕口日土師器	皿	在産	(16.2)	8.8	3.5	
1023 Ⅰ域 2	SK214	京鹿系土師器	皿	在産		12.7	3.3	
1024 Ⅰ域 2	SK217	口夕口日土師器	皿	在産	(13.0)	6.0	3.6	
1025 Ⅰ域 2	SK218	糸切刀土師器	杯	在産	11.8	6.8	2.7	
1026 Ⅰ域 2	SK218	陶器	漆鉢	備前	(28.3)			
1027 Ⅰ域 2	SK218	陶器	漆鉢	備前			11.8	
1028 Ⅰ域 2	SK225	陶器	有底	中野(湯城楽)	(15.5)			
1029 Ⅰ域 2	SK225	陶器	漆鉢	備前	30.0	(14.0)	13.4	
1033 Ⅰ域 2	SK215	京鹿系土師器	皿	在産	12.3		2.3	
1034 Ⅰ域 2	SK215	京鹿系土師器	皿	在産	12.4		2.1	
1035 Ⅰ域 2	SK215	京鹿系土師器	皿	在産	17.0		2.6	
1036 Ⅰ域 2	SK215	口夕口日土師器	皿	在産	(12.0)	(5.6)	2.1	
1037 Ⅰ域 2	SK215	口夕口日土師器	皿	在産	11.2	5.8	2.7	
1038 Ⅰ域 2	SK215	口夕口日土師器	皿	在産	11.8	6.2	2.6	
1039 Ⅰ域 2	SK215	瓦葺土器	火鉢	在産				
1043 Ⅰ域 2	SK216	口夕口日土師器	皿	在産	10.8	5.2	2.6	
1046 Ⅰ域 2	SK199	土師質土器	杯	在産	12.4	6.3	2.3	
1047 Ⅰ域 2	SK208	口夕口日土師器	皿	在産	7.8	4.8	2.0	
1048 Ⅰ域 2	SK208	口夕口日土師器	皿	在産	9.2	5.4	2.2	
1049 Ⅰ域 2	SK136	口夕口日土師器	皿	在産	11.3	6.3	2.85	
1050 Ⅰ域 2	SK212	土師質土器	皿	在産	11.3	6.1	2.9	
1051 Ⅰ域 2	SK209	京鹿系土師器	皿	在産	12.4		2.6	
1057 Ⅰ域 2	SK290	土師質土器	小皿	在産	(6.2)	(4.6)	1.1	
1058 Ⅰ域 2	SK290	土師質土器	小皿	在産	(8.0)	4.0	1.9	
1059 Ⅰ域 2	SK290	土師質土器	小皿	在産	7.3	5.7	2.1	
1060 Ⅰ域 2	SK290	土師質土器	小皿	在産	(8.0)	6.0	1.5	
1061 Ⅰ域 2	SK290	土師質土器	杯	備前	(13.0)	(6.2)	3.7	
1062 Ⅰ域 2	SK290	陶器	甕	備前			白色系(大内系)	
1066 Ⅰ域 2	SK290	瓦葺土器	火鉢	在産				
1067 Ⅰ域 2	SK290	瓦葺土器	火鉢	在産				
1068 Ⅰ域 2	SK290	瓦葺土器	鉢	在産				
1071 Ⅰ域 2	SK095	瓦葺土器	鉢	在産				
1072 Ⅰ域 2	SK095	瓦葺土器	漆鉢	在産				
1076 Ⅰ域 2	SK223	土師質土器	小皿	在産	(7.7)	5.6	2.2	
1077 Ⅰ域 2	SK223	瓦葺土器	火鉢	在産		(21.5)		
1078 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	小皿	在産	(7.2)	5.6	1.2	
1079 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	小皿	在産	7.6	5.9	1.25	
1080 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	小皿	在産	7.6	6.2	1.0	
1081 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	杯	在産	11.4	7.5	3.2	
1082 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	杯	在産	12.4	7.7	3.0	
1083 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	杯	在産	12.0	8.2	3.15	
1084 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	杯	在産	11.8	8.3	3.4	
1085 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	杯	在産	12.6	9.6	3.4	
1086 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	杯	在産	12.5	8.7	3.45	
1087 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	杯	在産	12.2	7.7	3.9	
1088 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	杯	在産	12.6	8.1	2.9	
1089 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	杯	在産	(13.0)	9.0	3.2	
1090 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	杯	在産	12.5	8.5	3.3	
1091 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	杯	在産	12.2	8.1	3.2	
1092 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	杯	在産	12.5	8.1	3.5	
1093 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	杯	在産	11.0	8.7	3.0	
1094 Ⅰ域 2	SK219	陶器	甕	備前		4.0		
1095 Ⅰ域 2	SK219	土師質土器	鉢	不明	(23.8)			
1096 Ⅰ域 2	SK219	瓦葺土器	鉢	在産	(25.8)			
1103 Ⅰ域 2	SK214	土師質土器	甕行	在産	(8.4)	(7.1)	2.9	
1104 Ⅰ域 2	SK214	土師質土器	小皿	在産	7.2	6.0	1.4	

遺物一覽表 10

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覽 (土器・陶磁器⑩)

図版番号	遺構名	種類	器形	生産地	質量 (g)			備考
					口徑	底径	高さ	
1105	区域2 SDH74	土器甕土器	小皿	在埴	7.6	6.0	1.2	
1106	区域2 SDH74	土器甕土器	小皿	在埴	7.55	6.55	1.3	
1107	区域2 SDH74	土器甕土器	小皿	在埴	7.7	6.2	1.2	
1108	区域2 SDH74	土器甕土器	小皿	在埴	7.8	6.5	1.3	
1109	区域2 SDH74	土器甕土器	小皿	在埴	7.6	6.4	1.1	
1110	区域2 SDH74	土器甕土器	小皿	在埴	7.2	6.5	1.4	
1111	区域2 SDH74	土器甕土器	小皿	在埴	8.0	6.6	1.2	
1112	区域2 SDH74	土器甕土器	小皿	在埴	7.8	6.0	1.6	
1113	区域2 SDH74	土器甕土器	小皿	在埴	7.6	6.4	1.7	
1114	区域2 SDH74	土器甕土器	小皿	在埴	7.9	6.2	1.4	
1115	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	10.8	9.0	2.5	
1116	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	7.1	6.8	3.65	
1117	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	(11.0)	(9.0)	3.9	
1118	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	11.1	9.0	3.3	
1119	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	11.4	8.0	3.4	
1120	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	11.6	7.8	3.5	
1121	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	12.1	8.4	3.85	
1122	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	11.5	8.0	3.2	
1123	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	(16.7)	(8.0)	3.5	
1124	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	(12.0)	(8.3)	3.9	
1125	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	(11.6)	(7.0)	3.3	
1126	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	11.8	8.2	3.6	
1127	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	(12.2)	(8.9)	3.3	
1128	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	12.6	8.4	3.5	
1129	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	12.2	9.2	3.3	
1130	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	12.0	7.6	3.0	
1131	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	12.0	9.2	3.3	
1132	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	12.5	7.9	3.8	
1133	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	12.3	8.7	3.3	
1134	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	(12.2)	9.4	3.2	
1135	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	(12.2)	8.7	3.4	
1136	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	12.1	9.0	3.3	
1137	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	12.2-13.3	9.0	3.5	
1138	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	12.2	9.0	3.2	
1139	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	(12.2)	8.4	3.7	
1140	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	(12.4)	(8.8)	3.4	
1141	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	(12.4)	(9.2)	3.5	
1142	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	(12.4)	(8.8)	3.5	
1143	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	12.6	9.8	3.6	
1144	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	12.1	9.5	3.45	
1145	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	12.4	8.5	3.6	
1146	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	17.4	9.5	3.3	
1147	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	12.8	8.7	3.45	
1148	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	(12.6)	9.0	3.4	
1149	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	13.2	9.8	3.2	
1150	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	(12.4)	(8.8)	3.5	
1151	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	(12.8)	9.8	3.3	
1152	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	12.8	10.0	3.1	
1153	区域2 SDH74	土器甕土器	坪	在埴	(13.2)	9.0	3.4	
1154	区域2 SDH74	瓦甕土器	火鉢	不詳	(23.3)			
1155	区域2 SDH74	瓦甕土器	鉢	不詳	(28.2)	(11.0)	10.6	
1156	区域2 SDH20	陶師	大口甕	中岡			4.2	
1159	区域2 SDH20	土器甕土器	坪	在埴	(11.5)		6.5	2.1
1160	区域2 SDH20	土器甕土器	坪	在埴				
1161	区域2 SDH20	土器甕土器	鉢	在埴				
1162	区域2 SDH20	土器甕土器	鉢	在埴				
1163	区域2 SDH20	土器甕土器	鉢	在埴	(12.1)		(6.5)	3.8
1164	区域2 SDH20	土器甕土器	碗	在埴	(15.3)		(7.4)	5.1
1165	区域2 SDH20	織文土器	浅鉢	在埴				織文陶師次郎文土器
1166	区域2 SK215	土器甕土器	小皿	在埴	8.0	6.0	1.0	
1169	区域2 SK215	土器甕土器	小皿	在埴	12.2	5.2	3.0	
1170	区域2 SK233	土器甕土器	碗	在埴	(10.0)		3.5	3.6
1171	区域2 SK233	土器甕土器	碗	古瀬	11.0	4.2	3.1	
1172	区域2 SK233	土器甕土器	碗	古瀬	11.2	3.8	3.1	
1173	区域2 SK233	土器甕土器	碗	中岡	(11.2)		4.2	3.0
1174	区域2 SK233	土器甕土器	碗	在埴	(12.0)		6.0	3.8
1175	区域2 SK233	土器甕土器	坪	在埴	(12.6)		(6.4)	3.5
1176	区域2 空否智・豊地郡	青瓦	甕	中岡(泉徳洞)	(10.4)	5.0	2.3	
1177	区域2 空否智・豊地郡	青瓦	甕	中岡(泉徳洞)				
1178	区域2 空否智・豊地郡	青瓦	甕	中岡(泉徳洞)	(11.4)	3.8	2.5	
1179	区域2 空否智・豊地郡	青瓦	甕	中岡(泉徳洞)	12.0	4.6	2.9	
1180	区域2 空否智・豊地郡	陶師	甕	中岡				
1181	区域2 空否智・豊地郡	陶師	甕	中岡(福州堂)				
1182	区域2 空否智・豊地郡	陶師	甕	中岡	(15.4)	(7.8)	3.0	
1183	区域2 空否智・豊地郡	青瓦	甕	中岡(泉徳洞)				
1184	区域2 空否智・豊地郡	青瓦	甕	中岡(泉徳洞)			(6.3)	
1185	区域2 空否智・豊地郡	陶師	鉢鉢	備前			(14.0)	
1186	区域2 空否智・豊地郡	陶師	鉢	備前	(20.7)		(11.8)	4.45
1187	区域2 空否智・豊地郡	土器甕土器	小皿	在埴	5.0		1.7	
1188	区域2 空否智・豊地郡	京都系土器	小皿	在埴	8.6		2.0	
1189	区域2 空否智・豊地郡	土器甕土器	小皿	在埴	13.4	4.6	2.6	
1190	区域2 空否智・豊地郡	土器甕土器	坪	在埴	11.6	7.6	3.1	

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覧 (土器・陶磁器①)

図版番号	遺構名	種類	器形	生産地	流量 (cm)		備考
					口縁	底径	
178	1191 区域 2	古瓦葺・整地層	土師瓦土器	甕台	在産	7.0	
	1241 区域 2	古瓦葺・整地層	青花	皿	中国(景徳鎮)	9.0	4.5 2.4
	1242 区域 2	古瓦葺・整地層	青花	皿	中国(景徳鎮)	9.6	4.8 2.6
	1243 区域 2	古瓦葺・整地層	青花	皿	中国(景徳鎮)	(10.4)	(6.2) 2.5
	1244 区域 2	古瓦葺・整地層	白磁	皿	中国	9.6	4.7 2.0
	1245 区域 2	古瓦葺・整地層	白磁	皿	中国	(10.2)	5.5 2.5
	1246 区域 2	古瓦葺・整地層	陶器	大口甕	中国	(10.4)	4.8
	1247 区域 2	古瓦葺・整地層	陶器	付明器	中国	(10.7)	
	1248 区域 2	古瓦葺・整地層	華山三彩	香炉?*	中国		
	1249 区域 2	古瓦葺・整地層	陶器	皿	瀬戸美濃	7.7	4.5 2.0
	1250 区域 2	古瓦葺・整地層	陶器	甕瓶	瀬戸美濃		
	1251 区域 2	古瓦葺・整地層	陶器	壺形	壺形	5.2	
	1252 区域 2	古瓦葺・整地層	陶器	小壺	壺形	(4.4)	
	1253 区域 2	古瓦葺・整地層	陶器	小壺	壺形		(5.7)
	1254 区域 2	古瓦葺・整地層	陶器	鉢	壺形	(2.40)	
	1255 区域 2	古瓦葺・整地層	陶器	大壺	壺形		
	182	1256 区域 2	古瓦葺・整地層	土師瓦土器	小壺	在産	4.8
1257 区域 2		古瓦葺・整地層	土師瓦	小壺	在産	5.3	1.5
1258 区域 2		古瓦葺・整地層	土師瓦	付明器	在産	8.3	1.55
1259 区域 2		古瓦葺・整地層	土師瓦	杯	在産	8.3	2.1
1260 区域 2		古瓦葺・整地層	土師瓦	付明器	在産	9.0	2.3
1261 区域 2		古瓦葺・整地層	土師瓦	杯	在産	10.0	2.1
1262 区域 2		古瓦葺・整地層	口夕口土師瓦	小壺	在産	4.8	3.3 1.3
1263 区域 2		古瓦葺・整地層	口夕口土師瓦	皿	在産	8.0	4.9 1.8
1264 区域 2		古瓦葺・整地層	土師瓦土器	皿	在産	(7.6)	4.2 1.9
1265 区域 2		古瓦葺・整地層	土師瓦土器	皿	在産	(9.8)	(5.6) 1.9
1266 区域 2		古瓦葺・整地層	土師瓦土器	皿	在産	(10.2)	6.0 2.2
1267 区域 2		古瓦葺・整地層	土師瓦土器	杯	在産	(11.6)	5.9 2.8
1268 区域 2		古瓦葺・整地層	土師瓦土器	杯	在産	12.0	6.4 2.6
1269 区域 2		古瓦葺・整地層	土師瓦土器	甕台	在産	(5.9)	1.9+α
1270 区域 2		古瓦葺・整地層	土師瓦土器	小壺	在産	4.4	3.5 1.7
1271 区域 2		古瓦葺・整地層	土師瓦土器	小壺	在産	8.2	6.3 1.6
1272 区域 2		古瓦葺・整地層	土師瓦土器	小壺	在産	11.8	9.0 3.15
1273 区域 2	古瓦葺・整地層	土師瓦土器	甕	吉備	(10.1)	4.0 2.8	
1274 区域 2	古瓦葺・整地層	土師瓦土器	甕	吉備	(11.2)	3.8 3.1	
1275 区域 2	古瓦葺・整地層	土師瓦土器	杯	在産	(12.6)	(7.0) 3.5	
1276 区域 2	古瓦葺・整地層	土師瓦土器	杯	在産	(12.3)	(6.6) 3.5	
1277 区域 2	古瓦葺・整地層	土師瓦土器	杯	在産	12.6	6.6 3.6	
1278 区域 2	古瓦葺・整地層	土師瓦土器	不明	在産			
1279 区域 2	古瓦葺・整地層	瓦葺土器	大鉢	在産			
183	1280 区域 2	古瓦葺・整地層	染付土器	鉢	染付	(2.48)	
	1281 区域 2	古瓦葺・整地層	染付土器	鉢	染付	(8.0)	
187	1356 区域 2	古瓦葺・整地層	土師瓦土器	皿	在産	8.8	4.2 2.1
	1357 区域 2	古瓦葺・整地層	青花	皿	中国(景徳鎮)	(10.2)	(4.9) 2.65
188	1358 区域 2	古瓦葺・整地層	陶器	付明器	女子		
	1359 区域 2	古瓦葺・整地層	京原系土師瓦	皿	中国	8.1	2.35
	1360 区域 2	古瓦葺・整地層	青磁	碗	中国(東寧堂)	(11.9)	5.6 5.15
	1361 区域 2	古瓦葺・整地層	瓦葺土器	鉢	在産	(19.8)	
	1362 区域 2	古瓦葺・整地層	瓦葺土器	鉢	在産		

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覧 (土製品①)

図版番号	遺構名	種類	材質	彫・文様	寸法 (cm)		備考
					長さ	幅	
15	1 区域 1 B	SF530	土師瓦		長さ 4.9	幅 1.1	孔徑 0.3
	9 区域 1 B	S0400	土師瓦		長さ 5.1	幅 2.0	孔徑 0.5
	10 区域 1 B	S0400	土師瓦		長さ 5.0	幅 2.1	孔徑 0.5
	11 区域 1 B	S0400	土師瓦		長さ 4.9	幅 1.8	孔徑 0.4
	12 区域 1 B	S0400	土師瓦		長さ 4.9	幅 1.9	孔徑 0.5
	13 区域 1 B	S0400	土師瓦		長さ 5.3	幅 1.1	孔徑 0.3
17	14 区域 1 B	S0400	土師瓦		長さ 5.3	幅 2.1	孔徑 0.6
	18 区域 1 B	SX387	土師瓦		長さ 5.5	幅 1.2	孔徑 0.4
	27 区域 1 B	SX508	土師瓦		長さ 5.2	幅 2.0	孔徑 0.5
	28 区域 1 B	SX508	土師瓦		長さ 4.7	幅 1.7	孔徑 0.4
	38 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 4.2	幅 2.0	孔徑 0.6
	39 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 4.2	幅 2.2	孔徑 0.5
	40 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 4.4	幅 1.9	孔徑 0.5
	41 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 4.4	幅 2.1	孔徑 0.5
	42 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 4.4	幅 2.0	孔徑 0.5
	43 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 4.8	幅 2.0	孔徑 0.6
20	44 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 4.6	幅 2.0	孔徑 0.6
	45 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 4.7	幅 2.1	孔徑 0.5
	46 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 4.8	幅 2.2	孔徑 0.5
	47 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 4.9	幅 2.0	孔徑 0.6
	48 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 4.9	幅 1.9	孔徑 0.5
	49 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 5.1	幅 1.7	孔徑 0.6
	50 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 4.6	幅 1.2	孔徑 0.6
	51 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 5.3	幅 2.0	孔徑 0.6
	52 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 5.4	幅 2.0	孔徑 0.6
	53 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 5.3	幅 2.2	孔徑 0.6
54 区域 1 B	SX509	土師瓦		長さ 5.3	幅 2.2	孔徑 0.7	

遺物一覧表 12

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覧 (土製品②)

図面番号	遺構名	種類	材質	部位・状態	寸法 (cm)			備考
					長さ	幅	厚さ	
20	55 区域 1 B SK509	土師	土師瓦	長さ	5.3	幅	2.1	厚さ 0.5
	56 区域 1 B SK509	土師	土師瓦	長さ	5.4	幅	1.9	厚さ 0.5
	91 区域 1 B SK567	土師	土師瓦	長さ	5.2	幅	2.0	厚さ 0.5
36	92 区域 1 B SK567	土師	土師瓦	長さ	5.2	幅	2.1	厚さ 0.5
	93 区域 1 B SK567	土師	土師瓦	長さ	4.4	幅	2.3	厚さ 0.5
40	97 区域 1 A SK253	土師	土師瓦	長さ	4.1	幅	1.0	厚さ 0.5
43	100 区域 1 A SK314	土師	土師瓦	長さ	4.8	幅	1.1	厚さ 0.5
48	102 区域 1 B SK799	土師	土師瓦	長さ	5.0	幅	2.0	厚さ 0.5
84	623 区域 1 A SP294	土師	土師瓦	長さ	3.5	幅	0.9	厚さ 0.3
	624 区域 1 A SP338	土師	土師瓦	長さ	3.8	幅	1.6	厚さ 0.3
	664 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.8	幅	1.2	厚さ 0.3
	665 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.8	幅	1.35	厚さ 0.3
	666 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.8	幅	1.9	厚さ 0.3
	667 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.8	幅	1.2	厚さ 0.3
	668 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.8	幅	1.0	厚さ 0.2
	669 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.7	幅	2.1	厚さ 0.2
	670 区域 1 A 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	5.2	幅	1.1	厚さ 0.4
	671 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	3.6	幅	1.6	厚さ 0.3
	672 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.4	幅	1.1	厚さ 0.3
	673 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	5.4	幅	0.9	厚さ 0.2
	674 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.6	幅	2.0	厚さ 0.2
88	675 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	5.6	幅	2.0	厚さ 0.2
	676 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.6	幅	2.0	厚さ 0.3
	677 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.6	幅	1.9	厚さ 0.3
	678 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.8	幅	1.9	厚さ 0.3
	679 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.7	幅	2.1	厚さ 0.2
	680 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	5.0	幅	2.0	厚さ 0.2
	681 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	5.0	幅	2.2	厚さ 0.3
	682 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	5.7	幅	1.3	厚さ 0.3
	683 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	5.3	幅	2.0	厚さ 0.2
	684 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	5.1	幅	2.1	厚さ 0.3
	685 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.3	幅	1.3	厚さ 0.2
	724 区域 2 SP075	土師	土師瓦	長さ	7.5	幅	1.9	厚さ 0.5
98	725 区域 2 SP070	土師	土師瓦	長さ	3.3	幅	1.0	厚さ 0.5
	726 区域 2 SP070	土師	土師瓦	長さ	3.8	幅	1.5	厚さ 0.3
	745 区域 2 SX001	土師	土師瓦	長さ	5.2	幅	1.1	厚さ 0.4
121	943 区域 2 SP070	土師	土師瓦	長さ	3.8	幅	1.9	厚さ 0.3
131	962 区域 2 SK040	土師	土師瓦	長さ	3.8	幅	1.2	厚さ 0.4
140	1005 区域 2 SK184	土師	土師瓦	長さ	5.8	幅	1.4	厚さ 0.5
147	1021 区域 2 SK213	土師	土師瓦	長さ	2.3	幅	1.0	厚さ 0.5
	1044 区域 2 SP190	土師	土師瓦	長さ	4.0	幅	1.7	厚さ 0.5
158	1052 区域 2 SP156	土師	土師瓦	長さ	4.5	幅	1.1	厚さ 0.5
	1053 区域 2 SP161	土師	土師瓦	長さ	5.2	幅	1.5	厚さ 0.5
173	1166 区域 2 SD590	土師	土師瓦	長さ	4.3	幅	3.1	厚さ 0.3
161	1064 区域 2 SD590	土師	土師瓦	長さ	3.8	幅	2.4	厚さ 0.7
	1065 区域 2 SD590	土師	土師瓦	長さ	5.0	幅	1.1	厚さ 0.2
166	1097 区域 2 SD110	土師	土師瓦	長さ	6.0	幅	1.8	厚さ 0.3
173	1166 区域 2 SD220	土師	土師瓦	長さ	4.8	幅	2.7	厚さ 0.9
178	1195 区域 2 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.8	幅	0.9	厚さ 0.2
	1196 区域 2 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.6	幅	1.5	厚さ 0.6
	1284 区域 2 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.8	幅	0.8	厚さ 0.3
183	1285 区域 2 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.8	幅	1.3	厚さ 0.3
	1286 区域 2 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	3.6	幅	1.2	厚さ 0.3
	1287 区域 2 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.9	幅	1.1	厚さ 0.3
	1355 区域 2 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	3.1	幅	1.95	厚さ 0.5
188	1363 区域 2 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	3.9	幅	1.6	厚さ 0.4
	686 区域 1 A 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	2.1	幅	1.2	厚さ 1.6
88	687 区域 1 B 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	3.1	幅	4.0	厚さ 0.5
54	115 区域 1 A SE240	陶器	土師	長さ	4.8	幅	4.8	厚さ 0.5
88	688 区域 1 A 瓦管・埴地師	加工品	瓦質	長さ	3.5	幅	3.6	厚さ 0.7
88	689 区域 1 A 瓦管・埴地師	加工品	瓦質	長さ	3.95	幅	3.9	厚さ 0.7
88	796 区域 2 SK005	加工品	瓦質	長さ	4.9	幅	5.0	厚さ 0.7
88	691 区域 1 A 瓦管・埴地師	鍍金	土師瓦	長さ	2.8	幅	2.8	高さ 1.5
98	949 区域 2 SK020	土器	土師	長さ	1.5	幅	1.55	厚さ 1.5
98	737 区域 2 SP070(埋没)	土師	土師瓦	長さ	4.1	幅	3.0	
178	1193 区域 2 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.1	幅	3.0	
	1194 区域 2 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	3.1	幅	3.0	
183	1283 区域 2 瓦管・埴地師	土師	土師瓦	長さ	4.2	幅	4.0	
178	1192 区域 2 瓦管・埴地師	有文青瓦	土師	長さ	2.3	厚さ	0.3	厚さ 0.6
183	1282 区域 2 瓦管・埴地師	有文青瓦	土師	長さ	2.3	厚さ	0.3	厚さ 0.6

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覧 (石製品①)

図面番号	遺構名	種類	材質	部位・状態	寸法 (cm)			備考
					長さ	幅	厚さ	
16	8 区域 1 B SF400	新石	砂岩	F/F	長さ	幅	厚さ	
17	19 区域 1 B SC387	新石	安山岩	長さ	幅	厚さ		
20	26 区域 1 B SK209	新石	砂岩	F/F	長さ	幅	厚さ	13.3
20	37 区域 1 B SK309	新石	砂岩	長さ	幅	厚さ	19.4	厚さ 4.1
31	82 区域 1 A SK369	新石	砂岩	長さ	10.3	幅	5.0	厚さ 8.0 730

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覧 (ガラス製品②)

図版番号	遺構名	種類	寸法 (cm)				重量 (g)	備考	
877	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
878	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.2	幅	0.4	口径	0.2	0.1
879	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.5	口径	0.2	0.1
880	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.2	幅	0.4	口径	0.2	0.1
881	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
882	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.2	幅	0.5	口径	0.2	0.1
883	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.5	口径	0.2	0.1
884	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.5	口径	0.2	0.1
885	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.2	幅	0.4	口径	0.1	0.1
886	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.5	口径	0.2	0.1
887	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.5	口径	0.2	0.1
888	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.4	幅	0.5	口径	0.2	0.1
889	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.5	口径	0.2	0.1
890	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.5	口径	0.2	0.1
891	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
892	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
893	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
894	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
895	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.45	口径	0.2	0.1
896	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
897	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
898	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.3	口径	0.1	0.1
899	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
900	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
901	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.4	幅	0.4	口径	0.2	0.1
902	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
903	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.3	口径	0.2	0.1
904	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.2	幅	0.4	口径	0.2	0.1
905	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.2	幅	0.4	口径	0.2	0.1
906	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
907	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.4	幅	0.4	口径	0.2	0.1
908	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.4	幅	0.4	口径	0.2	0.1
909	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.2	幅	0.4	口径	0.2	0.1
910	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
911	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.4	幅	0.4	口径	0.2	0.1
912	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.2	幅	0.4	口径	0.2	0.1
913	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
914	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
915	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.2	幅	0.4	口径	0.2	0.1
916	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.2	幅	0.4	口径	0.2	0.1
917	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
918	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.4	幅	0.5	口径	0.2	0.1
919	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	1.5	口径	0.2	0.1
920	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.2	幅	2.5	口径	0.2	0.1
921	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	3.5	口径	0.2	0.1
922	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
923	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.1	0.1
924	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.4	幅	0.4	口径	0.2	0.1
925	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.5	幅	0.4	口径	0.2	0.1
926	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.2	幅	0.4	口径	0.2	0.1
927	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.2	幅	0.4	口径	0.2	0.1
928	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
929	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.2	幅	0.4	口径	0.2	0.1
930	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.1	0.1
931	区域2 146区整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
697	区域1A 3号館・整地部	ガラス小玉	長さ	0.2	幅	0.4	口径	0.2	0.1
698	区域1A 3号館・整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	口径	0.2	0.1
699	区域1A 3号館・整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.3	口径	0.2	0.1
1197	区域2 3号館・整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.3	厚さ	0.3	0.1
1198	区域2 3号館・整地部	ガラス小玉	長さ	0.4	幅	0.4	口径	0.1	0.1
1199	区域2 3号館・整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	厚さ	0.2	0.1
1200	区域2 3号館・整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.3	厚さ	0.2	0.1
1201	区域2 3号館・整地部	ガラス小玉	長さ	0.3	幅	0.4	厚さ	0.3	0.1
1202	区域2 3号館・整地部	灰粘土	径	2.3					14.6

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覧 (銅銭①)

図版番号	遺構名	銭貨名	国・王朝名	初繰年	重量 (g)	直径 (cm)	書体	備考
38	96	区域1A SX241	空乏通寶	北宋	1038	2.2	2.5	草書
40	99	区域1A SX253	政和通寶	北宋	1111	1.6	2.4	真書
55	121	区域1A SX240	元豊通寶	北宋	1078	1.8	2.4	草書
57	128	区域1A SX359	寧宗元寶	北宋	995	2.9	2.5	草書
129	139	区域1A SX359	政和通寶	北宋	1111	2.3	2.4	草書
559	区域1A SX310	寧宗元寶	併	621	1.6	2.5		
560	区域1A SX310	寧宗元寶	北宋	995	3.7	2.5	行書	
561	区域1A SX310	寧宗元寶	北宋	995	0.8	2.5	行書	
562	区域1A SX310	寧宗元寶	北宋	995	2.4	2.5	草書	
563	区域1A SX310	大聖元寶	北宋	1023	2.1	2.4	真書	
564	区域1A SX310	寧宗元寶	北宋	1084	1.3	2.3	草書	
565	区域1A SX310	熙寧元寶	北宋	1068	2.7	2.5	真書	
566	区域1A SX310	熙寧元寶	北宋	1068	2.6	2.4	草書	

遺物一覧表 16

中世大友府内町跡第 96 次調査出土遺物一覧 (銅銭②)

調査番号	遺物番号	種類名	国・王朝名	初鋳年	重量(g)	直径(mm)	書体	備考
64	567	区域1A SX310	聖徳元寶	北史	1068	4.1	2.5	行書
	568	区域1A SX310	元氣通寶	北史	1086	2.5	2.4	行書
	569	区域1A SX310	元氣通寶	北史	1086	2.8	2.5	行書
	570	区域1A SX310	聖徳元寶	北史	1101	1.1	2.3	篆書
	571	区域1A SX310	聖徳元寶	北史	1101	1.8	2.4	篆書
	572	区域1A SX310	聖徳元寶	北史	1119	3.1	2.4	行書
	573	区域1A SX310	聖徳元寶	明	1368	2.3	2.4	行書
	574	区域1A SX310	聖徳元寶			2.3	2.3	
	575	区域1A SX310				2.6	2.4	
	576	区域1A SX310				1.1		
	577	区域1A SX310				2.8	2.4	
	578	区域1A SX310				0.6		
	579	区域1A SX310				0.9		
	81	580	区域1A SX310			1.8	2.3	
581		区域1A SX310			3.1	2.4		
582		区域1A SX310			0.5			
583		区域1A SX310			1.3		篆書	
80	706	区域1B H33 1B	聖徳元寶	北史	1034	2.9	2.5	篆書
	707	区域1B I35 融風 1B	聖徳元寶	北史	1068	2.9	2.5	行書
	708	区域1A H32 1A	元物通寶	北史	1078	2.8	2.5	篆書
	709	区域1A I36 1A	元氣通寶	北史	1086	3.1	2.5	行書
	710	区域1A H31 1A	大元通寶	金	1178	0.5		
	711	区域1B I34 1B	朝野通寶	李氏朝鮮	1423	2.3	2.4	
	712	区域1A H31 1A				2.6	2.4	
	713	区域1A H34 1A				0.6		
	714	区域1A H31 1A	寛永通寶	日本	1636	1.0		
	715	区域1B I35 1B	寛永通寶	日本	1639	2.3	2.4	
90	716	区域1A I34 1A	寛永通寶	日本	1639	1.4	2.6	
	738	区域2 SF070	聖徳元寶	北史	990	2.4	2.4	行書
	739	区域2 SF070	聖徳元寶	北史	1004	2.9	2.5	行書
	740	区域2 SF070	聖徳元寶	北史	1054	2.3	2.4	行書
	741	区域2 SF070	元氣通寶	北史	1086	1.8	2.5	篆書
	742	区域2 SF070				0.8		
	743	区域2 SF070				1.5		
	803	区域2 SK005	開元通寶	唐	621	2.8	2.4	
	804	区域2 SK005	咸平元寶	北史	998	2.6	2.5	
	805	区域2 SK005	聖徳元寶	北史	1004	3.1	2.5	
107	806	区域2 SK005	聖徳元寶	北史	1054	3.1	2.4	篆書
	807	区域2 SK005				4.4	2.5	
	808	区域2 SK005				2.5	2.4	
	832	区域2 SK027	開元通寶	唐	621	2.0	2.4	
	833	区域2 SK027	開元通寶	北史	1009	2.8	2.5	
	934	区域2 SK027	大業元寶	北史	1023	4.0	2.5	行書
	935	区域2 SK027	聖徳元寶	北史	1056	2.7	2.5	行書
	936	区域2 SK027	元物通寶	北史	1078	3.5	2.4	篆書
	937	区域2 SK027	聖徳元寶	北史	1101	2.9	2.5	行書
	938	区域2 SK027				2.3	2.5	
124	951	区域2 SK020	聖徳通寶	北史	1056	3.5	2.5	篆書
131	965	区域2 SK040			1.1			
139	1004	区域2 SK185			3.0	2.5		
118	1032	区域2 SK025	開元通寶	北史	1094	3.0	2.3	篆書
	1040	区域2 SK015	開元通寶	唐	621	1.9	2.3	
	1041	区域2 SK015	聖徳元寶	北史	1068	4.0	2.5	篆書
	1042	区域2 SK015	元氣通寶	北史	1086	3.5	2.4	行書
155	1054	区域2 SP073	聖徳元寶	北史	1101	2.1	2.5	篆書
	1055	区域2 SP104	大徳通寶	北史	1017	3.0	2.5	
	1056	区域2 SP177				3.6	2.4	
	1074	区域2 S091	永泰通寶	明	1408	2.1	2.4	
163	1100	区域2 SD119	聖徳元寶	北史	1004	3.2	2.5	
	1101	区域2 SD119	聖徳元寶	北史	1068	3.2	2.3	行書
166	1102	区域2 SD119			1.7			
	1157	区域2 S174	開元通寶	北史	1094	2.5	2.5	行書
171	1211	区域2 宮内庁・聖地蔵	咸平元寶	北史	998	3.0	2.5	
	1212	区域2 宮内庁・聖地蔵	開元通寶	北史	1032	2.1	2.5	行書
	1213	区域2 宮内庁・聖地蔵	開元通寶	北史	1038	2.8	2.5	篆書
	1214	区域2 宮内庁・聖地蔵	開元通寶	北史	1038	1.4	2.5	行書
	1215	区域2 宮内庁・聖地蔵	開元通寶	北史	1038	2.4	2.5	行書
	1216	区域2 宮内庁・聖地蔵	開元通寶	北史	1038	2.4	2.5	篆書
	1217	区域2 宮内庁・聖地蔵	開元通寶	北史	1038	2.4	2.5	行書
	1218	区域2 宮内庁・聖地蔵	開元通寶	北史	1038	2.6	2.4	行書
	1219	区域2 宮内庁・聖地蔵	開元通寶	北史	1038	2.1	2.4	行書
	1220	区域2 宮内庁・聖地蔵	聖徳通寶	北史	1056	2.8	2.5	行書
	1221	区域2 宮内庁・聖地蔵	聖徳元寶	北史	1068	2.9	2.4	行書
	1222	区域2 宮内庁・聖地蔵	聖徳元寶	北史	1068	3.5	2.4	行書
	1223	区域2 宮内庁・聖地蔵	元物通寶	北史	1078	2.7	2.5	篆書
	1224	区域2 宮内庁・聖地蔵	元物通寶	北史	1078	2.4	2.4	行書
	1225	区域2 宮内庁・聖地蔵	元物通寶	北史	1078	2.6	2.4	行書
1226	区域2 宮内庁・聖地蔵	元物通寶	北史	1078	2.2	2.4	行書	
1227	区域2 宮内庁・聖地蔵	聖徳元寶	北史	1101	3.0	2.5	行書	
1228	区域2 宮内庁・聖地蔵	聖徳元寶	北史	1101	3.3	2.5	行書	
1229	区域2 宮内庁・聖地蔵	聖徳元寶	北史	1101	3.0	2.4	行書	
1230	区域2 宮内庁・聖地蔵	政和通寶	北史	1111	3.2	2.5	行書	
1231	区域2 宮内庁・聖地蔵	政和通寶	北史	1111	2.5	2.4	行書	

中世大友府内町跡第96次調査出土遺物一覽(銅銭③)

図版番号	遺構名	種類	種別名	明・王朝名	初辨年	重量(g)	直径(cm)	書体	備考
179	1232 区域2	瓦片等・柳地蔵	伊武通寶	明	1368	2.5	2.3		
	1233 区域2	瓦片等・柳地蔵	伊武通寶	明	1368	1.3			
	1234 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			1.2	2.1		
	1235 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			1.7	2.3		
	1236 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			2.6	2.4		裏書
	1237 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			2.5	2.3		
	1238 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			3.1	2.4		
	1239 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			2.8	2.5		
	1240 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			2.0	2.5		
	1298 区域2	瓦片等・柳地蔵	開元通寶	唐	621	3.1	2.4		
	1299 区域2	瓦片等・柳地蔵	淳化元寶	北宋	990	2.2	2.4		裏書
	1300 区域2	瓦片等・柳地蔵	順徳元寶	北宋	1004	2.4	2.5		
1301 区域2	瓦片等・柳地蔵	崇徳元寶	北宋	1004	2.6	2.4			
1302 区域2	瓦片等・柳地蔵	祥符元寶	北宋	1009	2.6	2.5			
1303 区域2	瓦片等・柳地蔵	祥符通寶	北宋	1009	3.3	2.5			
1304 区域2	瓦片等・柳地蔵	祥符通寶	北宋	1009	3.0	2.5			
1305 区域2	瓦片等・柳地蔵	大聖元寶	北宋	1023	4.0	2.5		裏書	
1306 区域2	瓦片等・柳地蔵	大聖元寶	北宋	1023	2.5	2.5		裏書	
1307 区域2	瓦片等・柳地蔵	大聖元寶	北宋	1023	3.2	2.5		裏書	
1308 区域2	瓦片等・柳地蔵	大聖元寶	北宋	1023	3.1	2.5		裏書	
1309 区域2	瓦片等・柳地蔵	大聖元寶	北宋	1023	2.6	2.4		裏書	
1310 区域2	瓦片等・柳地蔵	大聖元寶	北宋	1023	3.4	2.5		裏書	
1311 区域2	瓦片等・柳地蔵	大聖元寶	北宋	1023	2.5	2.5		裏書	
1312 区域2	瓦片等・柳地蔵	大聖通寶	北宋	1038	2.4	2.5		裏書	
1313 区域2	瓦片等・柳地蔵	空元通寶	北宋	1038	2.9	2.5		裏書	
1314 区域2	瓦片等・柳地蔵	空元通寶	北宋	1038	2.6	2.4		裏書	
1315 区域2	瓦片等・柳地蔵	空元通寶	北宋	1054	2.5	2.4		裏書	
1316 区域2	瓦片等・柳地蔵	聖和元寶	北宋	1054	2.6	2.4		裏書	
1317 区域2	瓦片等・柳地蔵	聖和元寶	北宋	1056	3.2	2.4		裏書	
1318 区域2	瓦片等・柳地蔵	聖元元寶	北宋	1064	2.7	2.5		裏書	
1319 区域2	瓦片等・柳地蔵	聖元元寶	北宋	1064	3.4	2.4		裏書	
1320 区域2	瓦片等・柳地蔵	熙寧元寶	北宋	1068	1.7	2.4		裏書	
1321 区域2	瓦片等・柳地蔵	熙寧元寶	北宋	1068	2.6	2.5		裏書	
1322 区域2	瓦片等・柳地蔵	熙寧元寶	北宋	1068	2.9	2.4		裏書	
1323 区域2	瓦片等・柳地蔵	元豊通寶	北宋	1078	2.6	2.4		行書	
1324 区域2	瓦片等・柳地蔵	元豊通寶	北宋	1078	2.2	2.3		裏書	
1325 区域2	瓦片等・柳地蔵	元豊通寶	北宋	1078	2.8	2.5		行書	
1326 区域2	瓦片等・柳地蔵	元豊通寶	北宋	1078	3.4	2.4		行書	
1327 区域2	瓦片等・柳地蔵	元豊通寶	北宋	1078	2.9	2.4		裏書	
1328 区域2	瓦片等・柳地蔵	元祐通寶	北宋	1086	3.1	2.5		行書	
1329 区域2	瓦片等・柳地蔵	元祐通寶	北宋	1086	3.3	2.5		行書	
1330 区域2	瓦片等・柳地蔵	元祐通寶	北宋	1086	2.4	2.4		行書	
1331 区域2	瓦片等・柳地蔵	元祐通寶	北宋	1086	3.0	2.5		裏書	
1332 区域2	瓦片等・柳地蔵	元祐通寶	北宋	1086	2.5	2.4		裏書	
1333 区域2	瓦片等・柳地蔵	元祐通寶	北宋	1094	2.6	2.4		裏書	
1334 区域2	瓦片等・柳地蔵	紹聖元寶	北宋	1094	3.4	2.4		行書	
1335 区域2	瓦片等・柳地蔵	紹聖元寶	北宋	1094	2.6	2.5		裏書	
1336 区域2	瓦片等・柳地蔵	元符通寶	北宋	1098	1.7	2.2		裏書	
1337 区域2	瓦片等・柳地蔵	聖化元寶	北宋	1101	3.0	2.5		行書	
1338 区域2	瓦片等・柳地蔵	政和通寶	北宋	1111	3.1	2.5		裏書	
1339 区域2	瓦片等・柳地蔵	政和通寶	明	1368	2.9	2.4		裏書	
1340 区域2	瓦片等・柳地蔵	伊武通寶	明	1368	2.7	2.3			
1341 区域2	瓦片等・柳地蔵	伊武通寶	明	1368	2.8	2.4			
1342 区域2	瓦片等・柳地蔵	伊武通寶	明	1408	3.7	2.5			
1343 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			2.1	2.4			
1344 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			2.0	2.2			
1345 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			2.8	2.4			
1346 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			1.8	2.4			
1347 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			1.4	2.4			
1348 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			1.5	2.2			
1349 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			2.5	2.4			
1350 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			1.8	2.4			
1351 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			2.4	2.5			
1352 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			3.9	2.4			
1353 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			3.0	2.5			
1354 区域2	瓦片等・柳地蔵	無文銭			1.8	2.5			

中世大友府内町跡第96次調査出土遺物一覽(木製品)

図版番号	遺構名	種類	寸法(cm)			重量(g)	備考
			寸	幅	厚		
78	541 区域1A S31081下層	曲物直板	併	13.6	幅	厚	0.5
	542 区域1A S31081下層	曲物直板	長	7.8	幅	厚	0.7

中世大友府内町跡第96次調査出土遺物一覽(瓦)

図版番号	遺構名	種類	寸法(cm)			重量(g)	備考	
			長さ	幅	厚			
57	127 区域1A SE359	軒平瓦	長さ	2.5	幅	6	厚	3
116	818 区域2 SX022	軒平瓦	長さ	4.3	幅	5.0	厚	4.1
1069	1069 区域2 SD590	軒平瓦	長さ	9.2	幅	5.0	厚	1.8
1070	1070 区域2 SD590	塀	長さ	8.3	幅	8.1	厚	2.2
163	1075 区域2 SD146	軒平瓦	長さ	4.4	幅	16.2	厚	8.3

遺物一覧表 18

中世大友府内町跡第99次調査出土遺物一覧（土器・陶磁器①）

探検 番号	遺物 番号	器 種	生産地	法量 (cm) (口縁元値)			遺構名	備考	図帳 番号
				口縁	底径	高さ			
197	1	陶器	土瓶蓋	6.5	4.1	1.8	SD001		関西系陶器
	2	陶器	土瓶蓋	7.4	2.2	1.2	SD001		関西系陶器
	3	陶器	鉢				SD001		唐津系陶器
	4	京都系土師器	皿				SK005		水田耕作上
	5	土師質土器	埴輪				SK005		水田耕作上
	6	土師質土器	埴輪				SK005		水田耕作上
	7	土師質土器	埴輪				SK005		水田耕作上
	8	土師質土器	埴輪				SK005		水田耕作上
	9	土師質土器	埴輪				SK005		水田耕作上
200	10	陶器	碗		(4.9)	2.1+α	SK005		水田耕作上 唐津系陶器
	11	陶器	溝樋皿				SK005		水田耕作上
	12	瓦質土器	火鉢				SK005		水田耕作上
	13	瓦質土器	甕				SK005		水田耕作上
	14	陶器	鉢	壱前			SK005		水田耕作上
	15	陶器	皿	壱前			SK005		水田耕作上
201	17	陶器	白磁紅血 文様鉢	(4.4)		1.2+α	SD004		
	18	瓦質土器	文様鉢				SD004		
	19	陶器	甕				SD004		唐津系陶器
204	22	磁器	染付碗	伊万里 (11.6)		4.0+α	SD007		
	23	磁器	白磁碗		(4.8)	2.0+α	SD007		
205	25	磁器	染付皿	肥前 (5.6)		2.1+α	SD006		
	26	陶器	甕	壱前			SD006		
210	27	陶器	守り鉢				SD006		唐津系陶器
	29	土師器	皿	在池 (8.6)		1.7	SK026		
	30	京都系土師器	皿	(10.4)		2.1+α	SK026		
	31	磁器	青花皿	壱前			SK026		
	32	磁器	青磁碗	(12.0)		1.7+α	SK026		
	33	陶器	碗		4.5	5.2+α	SK026		
	34	瓦質土器	火鉢				SK026		
	35	陶器	守り鉢	壱前			SK026		
	36	陶器	大甕	壱前	(46.0)			SK026	
	211	37	土師質土器	埴	(17.8)	(9.8)	3.2	SD008	
38		京都系土師器	埴輪	(604)		1.7+α	SD008		
39		京都系土師器	皿	(10.2)		108+α	SD008		
40		京都系土師器	皿	(11.8)		3.0	SD008		
41		京都系土師器	皿	(16.0)		3.1+α	SD008		
42		磁器	青花碗				SD008		
43		磁器	青磁碗				SD008		
44		陶器	碗		5.0	3.2+α	SD008		
45		須恵器	甕				SD008		
46		陶器	守り鉢	壱前			SD008		
47		磁器	青磁碗				SF024		
215	48	磁器	青磁碗		(5.4)	1.5+α	SF024		
	49	磁器	白磁	ベトナム (6.8)		1.3+α	SF024		
	50	瓦質土器	土甕				SF024		
	51	陶器	甕				SF024		
	52	陶器	守り鉢	壱前			SF024		
	53	陶器	守り鉢	壱前			SF024		
	54	陶器	鉢	壱前 (18.2)		3.0+α	SF024		
	55	陶器	甕	壱前 (28.0)		6.0+α	SF024		
	58	土師質土器	埴	在池 7.7	5.0	2.5	SD023		40
	59	京都系土師器	皿	(10.0)		2.1+α	SD023		
219	60	京都系土師器	取碗	8.6		107+α	SD023		
	61	磁器	青花碗	漳州窯			SD023		
	62	磁器	碗				SD023		
	63	磁器	青花碗	漳州窯			SD023		
	64	磁器	青花碗	漳州窯			SD023		
	65	磁器	碗	景德鎮			SD023		
	66	磁器	青花皿		(5.8)	1.5+α	SD023		
	67	磁器	青磁碗		5.6	2.5+α	SD023		40
	68	磁器	白磁碗				SD023		
	69	磁器	白磁皿		6.0	1.4+α	SD023		
	70	陶器	大日鉢	瀬戸美濃 (11.6)		3.4+α	SD023		
	71	須恵器	文様鉢	(26.9)		3.2+α	SD023		東播系
	72	瓦質土器	鉢	(35.2)		6.2+α	SD023		
	73	陶器	甕	壱前 (12.0)		6.3+α	SD023		
	74	陶器	守り鉢	壱前			SD023		
	75	陶器	甕	壱前			SD023		
76	陶器	甕	壱前	(15.0)	5.5+α	SD023			

中世大友府内町跡第 99 次調査出土遺物一覧 (土器・陶磁器②)

探出 番号	遺物 番号	器 種	生産地	重量 (g)			遺跡名	備考	図版 番号
				口徑	底径	体高			
	78	土師系土器	坪		(14.4)		SD025		
	79	京都系土師器	小皿		4.6	107	3.0	SD025	
	80	京都系土師器	皿		(8.2)			SD025	
	81	京都系土師器	皿		(8.7)			SD025	
	82	京都系土師器	皿					SD025	
	83	陶磁器	碗					SD025	
	84	磁器	青花皿					SD025	
	85	磁器	青花皿		(10.4)			SD025	
	86	磁器	青花碗			(4.8)	1.5+a	SD025	40
	87	瓦質土器	火鉢					SD025	
	88	瓦質土器	火鉢					SD025	
	89	瓦質土器	火鉢		(37.6)			SD025	
	90	陶器	甕	備前				SD025	
	91	陶器	すり鉢	備前	(27.4)			SD025	
	92	陶器	すり鉢	備前				SD025	
	93	陶器	すり鉢	備前			(11.4)	SD025	
	94	陶器	すり鉢	備前				SD025	
	98	須恵器	坏					E4-d 皿層	
	99	須恵器	高付付坏		(9.7)		3.4+a	E3-c 皿層	
	100	須恵器	坏		(9.6)		1.4+a	E4-d 皿層	
	101	須恵器	長頸壺				4.1+a	E4-c 皿層	
	102	土師器	坏		(4.8)		2.4+a	E4-d 皿層ほか	
	103	土師器	坏		(14.6)		3.8+a	E4-c 皿層	
	104	土師器	坏		(14.1)		9.0	E3-b 皿層	
	105	土師器	坏		(15.4)		10.0	E4-c 皿層	
	106	土師器	坏		(8.6)		1.6+a	E4-d 皿層	
	107	土師器	坏					E4-d 皿層	
	108	土師器	蓋		(17.0)		1.1+a	E4-c d 皿層	
	109	土師器	蓋		(17.4)		1.5	F0-c 皿層	
	110	須恵器	長頸壺					E4-c 皿層	
	112	土師器	壺		(6.1)		6.0+a	E3-b 皿層	40
	113	土師器	甕		(15.5)		6.0+a	E3-d 皿層	
	114	土師器	甕		(16.0)		7.7+a	E3-c 皿層	40
	115	土師器	甕		(32.6)		20.5+a	E4-c 皿層	
	117	土師器	高坏		15.5	12.8	12.2	SK037	40
	118	土師器	高坏		(14.0)		3.8+a	SK037	
	119	土師器	碗		14.1		5.8	SK037	40
	120	須恵器	坏蓋		(14.0)		2.8+a	SK038	
	121	須恵器	提瓶					SK038	
	122	土師器	カマド		(23.4)		10.6+a	SK038	
	123	土師器	カマド		(40.)		15.7+a	SK038	
	124	弥生土器	甕					SD023	
	125	須恵器	蓋		(12.7)		1.1+a	SF024	
	126	土師器	坏		(13.2)		3.4+a	北塚E3-a	
	127	土師器	坏					E4-d	内側ス又付着
	128	古代土器	坏		(16.8)		3.8+a	SK026	
	129	土師器	坏		(8.5)		1.6+a	E4-c 水田耕作上	
	130	土師器	坏		(8.9)		1.8+a	E4-c 水田耕作上	
	131	古代土器	坏			6.4	1.5+a	E3-c 皿層	
	132	土師器	甕		(22.2)		8.9+a	SD023ほか	
	133	京都系土師器	皿		(5.1)		1.8	E2-c 中世包舎層	
	134	京都系土師器	皿		(7.8)		1.5+a	E2-b 水田耕作上	ス又付着
	135	磁器	青花皿	肥前	(10.7)		3.5+a	F0-a 皿層	
	136	磁器	青花皿	肥前			1.9+a	F1-b 皿層	
	137	磁器	青花皿	京徳鎮	(5.3)		1.2+a	F1-d 皿層	
	138	磁器	青花皿	肥前	(8.7)		1.8+a	F1-d 皿層	
	139	磁器	青花皿	京徳鎮			1.3+a	E2-b 水田耕作上	
	140	磁器	白磁碗		(15.8)		4.7+a	F1-d 皿層	
	141	磁器	白磁皿		(12.0)	6.8	1.8	F2-a 中世包舎層	
	142	磁器	青磁碗	鹿泉窯			5.2+a	E2-b 中世包舎層	
	143	陶器	華南三彩					E4-c 皿層	40
	144	陶器	華南餅作上				0.7+a	E2-b 水田耕作上	
	145	陶器	大目碗				4.2+a	F0-a 水田耕作上	
	146	陶器	大目碗	瀬戸美濃			4.6+a	E1-b 中世包舎層	
	147	陶器	碗	備前			5.0+a	F2-b 水田耕作上	
	148	陶器	甕	備前			5.0+a	E3-a 皿層	
	149	陶器	甕	備前			4.8+a	F2-bc	
	150	陶器	すり鉢	備前			5.1+a	E4-d 皿層	
	151	陶器	すり鉢	備前			4.2+a	E2-b 水田耕作上	

遺物一覧表 20

中世大友府内町跡第 99 次調査出土遺物一覧 (土鍾)

探出 番号	遺物 番号	種類	寸法 (cm) 〇は復元値			重量 (g)	遺構名	備考	図版 番号
			長さ	幅	厚さ				
219	77	土鍾	2.6+α	1.2	0.4	3.8	SD023		
227	116	土鍾	6.3	2.1	0.5	29.5	E3-c Ⅱ層		
	154	土鍾	6.5+α	2.3	0.5	33.5	F0-c Ⅱ層包合層		
	155	土鍾	4.7	2.1	0.6	19.7	E4-a Ⅱ層		
	156	土鍾	5.1	1.35	0.6	9.7	E4-c Ⅱ層		
	157	土鍾	5.0	1.2	0.3	5.1	E1-b Ⅱ層		
	158	土鍾	4.5	1.2	0.3	6.6	E4-c Ⅱ層		
	159	土鍾	4.1	1.6	0.5	12.0	F1-d 水田耕作土		

中世大友府内町跡第 99 次調査出土遺物一覧 (土製品)

探出 番号	遺物 番号	種類	寸法 (cm) 〇は復元値			重量 (g)	遺構名	備考	図版 番号
			長さ	幅	厚さ				
206	28	人形	4.7	5.0	1.7	S D006	魚に乗った人物		
233	153	人形	4.6	4.5	1.8	水田耕作土	牛に乗った人物		

中世大友府内町跡第 99 次調査出土遺物一覧 (石製品)

探出 番号	遺物 番号	種類	材質	寸法 (cm) 〇は復元値			重量 (g)	遺構名	備考	図版 番号
				長さ	幅	厚さ				
201	21	砥石		4.8	3.2	2.8	66.5	SD004		
223	95	砥石	結晶片岩	10.2	3.0	0.9	53.1	SD025		

中世大友府内町跡第 99 次調査出土遺物一覧 (ガラス製品)

探出 番号	遺物 番号	種類	材質	寸法 (cm) 〇は復元値			重量 (g)	遺構名	備考	図版 番号
				長さ	幅	厚さ				
223	96	不明	ガラス	2.0	1.8	1.0	SD025	No.10		

中世大友府内町跡第 99 次調査出土遺物一覧 (金属製品)

探出 番号	遺物 番号	種類	材質	寸法 (cm) 〇は復元値			重量 (g)	遺構名	備考	図版 番号
				長さ	幅	厚さ				
200	16	鉄砲玉		0.9	0.9	0.6	1.7	S X005 水田耕作土		
234	160	鉄砲玉		1.3	1.2	1.3	11.5	F 1-c 水田耕作土		
	161	鉄砲玉			1.2		10.1			
	162	鉄砲玉			1.2		10.0			

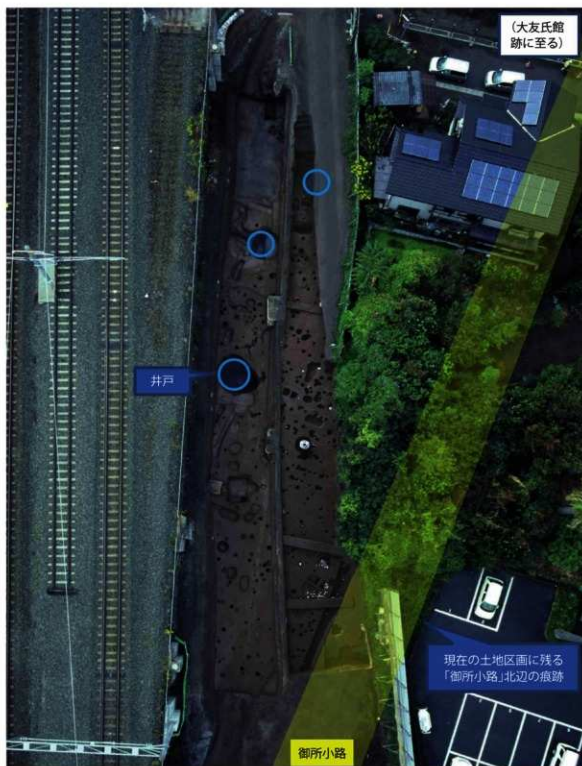
中世大友府内町跡第 99 次調査出土遺物一覧 (瓦)

探出 番号	遺物 番号	種類	寸法 (cm) 〇は復元値			重量 (g)	遺構名	備考	図版 番号
			長さ	幅	厚さ				
201	20	軒平瓦			3.7		S D004		
204	24	軒平瓦	2.2+α	5.6+α	3.6		S D007		
216	56	丸瓦	6.9+α	7.2+α	2.2		SD024		
	57	丸瓦	12.6	9.7	1.8		SD024		
233	152	平瓦	9.0+α	7.5+α	2.2		水田耕作土	古代瓦	

中世大友府内町跡第 99 次調査出土遺物一覧 (銭貨)

探出 番号	遺物 番号	銭貨名	国・王朝名	初隲年	重さ (g)	直径 (cm)	書体	遺構名	備考	図版 番号
224	97	聖宋元寶	北宋	1101	2.4	24.0		SD025		

写 真 图 版



区域1全景(合成写真・右が北)

上層遺構群の中で、16世紀末葉に比定される遺構群に着目したものが、上の写真である。

現在の土地区画の一部と「御所小路」北辺が重なる部分が認められ、この地点は戦国時代を起源とする境界ラインである可能性が考えられる。

柱穴列(または掘立柱建物跡)は「御所小路」と推定される道路遺構に対して垂直方向に伸びている。検出された柱穴群は建物跡と推定され、建物跡の背後には井戸(青い○印)が3基検出された。数多くの陶磁器や土師質・瓦質土器とともに、分銅なども出土している。当該時期の遺構のあり方は、典型的な「町屋」の様相を示している。豊後府内「御所小路町」の遺構群であろう。



区域1A全景(西から)



区域1B全景(西から)



SF530(御所小路)とSD400(側溝)



SF530(御所小路)・SD400(側溝)土層



SF530(御所小路)・SD400(側溝)土層近景



SX387(天正14年焼土層)



SX387(天正14年焼土層)中の土壁



SK388



SK508・SK509検出状況



SK508遺物出土状況



SK508土層



SK509(西から)



SK509(北から)



SK529



SK529遺物出土状況(骨・貝)



SK297



SK300



SK347



SK369



SK404



SK524



SK525



SK567



SK241土層



SK241完掘状況



SK253



SK275



SK311



SK314



SK315



SK356



SK371



SK399



SK405



SK406



SE240・SE353



SE507



SE359



SE359土層



SD236



SD357動物遺存体出土状況



SD360完掘状況



SD360土層



SD361・SD362



SD361遺物出土状況



SX237 (SD362の遺物集中地点)



SX390 (方形竪穴遺構)



SX310遺物出土状況(東から)



SX310遺物出土状況(西から、中央の穴は攪乱(テストビット))



SX310遺物出土状況(南西から)



SX310遺物出土状況(南東から)



SX310調査風景(南東から)



SX310調査風景(西から)



SX310掛仏出土状況



SX310遺物出土状況(左:曲物底板 右:柄杓か?木質は腐食し、取り上げ不能)



SX310遺物出土状況(漆器)



SX370



SP309(柱痕跡埋土に焼土を多量に含む)



SP386(埋土に焼土を含む。分銅出土)



SP397柱穴内礎石



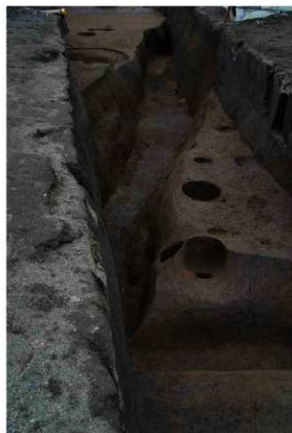
SD372



SD372土層

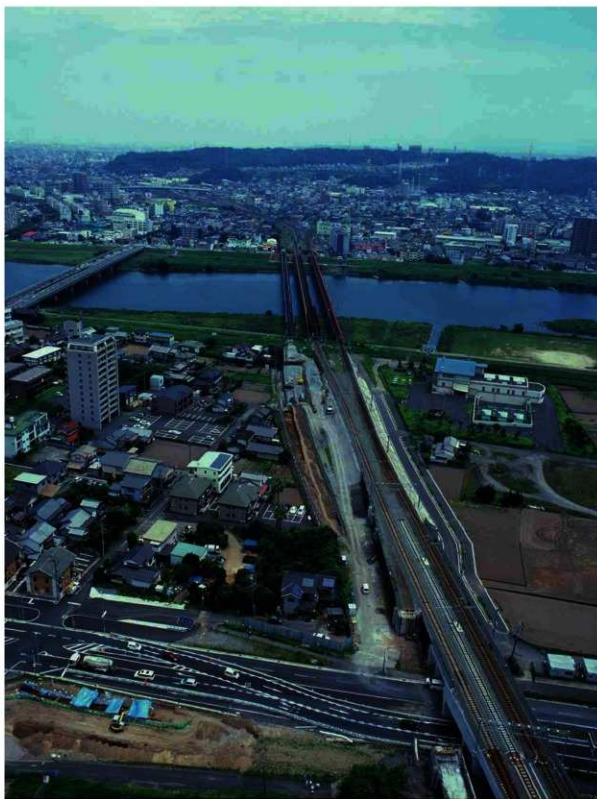


SD372土層(人物との対比)



SD372(下層遺構群の溝)

写真図版 14 (第96次調査)



中世大友府内町跡第96次調査区域1東半部(上空西から)

左下隅の調査区(ブルーシートが3枚見える場所)は同時期に行われていた第93次調査区



区域2東半部(上空から)



第1南北街路SF070(南西から) 第1面(1590年代～)



第1南北街路(南東から)



第1南北街路土層(北西から)



第1南北街路土層(北東から)



SX001



SK003・SK004



SX081



銅製紅皿(遺物番号729)出土状況



SD091とSX092～SX094



SX092



SX093



SX094



SK002検出状況



SK002完掘状況



SK005遺物出土状況



SK005完掘状況



SK013・SK014



SK013



SK014



SK225



SX007-SX008



SX008



SX017



SK021



SK023



SK046検出状況



SK046完掘状況



SK047



SK049



SK145



SK145土層写真(中層に多量のキサゴ類の堆積)



SK170



SK170遺物出土状況



SK183礫の出土状況検出状況



SK183下層遺物出土状況



SK202



SK205



SK206



SK210



SK214



SK218



SX025



焼土層SX027検出状況(西から)



焼土層SX027検出状況(東から)



焼土層SX027検出状況(北から)



礎石SX032・掘り込み遺構SX033
検出状況(西から)



礎石SX032検出状況(東から)



礎石SX032検出状況(北から)



第4面の溝遺構(南から)



第4面の溝遺構(東から)



SD0590



SD0590土層



SD095



SD091・SD123



SD146(左)とSD119(右)



SD091・SD123遺物出土状況



SD209



SD209土層



SD220



SD220



SD119



SD119遺物出土状況



SD174遺物出土状況(南から)



SD174遺物出土状況(南東から)



SD174遺物出土状況(近景①)



SD174遺物出土状況(近景②)



SK215



SK233



SB234(西から)



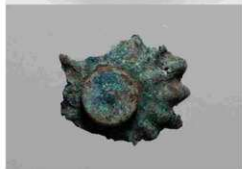
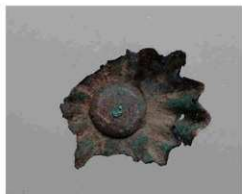
SB234(北から)



龍泉窯系青磁瓶 (1008)



懸仏本尊部(千手觀音像 537)



水晶玉(1292)



土製独楽(691)

銅製紅血(729)



中世大友府内町跡第99次調査区全景(東から)



両側に側溝をもつ道路跡(SF024)



SD001完掘状況(東から)



SD004検出状況(南から)



SX005検出状況(東から)



SD006完掘状況(南西から)



SD007完掘状況(北東から)



SD016完掘状況(西から)

写真図版 34 (第99次調査)



SD023、SF024、SD025
完掘状況(北東から)



DS023、SF024
完掘状況(南西から)



SF024、SK026完掘状況(北から)



SD023、SF024土層断面



道路面(SF024)の状況(南から)



SD023、SF024、SD025完掘状況



SF024, SD025 (南から)



礫を除去したSF024 (北から)



SD025, SF024完掘状況 (西から)



SD025発掘状況(西から)



SD025屈曲部(東から)



SD025土層断面①(東から)



SD025土層断面②(東から)



SD023土層断面(東から)



SD023, SF024, SD025
完掘状況(西から)



SK032完掘状況(北から)



SK037遺物出土状況



SK038完掘状況(東から)

SD023



古代包含層

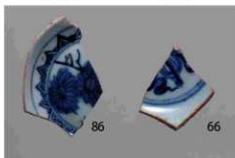


SK037

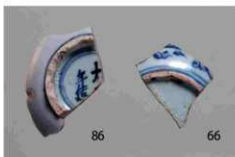


SD025

SD023



内面



外面



報 告 書 抄 録

ふりがな	ふんごふない19 ちゅうせいおおもふないまちあとだい96じ・99じちようさく
書名	豊後府内19 中世大友府内町跡第96・99次調査区
副書名	大分県付近連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	(10)
シリーズ名	大分県教育庁埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第83集
編著者名	後藤一重 吉田 寛 丸山真史
編集機関	大分県教育庁埋蔵文化財センター
所在地	〒870-1113 大分市大字中野田字ビワノ門1977番地 TEL 097-597-5675
発行年月日	平成27年(2015年)3月27日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中世大友府内町跡 第96次調査	大分市 鐘町3丁目	322	51	33°13'43"	131°37'10"	120511～ 130130	927	道路建設
中世大友府内町跡 第99次調査	大分市 鐘地町2丁目	322	51	33°13'42"	131°36'53"	121016～ 130221	385	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中世大友府内町跡 第96次調査	中世都市	中世	街路、側溝、土坑、 柱穴、土壇墓	陶磁器、土器	
中世大友府内町跡 第99次調査	中世都市	中世・古代・古墳	街路、側溝、土坑	陶磁器、土器	

要 約	<p>第96次調査のうち、上市町では第1南北街路とされる街路遺構を検出し、出土遺物や遺構の状況から、15世紀末から16世紀初め頃には粘質土と砂質土を交互に積み上げる特徴的な技法で造営されていることが分かった。また、御所小路町では、屋敷の区画と思われる溝や大量に捨てられたカワラケなどが発見され、15世紀代から16世紀中頃までは武家地として利用されていた可能性が高い。16世紀の終わり頃になると、御所小路の南側に柱穴やゴミ坑が造られるようになり、分銅なども出土することから、町屋（高工業者）の居住地となったと思われる。</p> <p>第99次調査では、府内町から町外へ続く道路跡を確認した。道路は両側に側溝を有するものである。これは本調査区の南東に隣接する第10次調査区で確認されていた道路の延伸部と思われる。道路はダイウス堂推定地の南西コーナーに沿うように屈曲し南北方向に走った後、再び屈曲し東西方に向きを変えて町外へのびる。また、ダイウス堂内部については、遺構が全く検出されなかった。</p>
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

豊後府内 19

中世大友府内町跡第 96・99 次調査区

大分県付近連続立体交差事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書(10)

大分県教育庁埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第 83 集

平成 27 年 3 月 27 日

編集・発行 大分県教育庁埋蔵文化財センター
〒870-1113
大分市大字中判田字ビワノ門 1977
TEL 097-597-5675

印刷 有限会社 中央印刷
〒870-0025
大分市顕徳町 2 丁目 2-38
TEL 097-532-3805
